



EMIRA
オーナーズハンドブック

EMIRA V6
EMIRA 4-CYLINDER

はじめに

ロータスファミリーへようこそ

ロータスは、革新、純粋、競争力という創業時の原則を、何十年にもわたる開発を通じて忠実に守り続けてきたという、ドライビングの象徴です。

あなたの新しいロータスは、精巧なハンドリングがもたらす高パフォーマンスいうロータス・スポーツカーの真の伝統を受け継いで誕生しました。レーストラックで培われ、ロードカーに期待されるダイナミックで妥協のないパフォーマンスを余すことなく実現する、本格的なドライバーズカーです。

その軽量な骨格、卓越した敏捷性、エアロダイナミクスに優れたスタイリングは、ライバルを大きく引き離す優れものです。余計なものは一切纏わず、妥協することなくパフォーマンスを発揮すべく設計され、ロータスレーシングの真のレガシーを踏襲したこの車と、ドライバーであるあなたが一体となれることをお約束します。

目次

はじめに

ロータスファミリーへようこそ	5
----------------	---

ハンドブック情報

オーナーズハンドブック	13
印刷版のハンドブック	13
ロータス・カーズのウェブサイト	13
カスタマーアシスタンス	13
このハンドブックのご利用にあたり	13
警告と注意事項	14
安全に関する情報	16
著作権情報	17
法的規約と個人情報保護に関する注意事項	17
事故イベントデータ	18
エンジンデータの記録	18
ソフトウェアの更新	18
車両識別情報	19
中央ディスプレイ	19
ウインドシールド	19
シャーシ	19
フロアパネル	19

車両概要

エクステリア	21
キャビン内ドライビングエリア	23
オーバーヘッドコンソール	25
ステアリングホイールのスイッチ類	26
センターコンソールコントロール	27
ドアコントロールパネル	28

安全性

シートベルト	30
慣性リールシートベルト	30
シートベルトプリテンショナー	30
シートベルトの着用	31
妊娠中のベルト着用	32
ドア/シートベルトのリマインダー	32
オーバーヘッドコンソール	33
子供の安全	33
子どもの拘束	33
適切なチャイルドシート	33
チャイルドシートの設置	34
後向きチャイルドシート	34
適切なチャイルドシート	35
エアバッグ安全システム	36
エアバッグ警告ランプ	36
シートベルトプリテンショナー	36
運転席および助手席エアバッグ	37
助手席エアバッグのスイッチ	38
助手席エアバッグの無効化	38
サイドエアバッグ	40
サイドエアバッグとチャイルドシート	40
カーテンエアバッグ	41
セイフティモード	41
ロック解除のオプション	45
キーフォブの作動範囲	45
ロック/ロック解除の確認	46
ロック&アラームインジケーター	46
ロック表示の設定	46
ロック	46
ロック解除	47
外側からドアを開ける	47
自動再ロック	47
自動ロック	48
キーフォブが機能しない	48
事故時のロック解除	48
インテリアドアロック/ロック解除	48
ドアスイッチ	48
発進後のロック	48
ロック解除-ドアリリースハンドル	49
キーフォブを使ったテールゲートの解除	49
スイッチを使ってテールゲートを解除	50
テールゲートのリフトアップ	50
テールゲートを閉める	50
荷物の重量	51
緊急リリースハンドル	51
キャビン内	51
トランク内	51
キーフォブが車両から離れた場合	52
キーフォブの電池	52
緊急キーブレード	54
キーブレードの再セット	54
車両アラームを無効にする	55
アラーム	56
アラーム警鐘信号	56
イモビライザー	56

キー、ロック、アラーム

キー	44
キーフォブの収納	44
キーフォブの追加注文	44
キーフォブの紛失・盗難	44
キーフォブのリマインダー	44
キーフォブのボタン	45

ロック&アラームインジケーター	56	ロータス・ローンチコントロール	73	ドライバーアシスタンス		
モーションセンサーとチルトセンサー	57	ロータス・ローンチコントロールの準備	73	クルーズコントロール	86	
アラームシステムの故障	57	ドライバーディスプレイのウィジェット				
アラームの起動	57	ウィジェットのオプション	76	クルーズコントロールを続行	87	
アラームの解除	57	トリップコンピュータ	77	アダプティブルーズコントロール	88	
稼働中のアラームをオフにする	58	オドメーター画面	77	ドライバーディスプレイ	90	
アラームの自動再起動	58	オドメーター	77	クルージング速度を上げる	92	
アラームレベルの低減	58	トリップAとBの画面	77	時間間隔	94	
アラーム/ロックプリセットのオプション	59	トリップA	77	スピードリミッター(調整式)	96	
ディスプレイ、アラーム、ゲージ					スピードリミッター(自動)	98
ドライバーディスプレイ	61	トリップB	77	パークアシストシステム	101	
ツアーモード	61	性能	78	パークアシストシステムセンサーの洗浄	102	
スポーツモード	61	G-フォースメーター	78	パークアシストシステムのプリセット	102	
トラックモード	62	パフォーマンスゲージ	78	パーキングアシストカメラ	103	
表示記号	62	ダウンフォースゲージ	78	パーキングアシストとカメラのオプション	103	
インジケーター・チェック	62	トラックツール	78	エラーメッセージ	104	
アラーム記号の点灯	62	ラップタイマー	79	疲労アラート	105	
システム状態を表す表示記号	63	車両状態	82	車線逸脱警告	106	
アラーム記号の点灯	64	タイヤ空気圧	82	交通標識の認識	108	
メッセージ	66	エンジンオイルレベル*	82	リアクロストラフィックアラート	110	
燃料ゲージ	67	車両ステータス	82	死角検知システム	111	
エンジン冷却水温度計	68	通知	82	ドアオープン警告	113	
時計	68	メディア	83	前方衝突警告	114	
外気温度	69	ラジオ	83	自律型緊急ブレーキ	116	
速度計	69	Bluetooth	83	カメラとレーダーの情報	119	
タコメータ	69	Apple CarPlay	83	限度	119	
冷間時のエンジン回転数	70	Android Auto	83	改造	119	
パフォーマンス・ギアshift・ライト	70	マイミュージック	83	クリーニングとメンテナンス	120	
ギア表示	72	電話	84	カメラとレーダーの限界	120	
ギアshiftインジケーター	72	最近の通話	84	フロントバンパーレーダー	121	
ドライブモード表示	72	お気に入りの連絡先	84	車速	121	
				視野	121	
				カメラ	121	

目次

視界の障害	121	方向指示器	144	自動昇降	152
中央ディスプレイ画面		トリップAリセット	144	挟み込み防止機能	152
中央ディスプレイの概要	124	ハザードランプ	145	ドアミラー	153
ナビゲーションを表示	125	ブレーキライト	145	ドアミラーガラスの調整	153
ディスプレイ操作	125	緊急ブレーキライト	145	インテリア バックミラー	155
自動起動/自動解除	126	リバースライト	146	手動調光	155
手動解除	126	アプローチライト	146	自動調光ミラー	156
照明	126	ホームセーフティライト	146	サンバイザー	156
デバイスの投影	126	照明の故障	147		
通知センター	127	エクステリアライトのプリセット	147	キャビン内収納と電源ソケット	
グローバル設定とアプリのオプション	128	インテリアライト	147	グローブボックス	158
クイックパネル	131	オーバーヘッドコンソールスイッチ	147	ドアポケット	159
アプリランチャー	132	インテリアライト	147	ラゲッジネット	159
システム設定	133	グローブボックス照明	147	リアキャビンネット	159
安全なデコミッショニング	133	バニティミラーライト	147	センターコンソールネット	159
言語設定	134	トランク内のライト	147	電源ソケット	159
キーボード	134	アンビエントライティング	148	12ボルト電源ソケット	159
ウィジェット	137	カーテシーライト	148	USBポート	160
ドライバーのプロファイル	138	グランドライト	148		
新規プロファイルの追加	138	明るさの調整	148	シートとステアリングホイール	
プロファイルを削除する	139	ウインドシールド、ウインドウ、ミラー、サンバイザー		シート	163
PINコードの誤り	140	ワイパー/ウォッシャー	150	パワーシート	163
所有権の変更	140	ワイパー	150	シート/ドアミラーメモリースイッチ	164
プロファイルの編集	140	断続ワイプ	150	シートのフォールド	165
照明		連続ワイプ	150	ホーン	165
エクステリアライト照明スイッチ	142	ステアリングホイールの調節	165	電子ステアリングコラムロック	166
デイタイムランニングライト	142	レインセンサーワイプ	151		
ヘッドライトハイビーム/ロービーム	143	オートカーウォッシャー	151	クライメートコントロール	
アクティブ・ハイビーム	143	ウインドウウォッシャー	151	クライメートコントロールシステム	168
リアフォグライト	144	ウォッシャー液のレベル	151	クライメートコントロールスイッチ	168
		パワードア ウィンドウ	152		

エアコン	168	その他のトランスミッションのオプション	186
気温	169	オートマチックトランスミッション	186
空気分布	169	デュアルクラッチ・トランスミッション	186
デミスター	170	システムモードオート選択	186
ヒーテッドドアスクリーン/ドアミラー	170	ギアセレクター	186
空気再循環	171	ギアの選択	187
オートクライメート	171	P-パーク	187
自動温度設定	172	オートパークアクティベーション	188
クライメートファン	172	R-リバース	188
通気口	173	N-ニュートラル	188
通気口の調整	173	D-ドライブ	188
花粉フィルター	173	不適切なPRNDの選択	188
花粉フィルターの交換	173	マニュアルモードのドライブ選択	189
インテリア空気洗浄システム	174	キックダウン	189
アクティブ電気モジュール冷却	174	トランスミッションアラームメッセージ	189
中央ディスプレイ	175	手動選択モード	189
ブリセットバー	175	パーマネントマニュアルモードの起動	190
ナビゲーションバー	176	ギアセレクターを使う	190
ファン速度	177	テンポラリーマニュアルモードの起動	191
ヒートシートの温度	177	不適切なギア選択	191
最大 A/C	177	テンポラリーモードからパーマネントモード	192
始動と運転		ヘ	192
イグニションモード	181	マニュアルモードを解除ギアセレクターを使う	192
電子ステアリングコラムロック	181	スポーツ&トラックモード	192
エンジンの起動	182	ブレーキシステム	193
アルコールインターロック	183	フットブレーキ	193
緊急起動	183	ブレーキペダル	194
エンジンのスイッチを切る	184	ブレーキパッド	194
マニュアルトランスミッション	184	アンチロックブレーキシステム	194
リバースギアの選択	185	ハイドロリック・ブレーキ・アシスト	195
クラッチペダル	185	トラクションコントロールシステム	196
		エレクトロニック・スタビリティ・コントロール	
		196	
		ドライブモード	197
		電動パーキングブレーキ	197
		緊急ブレーキ	198
		パーキングブレーキの起動	198
		自動起動	198
		パーキングブレーキの解除	199
		オートマチックの解除	199
		ヒルスタートアシスト	199
		ドライブモード	200
		ツアーモード	200
		スポーツモード	200
		トラックモード(装備の場合)	201
		ESC「オフ」	201
		デフォルトのドライブモード設定	202
		ドライブモードの変更	202
		ならし運転	
		エンジン	206
		ブレーキ	206
		タイヤ	206
		エンジンを停止する	206
		燃料給油と燃料	
		フューエルフィラーキャップ	208
		燃料給油	208
		ガソリンスタンドの使用	208
		燃料缶の使用	209
		燃料要件	209

目次

車両の管理	
アクセサリーと改造	211
車両の格納	211
格納後	211
車両カバー	212
オーナーのメンテナンス	213
トラック走行	213
一般的の安全性	213
整備点検の通知	214
点検通知のリセット	214
日々の確認	215
定期点検	215
冬季、ぬかるみなど	215
フロントアクセスパネル	216
ロック解除/開ける	216
閉める/ロックする	216
エンジンルーム エミーラ V6	217
エンジンオイルのレベル点検	221
エンジンオイルの補充	223
ウインドウォッシャー・リザーバー	223
液の充填	223
ワイパー/ブレードの取替え	224
エンジン冷却水	225
液の充填	225
チャージクーラー膨張タンク	226
ステアリングフルードリザーバーエミーラ V6 .	226
ステアリングフルードリザーバー	227
ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検	227
液の充填	228
タイヤ	228
タイヤ点検	228
摩耗インジケーター	229
推奨のタイヤ空気圧	229
低温でのタイヤ点検	229
トラック走行のタイヤ空気圧	229
ミシュランパイロットスポーツカップ2のタイヤ	230
タイヤの空気圧の調整	230
タイヤ交換	231
ウインターフィヤ	231
スノーチェーン	232
タイヤインフレーターキット	232
タイヤ空気圧監視システム	235
システム故障	236
タイヤ空気圧監視システムの較正	237
ホイールの交換	238
ホイールの取り外し	238
ホイールの取り付け	239
車両のリフト	240
バッテリー	241
バッテリーアクセス	241
バッテリー交換	241
バッテリーの廃棄	242
充電	242
ジャンプスタート	243
ヒューズ	244
ヒューズボックスの場所	244
ヒューズの交換	244
フロントヒューズボックス	245
フットウェル・ヒューズボックス	249
リアヒューズボックス	253
バッテリーヒューズボックス	257
エクステリアランプ	258
フロントランプ	258
リアランプ	258
車両の牽引	259
牽引アイボルトの使用	259
車両輸送車による牽引	260
車両の固定	260
車両牽引	260
オートマチック車の牽引	260
トレーラーの牽引	260
エクステリアクリーニング	261
手洗い	261
車体底部の洗浄	262
タールスポット	262
ウインドシールドの清掃	262
エンジンルームの清掃	262
アロイロードホイール	263
エクステリアライト	263
パークアシストシステムセンサー	263
パークアシストカメラレンズ	263
レーダーユニット	263
塗装ボリッシュ	264
インテリアクリーニング中央ディスプレイ	264
布製のトリム	265
レザー&ビニールトリム	265
Alcantara [®] トリム	265
シートベルトのクリーニング	266
フットウェルのクリーニング	266
シルトリム	266
ドアロック	266
過酷な使用条件	267
推奨の潤滑剤	267

テクニカルデータ

推奨のフルードおよび潤滑剤	269
容量	271
WLTP数値	271
燃費	271
CO ₂ 排出量	271
無鉛燃料要件	271
燃費	271
CO ₂ 排出量	271
無鉛燃料要件	271
エンジンデータ	272
エンジンデータ	272
寸法	273
重量	273
バッテリー	274
タイヤ	275
スノーチェーン	275
索引	277

ハンドブック情報

オーナーズハンドブック

オーナーズハンドブックは、デジタル版と印刷版をご用意しています。エミーラのモバイルアプリおよびロータス・カーズのウェブサイトからご利用ください。

クイックガイドには、車両で最もよく使われる機能に関する情報を記載しており、印刷したものを車両と一緒に渡します。こちらを電子版または印刷版のオーナーズハンドブックと合わせてご利用ください。

印刷版のハンドブック

オーナーズマニュアルの完全印刷版は、ロータスのディーラーにてご注文いただけます。

ロータス・カーズのウェブサイト

車両に関する詳しい情報やサポートは、グループ・ロータスのウェブサイトをご覧ください。

ウェブページはこちらです。lotuscars.com
サポートはほとんどの市場にてご利用いただけます。

カスタマーアシスタンス

グループ・ロータスのウェブサイトには、カスタマーサポートの連絡先やロータス・ディーラーのネットワークが記載されています。

このハンドブックのご利用にあたり

車両を初めて運転する前に、このハンドブックをお読みください。

内容には、お客様を傷害から保護するための重要な安全情報、運転操作の説明と手順、オーナー様によるメンテナンスの必要性、技術仕様、保証の説明などが含まれています。本書は整備に必要なすべての技術情報を提供するものではありませんので、調整が必要な場合はロータスのディーラーにご相談ください。車両の整備を正しい期日で行なうことは、保証の要件であり、オーナーやドライバーの方の責任です。

特定の機能や項目に関する情報を検索するには、本書の目次(6ページを参照)と巻末のアルファベット順の索引をご利用ください。

本書に掲載されている情報は、本書印刷時点において正確なものとします。ロータスには、常に継続的に製品改良するという方針があり、本書に記載されている内容に関して、予告なく仕様、デザイン、機器の廃止や変更を行う権利を有しています。ロータスの正規ディーラーと定期的に連絡を取り、車両の仕様や、性能、安全性を向上させる可能性のある技術開発について常に情報を入手するようしてください。

ハンドブック情報

本ハンドブックはさまざまなモデルを対象としていますので、お客様の特定の車両にはない装備や機能についての説明も含まれている場合があります。

警告と注意事項

ハンドブックに含まれるもの

車両の表示

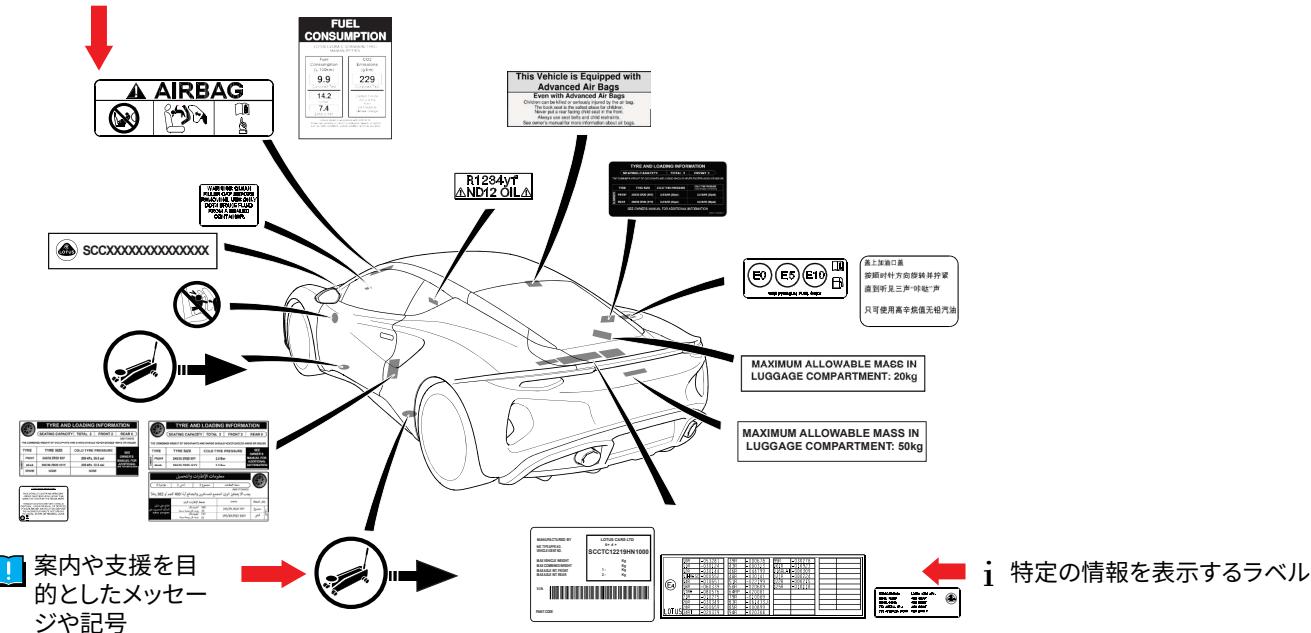
車両には警告と情報を示す表示があります。ラベルやメッセージは、モデルの種類や市場によって異なる場合があります。

 **アラーム:** 安全アラーム記号で示し、運転者、他の乗員、他の道路利用者または傍観者が死亡または重傷を負う危険性があることを示します。

 **注意:** メッセージは、車両、他の資産、または環境への損害を避けることを目的としています。

 **注記:** メッセージは、他の情報源にアクセスするために受信者を支援または案内することを目的としています。

 アラーム: 危険があることを示すメッセージなので、無視すると重大な人身事故や死亡事故につながる可能性があります。



ハンドブック情報

安全に関する情報

⚠ アラーム: 本項目の次の段落には、安全に関するメッセージが記載されています。

- すべての乗員はシートベルトを着用する必要があります。
- アルコールや薬物の影響下にあるときは、絶対に運転しないでください。
- 疲労しているときは決して運転しないでください。
- 運転中は、携帯電話の使用や地図を読むなど、気の散るような行為は絶対にお避けください。
- 運転中はインフォテインメントの設定を調整してはいけません。
- 常に交通法規を遵守し、現地の制限速度を超えないこと、また交通状況や道路状況を考慮してください。
- 滑りやすい路面や濡れた路面での運転には特に注意してください。
- 経験を積むまでは、車両の性能をフルに発揮することは控え、合法的で安全な状況でのみ使用するようにしてください。

- 整備のスケジュールを遵守し、車両を良好な状態に保ってください。
- 幼い子供を注視することなく車内に残してはいけません。
- このハンドブックの安全に関するメッセージをすべて読み、従ってください。
- アクセサリーや改造については、211ページをお読みください。

⚠ アラーム: 運転中は中央スクリーンの画面に気を取られないようにしてください。事故を起こす要因となります。

キーボードの使用、住所や連絡先の入力など、特定のオプションを使用する前には停車するようにしてください。

車両を運転する前に

ご出発の前にはいつも：

- タイヤの損傷、摩耗、空気圧が適正かどうかを確認してください。空気圧が適当でないと、車両の操縦性が劣ります(228ページの「タイヤ」の項目を参照)。
- ウィンドー、ミラー、カメラレンズ、ライトがいずれもきれいな状態で遮るものはないか、またすべてのライトが正しく作動しているかを確認してください。
- フロントボディアクセスパネルの固定具がしっかりと固定されていることを確認します。
- シートとミラーを調整し、制御方法をよくご理解ください。
- すべての計器類と表示ランプが正しく点灯していることを確認してください。
- すべての乗員がシートベルトで適切に拘束されていることを確認してください。

著作権情報

Bluetoothのワードマークとロゴは Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ロータス・カーズによるこれらのマークの使用は、ライセンスに基づくものです。また、その他の商標および商号は各所有者のものです。

Apple CarPlay、iPhone、iPodはApple Inc.の商標です。

Android™およびAndroid Auto™は、Google LLCの商標です。

法的規約と個人情報保護に関する注意事項

車両機能を使用するにあたって適用される以下の法的文書をご確認いただけます。

- ロータス・カーズ・リミテッド ライセンス 同意書
- ロータス・カーズ・リミテッド 個人情報 保護方針
- その他のライセンス、使用条件、および プライバシー通知に関する情報

以下のウェブページよりご覧ください。

[https://www.lotuscars.com/en-GB/
emira-privacy](https://www.lotuscars.com/en-GB/emira-privacy)

ハンドブックの画像

本ハンドブックに記載のドライバーディスプレイおよび中央ディスプレイのメニューオプションのスクリーン画像は、一部、出版物に合わせるために再編成されています。

ハンドブック情報

事故イベントデータ

自動車の衝突や事故に関する情報を記録することが主な目的です。記録されたデータから、事故や負傷が発生する状況をより深く知ることができます。記録される情報の一部は、整備やメンテナンスの際に車両の故障を診断し、修正するために必要なものです。

また、ロータスが品質と安全性を継続的に開発するための、研究上の理由でも使用されます。

ロータスでは、警察当局など(またこれには限定されません)の法的権利を主張する政府機関に対して、他の種類の記録データを開示を求められる場合があります。

エンジンデータの記録

さまざまな運転パラメータは、特定の電子制御モジュールによって継続的に監視・記録されています。このデータは、ロータス・ディーラーが必要に応じてダウンロードし、故障診断の補助や車両の不正使用の特定に役立てることができます。

ソフトウェアの更新

ロータスでは、継続的改善の一環として、ソフトウェアを更新開発しており、お客様がロータス正規ディーラーに訪問の際にこの更新ソフトウェアをエミーラにインストールできる場合があります。エミーラに適用される更新やどのシステムが更新されるかにつきましては、エミーラのアフターサービスに認定された、ロータス正規ディーラーのワークショップをご利用の際にお客様へご説明することになっております。

 **注記:**ソフトウェア更新後、一部の車両システムで機能が異なる場合があります。

車両識別情報

V.I.N.(Vehicle Identification Number)は、車内の4カ所に分かれて配置されています。スペアパーツの注文時やロータス・カーズへの問い合わせ時に、V.I.N.の提出を求められることがあります。

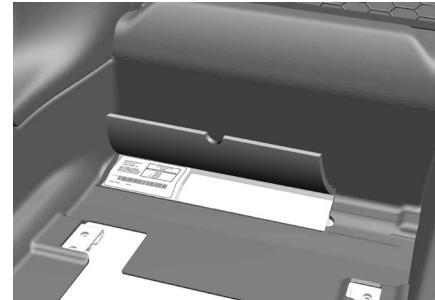
中央ディスプレイ

中央ディスプレイのサイドバーから、>グローバル設定とアプリのオプション>一般>車両情報を選択します。124ページの中央ディスプレイ情報を参照してください。



ウインドシールド

車外から見てウインドシールドの右側、ダッシュボードに貼付されています。



フロアパネル

右側シート後方のフロアに貼付の刷ラベル。カーペットのラップを引くと表示があります。

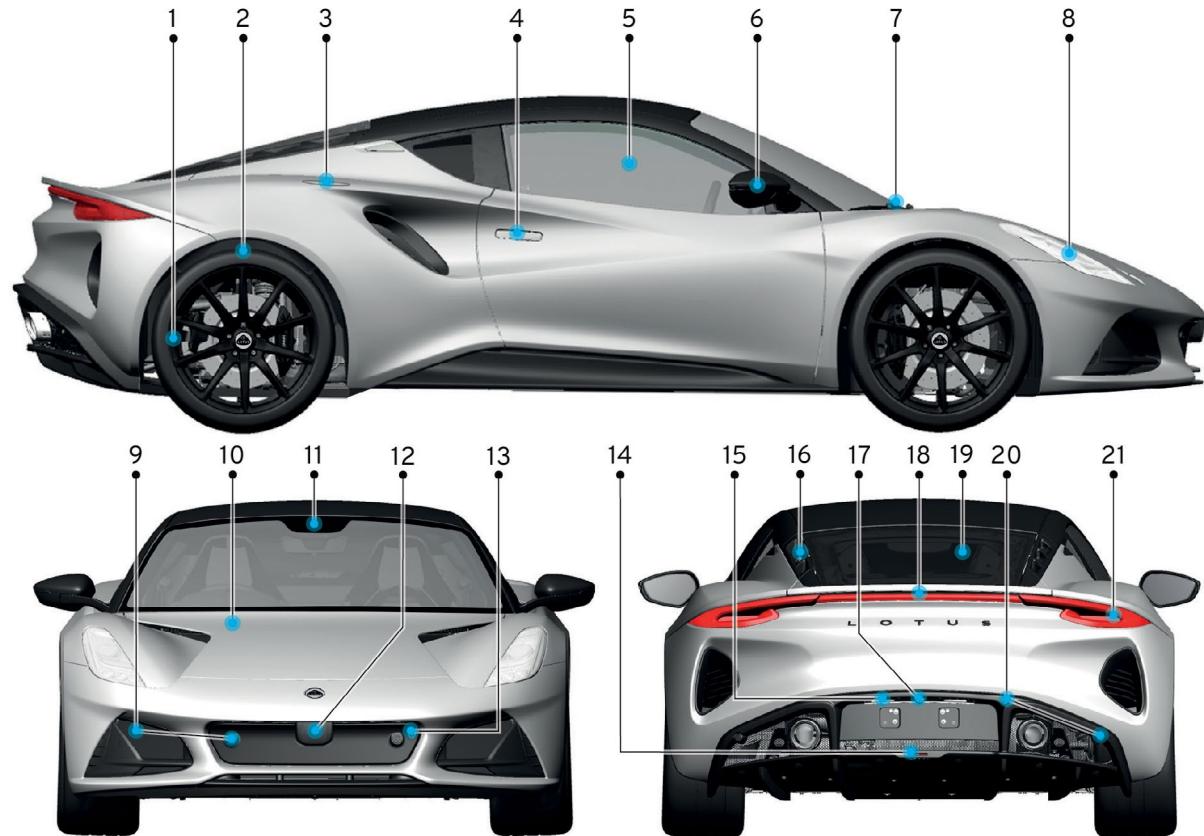


シャーシ

右側シート下のクロスメンバーに刻印されており、シートを後方にずらすとアクセスできます。

車両概要

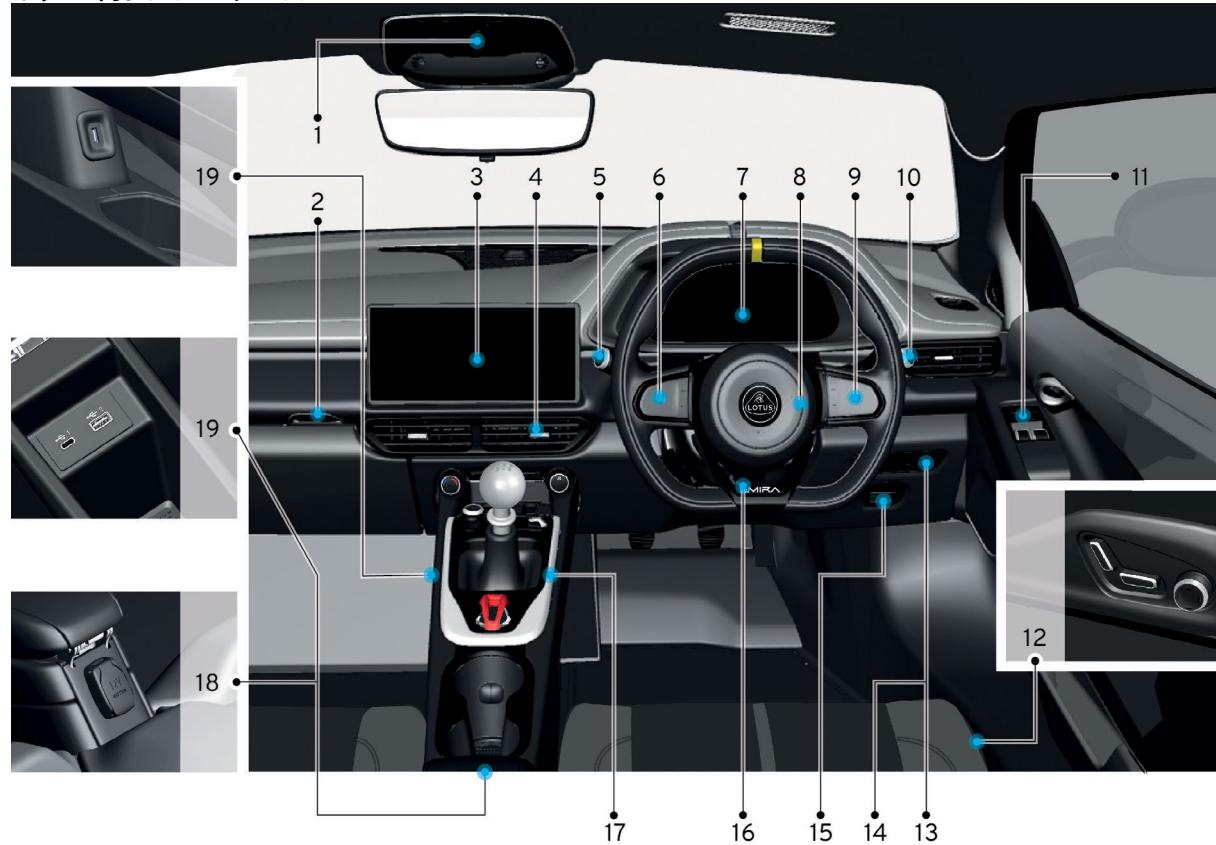
エクステリア



車両概要

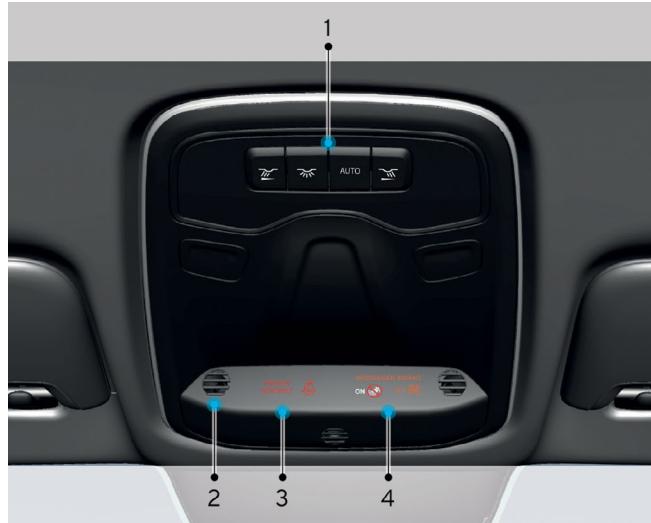
エクステリア	ページ
1 ホイール	238
2 タイヤ	228
3 フューエルフィラーキャップ	208
4 ドアノブ	47
5 ドアガラス	152
6 ドアミラー	153
7 ウィンドシールドワイパーブレード	224
8 エクステリアランプ-フロント	258
9 パーキングセンサー-フロント(左右両側に装着)	101
10 フロントアクセスパネル	216
11 フロントカメラ(装着の場合)	119
12 フロントレーダー(装着の場合)	119
13 リカバリーマウントポイント	259
14 リバース/リアフォグランプ	258
15 ナンバープレートランプ	258
16 テールゲート	50
17 リアパーキングアシストカメラ	103
18 セントラルハイマウントブレーキランプ	258
19 ヒーテッドリアスクリーン	170
20 パーキングセンサー-リア(左右両側に装着)	101
21 エクステリアランプ-リア	258

キャビン内ドライビングエリア



車両概要

キャビン内ドライビングエリア	ページ
1 オーバーヘッドコンソール/バックミラー (USBポート含む)	25/155/161
2 グローブボックス	158
3 中央ディスプレイ	124
4 通気口	173
5 エクステリア照明/トリップAリセット	142/144
6 左側キーパッド	86
7 ドライバーディスプレイ	61
8 ホーン	165
9 右側キーパッド	76
10 ウィンドシールドワイパー/ウォッシャー	151
11 ドアコントロールパネル	28
12 シートコントロール	28
13 ディスプレイ照度調整	148
14 テールゲート解除	50
15 電動パーキングブレーキ	197
16 ステアリングコラムアジャスター	165
17 センターコンソールコントロール	27
18 補助電源ソケット	159
19 USBポート(アームレストとフロント下部センターコンソール)	159



オーバーヘッドコンソール

1 インテリア照明ボタン	ページ
2 マイク(インフォテインメントガイドを参照してください)	147
3 パッセンジャー・エアバッグステータスインジケーター	38
4 シートベルトステータスインジケーター	33

車両概要

ステアリングホイールのスイッチ類



左側キーパッドスイッチ

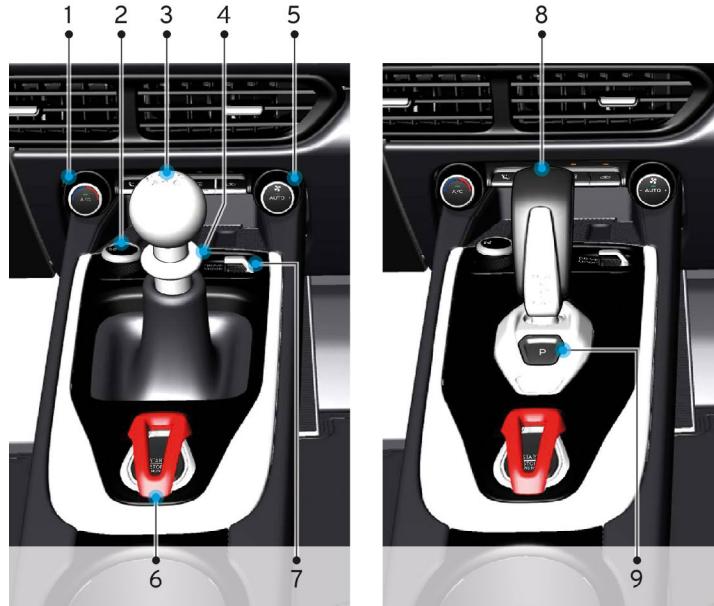
- | | |
|---------------------------------|--------|
| 1 < > 左/右スクロール | ページ 86 |
| 2 + 車速レジューム/加速 | ページ 87 |
| 3 ≡ アダプティブクルーズコントロール
(装備の場合) | ページ 88 |
| 4 ≡ インフォテインメントガイドを参照
してください。 | |
| 5 ○ スクロールして確認 | ページ 76 |

センターパッド

- | | |
|---------------------|---------|
| 6 ⚒ ホーン | ページ 165 |
| 7 AIRBAG ドライバーエアバッグ | ページ 37 |

右側キーパッドスイッチ

- | | |
|----------------|--------|
| 1 < > 左/右スクロール | ページ 76 |
| 2 ⌂ 上/下スクロール | ページ 76 |
| 3 ⌂ 音量の上げ/下げ下 | ページ 76 |
| 4 ≡ メニュー/オプション | ページ 76 |
| 5 ○ スクロールして確認 | ページ 76 |



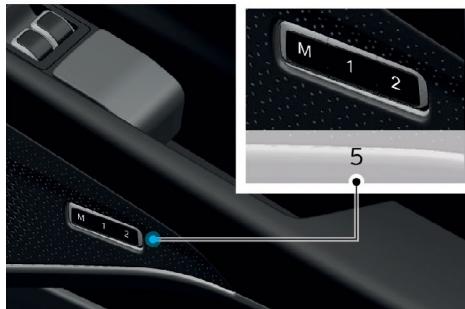
センターコンソールコントロール

	ページ
1 気温-エアコンスイッチ	168
2 音量/再生/一時停止ボタン	126
3 マニュアルギアシフトレバー	184
4 ハザードランプ	145
5 オートクライメートと送風スイッチ	171
6 エンジンスタート/ストップボタン	182
7 ドライブモードスイッチ	200

エミーラV6オートマチックトランクミッションと
エミーラ4気筒セレクターレバー

8 ギアセレクター	186
9 P-パークボタン	187

車両概要



ドアコントロールパネル

	ページ
1 ドアロック解除ボタン	48
2 ドアロックボタン	48
3 ドアミラー調整ボタン	153
4 パワードアウンドウスイッチ	152
5 シートメモリスイッチ(装備の場合)	163

安全性

安全性

シートベルト

 **アラーム:** シートベルトを着用せずに急ブレーキをかけると、重大な人身事故の原因となることがあります。

慣性リールシートベルト

慣性リールシートベルトは、通常の運転では上半身の前方移動が可能ですが、ブレーキ時、加速時、コーナリングフォース、衝突時の衝撃により自動的にロックします。また、車両が任意の方向に傾いた場合にもロックがかかります。

シートベルトプリテンショナー

エアバッグシステムが作動するほどの激しい前面衝突が起った場合、両フロント席シートベルトのリトラクター内のプリテンショナーが作動してベルトを締め付け乗員を保護します。

 **アラーム:** シートベルトは、エアバッグシステムと連動するように設計されています。シートベルトが使用されていない、または誤って使用されている場合、衝突時にエアバッグによる保護機能が低減する可能性があります。

 **アラーム:** 車両が激しい衝撃を受けた場合、シートベルトのアセンブリの損傷が明らかでなくても、ベルトアセンブリ全体を交換し、シートベルトのアンカレッジポイントを確認することが不可欠です。シートベルトにほつれや汚れ、損傷が生じた場合は、ベルトを交換する必要があります。定期的に点検してください。

 **アラーム:** シートベルトが機能していない座席には、誰も座ってはいけません。



アラーム: シートベルトの点検や整備を怠ると、必要なときに正しく作動しないことがあります。ベルトは定期的に点検し、問題があればすぐに修理してください。



アラーム: シートベルトを改造したり、何かを追加してはいけません。



アラーム: バックルに異物を差し込まないでください。衝突の際、シートベルトが意図したとおりに機能しない場合があります。

シートベルトの着用

運転前、ドライバーと乗員は必ずシートベルトを着用し、また適切に着用していることを確認してください。

快適な座り心地を確保し、車両の制御装置、フットペダル、ステアリングホイールに容易に手が届くことを確認してください。
163ページをご覧ください。

装着



1. 背筋を伸ばし、シートに完全に腰掛けてください。シートベルトのタングプレートを持ち、リトラクターからベルトを引き出して身体を横切るようにします。
2. ベルトを体に巻きつけてから、ベルトのタングをシートのインボード側にあるバックルロックに「カチッ」という音がするまで押し込んでください。

3. ベルトを引っ張り、正しくラッチされることを確認し、ベルトが身体にしっかりとフィットし、リールのたるみがないことを確認します。

ベルトは骨盤の前面(腹部ではなく)と胸部、肩部の低い位置で着用します。

アラーム: ベルトの一部がねじれたり、ドアやシート機構に絡まつたりしていないことを確認してください。

アラーム: 2人で1本のベルトを使用したり、子供をドライバーや乗客の膝に乗せてはいけません。

アラーム: シートベルトをフックなどの室内備品に引っ掛けたりクリップで留めたりすると、ベルトが正しく巻き取れなくなります。

アラーム: シートベルトを適切な位置で締めていないと、衝突時に重傷を負ったり死亡事故の原因となることがあります。

ベルトの解除



ベルトのバックルにある赤いボタンを押し、ベルトを巻き取らせます。

ベルトが完全に引っ込まない場合は、ベルトがたるんだままにならないよう、しっかりと手でリールに戻してください。

安全性

妊娠中のベルト着用



妊娠中のドライバーは、自分と胎児の両方を保護するため、常にシートベルトを着用する必要があります。

ベルトの斜め掛けは肩の上から胸の間を通り、腹部の脇へと通します。

ベルトのラップベルト部分はできるだけ腹部より低い位置とし、腹部の上に乗りあげないようにします。リールのたるみを取り除き、できるだけ身体に近い位置に収まるようにします。

妊娠中の方は、運転中にフットペダルやステアリングホイールを操作しやすいように、お腹とステアリングホイールの距離をできるだけ離すよう、シートやステアリングホイールの位置を調整する必要があります。

妊娠の進行に沿って車両の制御を維持するため、さらなるシートとステアリングホイールの調整が必要になる場合があります。

妊娠中の運転の可否については、定期的に医師に相談する必要があります。

ドア/シートベルトのリマインダー

ベルトを装着していない乗員に対しシートベルトの着用を促すアラートです。

ドライバーディスプレイ

ドライバーディスプレイの画像で、どのシートが埋まっているか、またシートベルトの装着、未装着を強調表示します。

エンジンがかかる状態で、ドア、フロントアクセスパネル、テールゲートが開いていると、ディスプレイにアラームが表示されます。車両が移動している場合、閉めるべきドアを示す表示が赤色に変わります。

ステアリングホイールの右側キーパッドの中央の「O」/確認ボタンを押すと、画像は消えます。



車両が10 km/h以上の速度になると、ドライバーディスプレイのアラーム記号が点灯します。

画像や情報、もしくはアラーム記号が表示された場合は、安全を確認後に車両を停め、表示された開いているドアを閉じてください。



オーバーヘッドコンソール

シートベルトを着用していない場合、乗員に対し視覚と聴覚により注意を促します。音声リマインダーは車速に依存します。

子供の安全

統計によると、後部座席で子供を適切に拘束することがより安全であることが示されています。この車にはオプションがありません。また、助手席エアバッグが搭載されているため、子供(特に赤ちゃんや幼児)にとって重大な危険性があります。子供を助手席に乗せる場合は、以下の注意事項を参考にしてください。

標準シートとシートベルトは、子供が標準装備の膝および斜め掛けのシートベルトに十分に適切な体格で、ベルトが鎖骨の上と胸の中心に位置している場合にのみ使用すべきです。

年齢や体格に関わらず、子供はすべて、常に車内に正しく座り安全な状態でなければなりません。助手席乗員のひざの上に子供を座らせては絶対にいけません。

子どもの拘束

ベルトが子供の首に触れたり交差したりする場合、または法律で義務付けられている場合は、適切なブースタークッションまたはチャイルドシートを使用する必要があります。このアドバイスは、身長が低い大人にも適用されます。

適切なチャイルドシート

エミーラには汎用チャイルドシートのみが適しています。詳細については、35 ページを参照してください。

安全性

チャイルドシートの設置

前向きチャイルドシート

チャイルドシートを前向きに取り付ける場合は、助手席エアバッグが作動していることを確認してください。38ページを参照してください。

後向きチャイルドシート

支えがなくては自分で座ることができない子供には、後向きのチャイルドシートのみを使ってください。



チャイルドシートを後ろ向きに取り付ける場合は、助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。38ページを参照してください。

⚠ アラーム: エアバッグが有効な時は、助手席で後向きのチャイルドシートを使用しては絶対にいけません。



助手席エアバッグシステムのアラーム表示は、ウィンドシールドガラスの上部ヘッドライニングの助手席側、もしくは、サンバイザー（装備の場合）にあります。

⚠ アラーム: 助手席エアバッグが無効な場合、前に向きに座る人（子供と大人）は絶対に助手席に座ってはいけません。

⚠ アラーム: 助手席の前に人を立せたり座らせたりしてはいけません。

⚠ アラーム: シートベルト、チャイルドシート、エアバッグシステムに関する情報に従わないと、生命を危険にさらしたり、重大な人身事故となる可能性があります。

!
注記: 子供用の安全装置を使用する際は、付属の取り付け説明書を読み、正しく装着することが重要です。子供用の安全装置を取り付ける際に質問がある場合は、そのメーカーにお問い合わせください。

!
注記: チャイルドシートを車内で緩めた状態のままにしないでください。未使用であっても、取付説明書に従って必ず固定してください。

!
注記: チャイルドシートを長期間装着していると、車のシートや内装が摩耗することがありますが、これは車両保証の対象外です。

適切なチャイルドシート

エミーラには汎用チャイルドシートのみが適しています。「汎用」とは、すべての車種への取り付けが認められていることを意味します。ただし、お選びいただいたチャイルドシートが、エミーラの助手席にぴったりと収まるかどうかをご確認ください。表は、エミーラの3点式シートベルトで固定された汎用チャイルドシートの取り付けオプションを示しています。

シート位置番号	シートの位置								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
ユニバーサルベルトに適した座席位置(はい／いいえ)	はい	N/A	はい	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
i+サイズの座席位置(はい／いいえ)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
側面固定具に適した着座位置(L 1/L 2)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
後向き最大固定具(R1/R2X/R2/R3)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
前向き最大固定具(F2 X/F2/F3)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
最大のブースター固定具(B2/B3)	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A

チャイルドシートを取り付ける前に、助手席シートをリア方向へ完全に移動させ、背もたれ角度は25度、シートは最低位置から10mm上げてください。

シート番号	車両内の位置
1	左前方
2	前中央
3	右前方
4	2列目左
5	2列目中央
6	2列目右
7	3列目左
8	3列目中央
9	3列目右

安全性

エアバッグ安全システム

シートベルトの着用と合わせて、万が一の衝突時に乗員を保護するのがエアバッグシステムです。

エアバッグは、シートベルトシステムと連動するように設計されています。シートベルトを使用しない場合や間違った方法で使用した場合、衝突時のエアバッグによる保護が低下する可能性があります。

 **アラーム:** エアバッグが装備されている場合、シートベルトをしていないと、衝突時に乗員が死亡または重傷を負う可能性があります。

エアバッグシステムの主なコンポーネントは次のとおりです。

- 電子モニタリングシステム (SRS制御モジュールとセンサー)。
- 運転席エアバッグ。
- 助手席エアバッグ。
- 運転席および助手席サイドエアバッグ。
- ドライバーおよびパッセンジャー・カーテンエアバッグ。
- プリテンショニングシートベルト。

エアバッグ警告ランプ

 走行中にこのアラームランプが点灯した場合は、エアバッグセーフティシステムに異常が検出されたということです。そのため、衝突時に1つまたは複数のエアバッグが作動しない可能性があります。

 **アラーム:** イグニッションをオンにしてもエアバッグ警告灯が点灯しない場合、または数秒以上点灯したままの場合は、直ちにロータスの正規ディーラーで不具合を解決してください。ランプを無視すると、必要なときにエアバッグやベルトプリテンショナーが作動しない可能性があります。

 **アラーム:** SRSのコンポーネントやワイヤーハーネスの近くで電気試験装置を使用したり、電気アクセサリーの配線を変更したりしないでください。エアバッグが作動しなくなったり、意図しない展開になり、人身事故の原因となることがあります。

シートベルトプリテンショナー

エアバッグシステムが作動するほど激しい前面衝突が起こった場合、両フロント席シートベルトのリトラクター内のプリテンショナーが作動してベルトを締め付け乗員を保護します。



運転席および助手席エアバッグ

運転席エアバッグは、ステアリングホイールの中央に装備されています。助手席エアバッグはグローブボックス上部コンパートメントに装備されています。どちらのエアバッグのカバーパネルにも「AIRBAG」と表示されています。

激しい正面衝突の際、エアバッグは一瞬で展開し、乗員の上半身を保護します。

衝突の角度（正面または正面に近い）によつては、運転席と助手席のエアバッグが作動し、その他のエアバッグは作動しない場合があります。

衝突時膨らんだエアバッグが急速に萎むことで、乗員への障害を最小限に抑え、窒息の危険性を低減します。エアバッグが萎

む際にバッグから煙が出ますが、これは正常な状態です。

⚠ アラーム: できるだけまっすぐに座り、足をフロアにつけ、背中をシートの背もたれにつけている状態であれば、前面衝突時にエアバッグが展開しても、負傷する可能性が低くなります。

ステアリングホイールは必ず外輪を握るようにしてください。エアバッグカバーの上に手を置いたり、ステアリングホイールのハブに物を取り付けたりしてはいけません。

助手席エアバッグが搭載されているダッシュボードの前や上に物を置いてはいけません。

⚠ アラーム: エアバッグの膨張するエリアには何も置かないようクリアにしておく必要があります。人とエアバッグの間に物があると、エアバッグが正しく膨らまなかつたり、物が人に当たって死亡や重傷の原因になることがあります。



助手席エアバッグの表示

助手席エアバッグシステムのアラーム表示は、ウィンドシールドガラスの上部ヘッドライニングの助手席側、もしくは、はサンバイザー（装備の場合）にあります。

⚠ アラーム: エアバッグが有効な時は、助手席で後向きのチャイルドシートを使用しては絶対にいけません。

⚠ アラーム: 助手席エアバッグが無効な場合、前に向きに座る人（子供と大人）は絶対に助手席に座ってはいけません。

安全性



アラーム: 助手席エアバッグが無効な場合、前に向いて座る人（子供と大人）は絶対に助手席に座ってはいけません。



また、上部コンソールには助手席エアバッグの無効化を知らせるメッセージと記号が表示されます。

注記: イグニッションポジションI以下で助手席エアバッグが起動された場合、イグニッションポジションをIIにすると約6秒後にメッセージが表示されます。



助手席エアバッグの有効化

1. スイッチを外側に引き出す。
2. OFFからONの位置まで回す。

ドライバーディスプレイには、助手席エアバッグの有効化を知らせるメッセージと記号が表示されます。

ステアリングホイール右側キーパッドにある中央のO/confirm (確認) ボタンを押してメッセージを確認します。詳細については、66 ページをご覧ください。

アラーム: ブースタークッションの上に子供を座らせないこと。エアバッグが有効な場合は、助手席で後ろ向きチャイルドシートを使用しないでください。



アラーム: 助手席エアバッグは、助手席に前向きで座る人(子供または大人)が使用する際は、常に有効でなければなりません。



また、上部コンソールには助手席エアバッグの有効化を知らせるメッセージと記号が表示されます。

注記: イグニッションポジションI以下で助手席エアバッグが起動された場合、イグニッションポジションをIIにすると約6秒後にメッセージが表示されます。

安全性



サイドエアバッグ

サイドエアバッグは、両シート背もたれの外端に取り付けられており、「AIRBAG」の文字で識別できます。

車両が中～重度の側面衝突を受けた場合、乗員とドアパネルの間でサイドエアバッグが展開します。

**!
注記:** サイドエアバッグは、すべての側面衝突の状況下で展開しないことがあります。

衝突時膨らんだエアバッグが急速に萎むことで、乗員への障害を最小限に抑え、窒息の危険性を低減します。エアバッグが萎む際にバッグから煙が出ますが、これは正常な状態です。シートベルトのプリテンショナーも同時に作動します。

**!
アラーム:** 窓から腕や頭を出して運転すると、サイドエアバッグの展開範囲に腕、頭、首が入るので、絶対にしてはいけません。

**!
アラーム:** サイドエアバッグとドアの間に物を挟まないでください。エアバッグが正しく膨らまなかつたり、物が車内に侵入して死亡または重傷を負う可能性があります。

**!
アラーム:** サイドエアバッグカバーに何かを取り付けたり、置いたりすると、エアバッグが正常に展開しなくなる場合があります。

サイドエアバッグとチャイルドシート

チャイルドシートやブースタークッションに座っている子供にエアバッグシステムがもたらす保護機能は、サイドエアバッグによって低下することはありません。



カーテンエアバッグ

カーテンエアバッグは、ヘッドライニングに沿って両脇に装備されており、運転席とその他のシートの乗員の保護に役立ちます。パネルに「AIRBAG」と表示しています。

中・重度の前面衝突、側面衝突、車両横転時に、カーテンエアバッグが展開し、衝突時に乗員の頭部が車内側にぶつかるのを防ぎます。

衝突時膨らんだエアバッグが急速に萎むことで、乗員への障害を最小限に抑え、窒息の危険性を低減します。エアバッグが萎む際にバッグから煙が出ますが、これは正常な状態です。



注記: カーテンエアバッグは、側面衝突の状況下によって展開しない場合があります。



アラーム: 車両のルーフライニング、ドアピラー、サイドパネルに何かをネジで止めしたり取り付けたりしないでください。これにより意図した保護機能が損なわれる恐れがあります。



アラーム: シート後方の貨物エリアは、リアサイド・クオーターライト・ウィンドウの上端から10cm下がった位置よりも高く荷を積みあげないようにしてください。これより高い位置に物を置くと、カーテンエアバッグの機能が阻害される恐れがあります。

セイフティモード

エアバッグやシートベルトプリテンショナーなどの安全装置が作動した場合、セイフティモードが起動します。衝突によって、燃料やブレーキシステム、安全システムのセンサーなど、車両の重要な機能が損傷している可能性があります。

車両が衝突した場合でも、ドライバーディスプレイや車両の電気系統が機能している場合は、ドライバーディスプレイに「セイフティモード オーナーズマニュアルを参照のこと」というメッセージとアラーム記号が表示される場合があります。セーフティモード状態では、車両の機能が低下します。



アラーム: 燃料の臭いや燃料漏れの兆候に気づいた場合は、絶対に再始動しないでください。直ちに車両から離れてください。

車両の損傷状況によっては、システムをリセットして起動し、可能な限りの最短距離で車両を動かすことができます(危険な交通状況から車両を遠ざける場合など)。

安全性

⚠ アラーム: 衝突事故が発生した後は
いずれも、必ずロータス正規ディー
ラーにより、車両点検を受けてください。
車両が損傷していないように見え
ても、一部の機能が失われている可
能性があります。

⚠ アラーム: 車両がセーフティモードに
なっている場合は、運転や牽引をして
はいけません。点検/修理のために、
平台の回収トラックでロータスディー
ラーまで輸送する必要があります。

キー、ロック、アラーム

キー、ロック、アラーム

キー

キーフォブは2つあります、次の目的で使用します。

- 車両のロック/ロック解除。
- 車両アラームシステムの起動/解除。57ページを参照。
- キーレスエンジンは、有効なキーフォブがキャビン内にあるときに始動します。181ページを参照してください。
- 必要に応じ、取り外し可能なキーブレードを使用して手動によりドアのロック/ロック解除が可能です。



キーフォブの収納

キーフォブを1つしか使用していない場合は、もう1つのキーフォブを安全な場所に保管し、どちらかを紛失した場合はすぐに代替品を入手する必要があります。

キーフォブの追加注文

キーフォブやキーブレードの追加注文やプログラミングは、ロータス・ディーラーが承ります。

キーフォブの紛失・盗難

キーフォブやキーブレードを紛失した場合、盗難防止のために紛失したキーフォブのコードを車両システムから消去するため、他のキーもロータス・ディーラーに持ち込む必要があります。また、車両のセキュリティを徹底的なものとするために、車両のドアロックを交換することも推奨します。

⚠ アラーム: 車から離れるときは、必ずイグニッションスイッチを切り、キーフォブを車内に残さないようにしてください。

⚠ アラーム: 特に、監視下にない子供や動物が車内に残されている場合、キーフォブを車内に置いたまま車を離れたりしないでください。



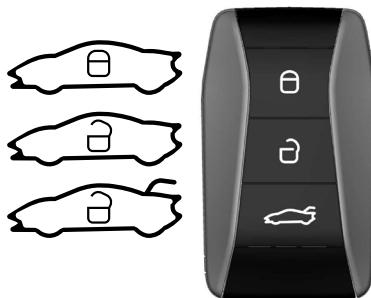
注意: キーフォブを改造したり、キーフォブで硬いものを叩いたりしないでください。これによって生じたキーフォブの不具合は、車両保証の対象外となります。

キーフォブのリマインダー

イグニッションモードを起動しエンジンを始動するには、キーフォブがキャビン内になければなりません。キーフォブが検出されない場合、ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。



車内にキーがありません



キーフォブのボタン

- **ロック:** ボタンを押すと、両方のドア、テールゲート、フューエルフィラーキャップがロックされます。アラームも有効になります。56ページを参照してください。
長押しするとすべてのドアウインドウが同時に閉まります。
- **ロック解除:** ボタンを押すと、両方のドア、テールゲート、フューエルフィラーキャップがロック解除されます。アラームも解除されます。57ページを参照してください。
長押しするとすべてのドアウインドウが同時に開きます。

この設定は中央ディスプレイで変更可能です。59ページを参照してください。



ボタンを約1.5～2秒間押すと、テールゲートのラッチが解除され、フューエルフィラーフラップがロック解除されます。

0.5秒ほど短く押すと、フューエルフィラーキャップのみがロック解除されます。

ロック解除のオプション

ロック解除方法には2つのオプションがあり、選択できます。

両ドア: ボタンを1回押すと、両方のドアを同時にロック解除。

片側ドア: 1回押すとドライバー側のドアをロック解除し、2回目に押すとパッセンジャー側のドアをロック解除。

このオプションは、中央のディスプレイで変更することができます。59ページをご覧ください。

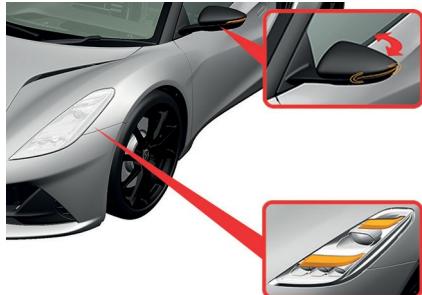
キーフォブの作動範囲

標準の作動範囲は、車両から20メートル以内ですが、以下の様な場合にはこれより短くなることがあります。

- 車両がラジオ/テレビ塔/マストや発電所の近くにある。
- キーフォブが携帯電話、送信機、ラジオなど他の無線機器に近接している。
- キーフォブが金属材料に触れている、または覆われている。
- キーフォブがパソコンなどの電気機器に近い。
- キーフォブ内蔵の電池の充電量が不十分。
- 環境条件。

キーフォブのボタンを押してもドアがロック/ロック解除されない場合、車両に近づいてからもう一度試してみてください。

キー、ロック、アラーム



ロック/ロック解除の確認

- ロック: ハザードランプが1回点滅し、ドアミラーが内側にたたまれ、デイタイムランニングライトがフェイドオフ(徐々に消灯)します。ロック時の音声フィードバックも利用可能です。59ページをご覧ください。
 - ロック解除: ハザードランプが2回点滅し、ドアミラーが展開します。
- 車両を完全にロックし、アラームを有効にするには、両ドア、テールゲート、ボンネット、フューエルフィラーキャップが閉じている必要があります。



ロック&アラームインジケーター

ダッシュボードの表示ランプが点滅し、車両がロックされアラームが有効となっていることを知らせます。57ページも参照してください。

ロック表示の設定

中央ディスプレイの設定メニューで、ロック状態のフィードバック応答のオプションを設定可能です。

目視フィードバック: オン-オフ
音声フィードバック: オン-オフ

ドアミラー折りたたみのオプションも、有効/無効が設定可能です。59ページをご覧ください。

ロック



両方のドア、テールゲート、フューエルフィラーキャップが閉じていることを確認し、キーフォブの日ボタンを押します。

- 両ドアがロックします。
- 室内灯(点灯している場合)は消灯します。
- 10秒後にフューエルフィラーキャップがロックします。
- 45秒後にエンジンが停止し、アラームが有効になります。
- このとき、ロック/アラームインジケーターランプが2秒に1回点滅します。

ドアが完全に閉まっていない状態で車両をロックしようとすると、目視または音声によるフィードバックは作動せず、いずれのドアもロックされず、アラームも有効となりません。

テールゲートを開けたままロックしようとすると、ドアはロックされ、アラームは作動しますが、車両をロック解除するとハザードランプは点滅しません。

! 注意: 車両の他の部分がロックされ
アラームが有効の場合、テールゲート
を閉めると車両が完全にロックされ
るため、キーフォブをトランクに入れ
たままにしないでください。車両をロ
ック解除するには、別のキーフォブが
必要になります。

ロック解除



キーフォブの□ボタンを押し
ます。

- 両ドア*とフューエルフキャップがロック
解除されます。
- ダッシュボードのロック/アラームインジ
ケーター/ランプの点滅**が停止します。
- アラームが解除され、エンジンが始動
準備となります。
- 室内灯が徐々に点灯します(「カーテシ
ー」ポジションに設定の場合)。147ペ
ージをご覧ください。

*選択したロックオプションによります。59
ページを参照してください。

**盗難未遂が検出された場合を除きま
す。56ページを参照してください。



外側からドアを開ける

車両がロック解除された状態で:

- ドアのハンドルのフロント部を押します。
- ハンドルのリア部が外側に旋回します。
- ハンドルのリア部を引いてドアを開け
ます。

自動再ロック

ロック解除後2分以内にドアやテールゲー
トが開けられなかった場合、車両は自動
的に再ロックされ、アラームは再度有効
状態となります。これにより、車両が「意図
せずにロック解除された状態のまま」とな
らないことを確保できます。

キー、ロック、アラーム

自動ロック

車両が一定速度に達すると、ドアとテールゲートが自動的にロックされます。設定オプションについては59ページを参照してください。

キーフォブが機能しない

車両に近づいて、もう一度ロック解除を試みてください。

キーフォブがドアをロックまたはロック解除しない場合は、55ページを参照してください。

事故時のロック解除

エアバッグ展開の起こった事故の際、乗降を援助する機能として、キャビン内側からロックされたドアは自動的にロック解除されます。

インテリアドアロック/ロック解除



ドアスイッチ

ドライバー側ドアパネルにあるセンター ロックスイッチでドアロック/ロック解除ができます。

□ボタンを押すと、両側のドアがロック解除されます。45ページも参照してください。

両方のドアを閉じた状態で、□ボタンを押してロックします。

発進後のロック

車速が5km/hを超えると自動的にドアをロックするというオプションが選択可能で す。このドアロックは、インテリアドアリースハンドルが引かれる、もしくはインテリアセンタードアロックの□ボタンが押されるまでは、ロックされたままの状態となります。このオプションは、中央ディスプレイで変更することができます。59ページをご覧ください。



ロック解除-ドアリリースハンドル

内側からロック解除するには、ドアリリースハンドルを引いて離し、2回めに引くとドアが開きます。

キーフォブを使ったテールゲートの解除



キーフォブの➡ボタンを押す(約1.5~2秒)と、テールゲートのラッチが解除され、フューエルフィラーキャップがロック解除されます。

- これでテールゲートを持ち上げ開けることができます。
- ドアはロックされた状態で、アラームも稼働しています。
- ダッシュボード上のロック&アラームインジケーターが消灯し、車両が完全にロックされていないことを知らせます。

テールゲートを閉めるときは、キーフォブがトランク内に取り残されていないことを確認してください。

テールゲートを閉めると、アラームシステムは元の状態に戻ります。

! **注記:** キーフォブの➡ボタンを約0.5秒短く押すと、テールゲートを閉じたままフューエルフィラーキャップのロックが解除されます。



注意: テールゲートを閉めると車両が完全にロックされるため、車両の他の部分がロックされアラームが有効な場合は、キーフォブをトランクに入れたままにしないでください。車両をロック解除するには、別のキーフォブが必要になります。

キー、ロック、アラーム



スイッチを使ってテールゲートを解除
ステアリングコラムの外側にある钥匙スイッチを長押しして、テールゲートのラッチを解除します。

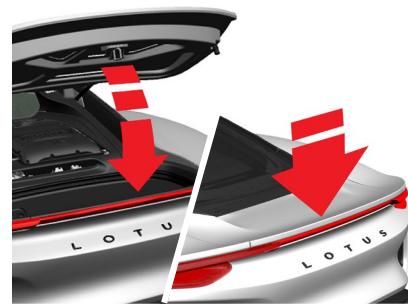
これでテールゲートを開けることができます。

注意: スイッチを押すとラッチ機構が解除されるため、誤ってスイッチを押してしまった場合は、運転または車両のロック前に手動でテールゲートを閉じる必要があります。



テールゲートの リフトアップ
テールゲートのラッチが外れた状態で、テールゲートを完全に上に持ち上げます。このときストラットがリフト時の補助となり、テールゲートが完全に持ち上げられた位置に保持します。

アラーム: 換気グリルが熱くなることがありますので、やけどに注意してください。後部トランクルームを使用する場合、エンジンルーム内の高温の表面が露出しないようご注意ください。



テールゲートを閉める
テールゲートを下ろし、ラッチが完全に嵌合するよう、spoiler中央部をしっかりと押します。テールゲートを閉めるときは、キーフォブをトランク内に取り残さないようご注意ください。

テールゲートを閉める前に、人や物などが取り残されていないことを確認してください。また、テールゲートがきちんと閉まらないような障害物がないことを確認してください。

イグニッションをオンにした状態でテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていない場合は、インストルメントパネル画面の車両シルエットのディスプレイに警告が表示されます。

荷物の重量

すべてのモデルについて、リアトランクに積める荷物の最大重量は50kgです。

⚠ アラーム: これらの限度を超えると、タイヤに過大な負荷がかかり、車両の操縦に影響を及ぼし、事故につながる恐れがあります。

💡 注記: 必要に応じ、手荷物を保護したり、固定してください。トランク内で鋭利なものや重いものが滑ったり転がったりすると、車体に損傷を与える可能性があり、これは車両保証の対象外となります。

⚠ 注意: 車両の他の部分がロックされアラームが有効の場合、テールゲートを閉めると車両が完全にロックされるため、キーフォブをトランクに入れたままにしないでください。車両をロック解除するには、別のキーフォブが必要になります。



緊急リリースハンドル



トランク内

キャビン内

必要な場合は、メカニカルロックを使って左側のドアを開けてください。54をご覧ください。

左側シート後方、左手のリアクオータートリムパネルにあるアクセスパネルを取り外します。

ハンドルを手前にしっかりと引いて、テールゲートラッチを解除します。

緊急リリースハンドルを使用した後は、テールゲートが完全に閉まっていることを確認するよう特にご注意ください。

(子供が閉じ込められたら)

子供がリアトランク内に閉じ込められた場合、緊急リリースハンドルがあります。

ランク後部のハンドルを車の右側方向に向かって引き、テールゲートのラッチを解除します。

この機能の使い方を子供に教えるかどうかは、保護者の方が判断してください。

キー、ロック、アラーム

キーフォブが車両から離れた場合

エンジンがかかるている状態でキーフォブが車から離れていると、ドライバーディスプレイにアラーム記号と通知メッセージが表示されます。



車内にキーがありません

両方のドアが閉ると、音声で知らせします。

このメッセージは、キーを車内に戻すか、ステアリングホイールの右側キーパッドの○ボタンを押すか、両方のドアが閉ると消えます。

キーフォブの電池

電池の寿命は、車やキーの使用頻度によって異なります。

年に一度、電池交換をお勧めします。キーフォブの電池は、以下の場合に必ず交換してください。

- △のアラーム記号と通知メッセージがドライバーディスプレイの画面に表示される。



リモートキー バッテリー残量少

- 車両から20メートル以内のキーフォブからの信号にロックが繰り返し反応しない。



電池ケースを開ける

指や親指の爪でバッテリーカバーの端を押し開き、カバーを持ち上げます。



電池を取り出す

電池を端から持ち上げて、キー ホブから取り外します。



新しい電池をセットする

電池は、(+)側が上向きになっていることを確認してください。電池の端を少し下げて電池ホルダーに電池をセットします。

! **注意:** 新しいバッテリーの電気接触面に指で触れないでください。これにより、バッテリーの機能が損なわれたり、寿命が短くなる可能性があります。

! **注記:** 3V、CR2032タイプの電池にのみ交換してください。



電池ケースを閉じる

電池カバーのフック付きの先端をキーフォブケース先端の溝にスライドさせ、電池カバーを元の位置に戻します。カチッと音がすればカバーは確実に閉まっています。

! **アラーム:** 電池が正しく装着されていることを確認してください。リモコンキーを長期間使用しない場合は、電池の液漏れや破損を防ぐため、電池を取り外してください。電池の破損や液もれにより、皮膚に触れると腐食性の傷害を受けることがあります。破損した電池を扱うときは、必ず防護用グローブを使用してください。

! **アラーム:** 電池は、飲み込まれる危険があるので、子供やペットの手の届かないところに置いてください。

! **アラーム:** 電池を分解したり、短絡させたり、裸火の中に投げ入れたりしないでください。

! **アラーム:** 充電式でない電池を充電すると、爆発する恐れがあります。

キー、ロック、アラーム

⚠ アラーム: 使用前にリモコンキーに破損がないかを確認してください。バッテリーカバーがきちんと閉まらないなど、破損が確認された場合は、そのキーを使用しないでください。不良品は、子供の手の届かないところに保管してください。



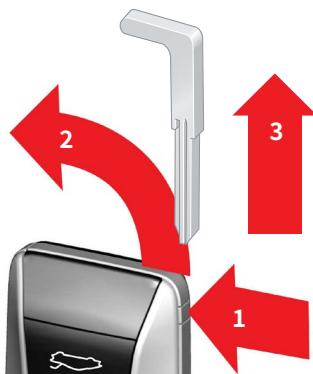
電池を廃棄するときは、必ず公的なリサイクル回収に出してください。他の一般家庭ごみと一緒に廃棄してはいけません。

緊急キーブレード

キーフォブには着脱式のキーブレードが内蔵されており、車両電気、キーフォブ、車両電気系統の故障時に、左側ドアを手動でロック解除してキャビン内にアクセスすることができます。

キーブレードの再セット

キーブレードをキーフォブのケースに戻し、カチッと音がするまでスライドさせ、カバーの端部を閉じます。



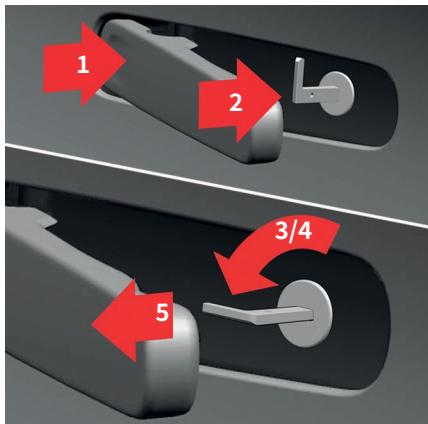
キーブレードの取り外し

1 指や親指で、キーフォブの側面にあるリリースボタンを長押しします。

2 キーフォブの端のパネルが開きます。

3 キーブレードをキーフォブケースから引き出します。

緊急キーブレードの使い方



左側ドアのロック解除

- 1 左側ドアハンドルのフロント部を押し、ロックが見えるようにハンドルの後部を持ってください。
- 2 キーブレードをロックに挿入します。
- 3 キーブレードを反時計回りに1/4回転させます。
- 4 キーブレードを時計回りに回転させ、元の位置に戻します。
- 5 キーブレードをロックから外し、ハンドルをドアから離すようにリリースします。

- ハンドルを引くとドアが開きます。
- キャビン内に入ると、右側のドアはインテリアリリースハンドルで開けることができます。

左側ドアのロック

ロック解除の手順1、2、4、5を行いますが、キーブレードは手順(3)で見る時計回りの反対方向ではなく、時計回り方向に1/4回転させます。

! **注記:** 右側ドアは、キーフオブまたは車両電気系統の故障前に設定されたセンタードアロックシステムのロック状態またはロック解除状態のいずれかに留まり、センタードアロック操作が完全に回復するまで変更することはできません。



車両アラームを無効にする

! **注記:** 緊急用キーブレードを使ってドアをロック解除し開けると、アラームが鳴ります。

- キーフオブをセンターコンソールのアームレスト内収納部後方にあります。
 - スタートボタンを押します。
 - アラームサイレンが消音され、アラームが無効になります。
- 車の始動に関しては 181ページをご覧ください。

キー、ロック、アラーム

アラーム

アラームが有効の場合は、次の場合にアラームを警鐘します。

- ドアまたはテールゲートが開く。
- キャビン内で動きを検知した(動作検知器を装備の場合*)。
- 車両が持ち上げられた、または牽引された(傾斜検出器を装備の場合*)。
- スターターバッテリーケーブルが外された。
- サイレンが切断された。

*装備の場合。

アラーム警鐘信号

アラームが鳴った場合:

- アラームサイレンは30秒間、またはアラームが解除されるまで鳴り続けます。
- ハザードランプは5分間、またはアラームが解除されるまで点滅します。
- アラーム警鐘の原因が解決されない場合、このアラームのサイクルは最大10回繰り返されます。

イモビライザー

イモビライザーシステムは、運転権限のない人が車両を始動させることを防止するためのものです。正しいキーフォブでなければ、車両を始動させることはできません。

エンジン始動時にキーがない場合、または間違ったキーが検出された場合、ドライバーディスプレイにアラーム記号と通知メッセージが表示されます。



キーが見つかりません



ロック&アラームインジケーター

ダッシュボード上のLEDの点滅の速さによって警報システムの状態を表示します。

点滅しない

アラームが設定されていない。

2秒ごとに点滅

アラームが設定されている。

アラーム解除後急速に点滅:

アラームが鳴ってLEDが最大30秒間、またはイグニッショナポジション1が起動するまで、急速点滅。181ページを参照。

モーションセンサーとチルトセンサー

装備している場合、このセンサーはキャビン内の動きや車を持ち上げたり牽引したりしようとしたときに反応します。

キャビン内で動きが検出されると、モーションセンサーがアラームを発します。空気の流れも動きとして検出されるため、車両のロックやアラーム起動時には、ドアの窓を閉めておく必要があります。

車両を輸送中(牽引・回収業者、列車、フェリーなど)は、輸送中の動きによりアラームを発する可能性があるため、モーションセンサーとチルトセンサーを解除してください。

モーションセンサーとチルトセンサーを一時的に停止するには、58ページの「アラームレベルの低減」を参照してください。

アラームシステムの故障

アラームシステム内で故障が検出された場合、ドライバーディスプレイにアラーム記号と通知メッセージが表示されます。



アラームシステム センサーの不具合

表示された場合は、ロータス正規ディーラーまでご連絡ください。

アラームの起動



ドアとテールゲートの両方が閉まっていることを確認し、キーフォブの \square ボタンを押してください。

- 両ドアがロックされ、イモビライザーが作動し、アラームが有効になります。
- ロック&アラームインジケーターが2秒ごとに1回点滅します。56ページを参照してください。

アラームの解除



キーフォブの \square ボタンを押します。

- ドアロックを解除します*。
- ダッシュボードのロック/アラームインジケーターの点滅が停止します*。
- アラームが解除され、エンジンが始動準備となります。

*選択したロックオプションによります。
59ページを参照してください。

キー、ロック、アラーム

**盗難未遂が検出された場合を除きま
す。56ページを参照してください。

稼働中のアラームをオフにする



次のいずれか:

- キーフォブの□ボタンを押
します。
- スタートボタンを押して、イグ
ニッショングリセラムにセッ
トします。181ページを参照。

アラームの自動再起動

ロック解除後2分以内にドアやテールゲー
トが開けられなかった場合、車両は自動
的に再ロックされ、アラームは再度有効
状態となります。これにより、意図せずに
車がロック解除されたままになったり、ア
ラームシステムが解除されたりすることが
ありません。

市場によって、運転席のドアがロックされ
ずに開閉された後、一定時間後に自動的
にアラームが作動するものがあります。

この設定は中央ディスプレイで変更可能
です。59ページを参照してください。

アラームレベルの低減

これにより、モーションセンサーとチルト
センサーを一時的に停止させることができます。

人や動物がロックされた車両内に残さ
れる、または車両の輸送中(牽引・回収業
者、列車、フェリーなど)の場合、動きによ
ってアラームが鳴る可能性があるため、ア
ラーム解除が必要な場合があります。

この設定は中央ディスプレイで変更可能
です。59ページを参照してください。

ロック解除後、ドアが閉じたまま再ロック
された場合、アラームはアラームレベルを
下げた状態を維持します。

アラーム/ロックプリセットのオプション

中央ディスプレイの「グローバル設定」とア
プリの「オプション」ボタンのサイドバーか
ら、以下を選択します。車>セキュリティ。

詳細については、128 ページを参照して
ください。

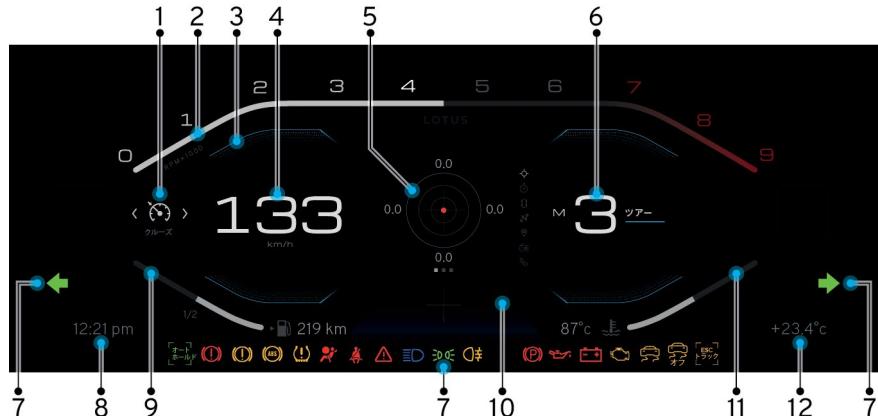
ディスプレイ、アラーム、ゲージ

ドライバーディスプレイ

- 1 スピードリミッターまたはクルーズコントロールのオプションを選択。86。
- 2 タコメーター (RPM)。69。
- 3 パフォーマンスギアシフト&ローンチコントロールインジケーター。70および72。
- 4 速度計。69。
- 5 ウィジェットのオプションと通知。76。
- 6 選択ギアと走行モード。72と72。
- 7 システムステータスとアラームランプ。62。方向指示器。144。
- 8 時計。68。
- 9 燃料ゲージ。67。
- 10 ドライバーアンスランスのオプション。105。
- 11 エンジン冷却水温度。68。
- 12 外気温度。69。

中央ディスプレイについては、124ページをご覧ください。

ツアーモード

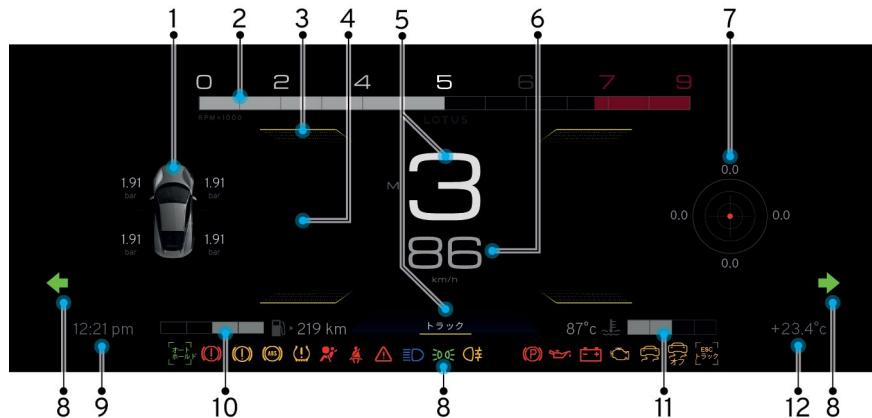


スポーツモード



ディスプレイ、アラーム、ゲージ

トラックモード (装備の場合)。



- 1 トラックウェイジェット 78。
- 2 タコメーター (RPM)。69。
- 3 パフォーマンスギアシフト&ローンチコントロールインジケーター。69および72。
- 4 ドライバサポートメニュー。86。
- 5 選択ギアと走行モード。72と72。
- 6 速度計。69。

- 7 ウィジェットのオプションと通知。76。
- 8 システムステータスとアラームランプ。62。方向指示器。144。
- 9 時計。68。
- 10 燃料ゲージ。67。
- 11 エンジン冷却水温度。68。
- 12 外気温度。69。

表示記号

インストルメントパネル内で、以下のいずれかを表示します。

ステータス: システムまたはコントロールが選択された(方向指示器、クルーズコントロールなど)。

アラーム: 車両システムの不具合の可能性(ブレーキフルードレベルやエンジンオイルレベルの低下など)。

インジケーターチェック

すべてのアラームシステムが作動していることを確認するために、警告用の記号がイグニッションモードIIのときに約3~6秒間点灯します。181ページを参照してください。インジケータが点灯しない場合は、直ちにロータスのディーラーまでご連絡ください。

アラーム記号の点灯

運転中、アラーム記号が点滅または一定点灯している場合は、該当するシステムの作動に不具合があることを示します。アラーム記号の点灯は無視してはいけません。直ちにロータスディーラーへご連絡ください。

システム状態を表す表示記号

記号	説明	記号	説明
	情報/通知 ドライバーディスプレイのテキストと記号などに運動して琥珀色に点灯します。		リアフォグランプ リアフォグランプが作動すると琥珀色に点灯します。144ページ。
	パーキングブレーキ パーキングブレーキをかけると赤く点灯します。197ページ。		アクティブ・メインビーム (利用可能な場合) 選択中は白く、アクティブの時は青く点灯します。143ページ。
	方向指示器またはハザードランプが点灯しているときは、緑に点滅します。144ページ。		エレクトロニック・スタビリティ・コントロールOFF 安定性プログラムが手動でオフにされた場合、琥珀色に点灯します。196ページ。
	ポジションランプとロービームランプ ポジションランプとロービームランプが作動すると緑に点灯します。142ページ。		ESC トラック トラックドライブモードの選択時、琥珀色に点灯します。201ページ。
	ハイビームランプ ハイビームランプが作動すると青に点灯します。ページ 143。		シートベルトリマインダー シートベルトが着用されていない場合、赤く点灯または点滅します。32ページ。

ディスプレイ、アラーム、ゲージ

記号	説明
 	助手席エアバッグ ON 助手席エアバッグが作動し赤く点灯して、大人が助手席に安全に座れることを示します。ブースタークッションに子供を座らせてはいけません。エアバッグが有効な時は、助手席で後向きのチャイルドシートを使用しては絶対にいけません。38ページ。
	助手席エアバッグ OFF 助手席エアバッグが無効となり、琥珀色に点灯し、後ろ向きのチャイルドシートにいる子供が助手席に安全に座れることを示します。38ページ。
	燃料レベル低下 燃料タンク内の燃料が少なくなると、琥珀色に点灯します。67ページ。

アラーム記号の点灯

記号	説明
	一般的なアラーム三角形 車両の安全性や走行性に影響を及ぼす可能性のある故障が検出された場合、他のアラームと連動して赤く点灯します。同時にドライバーディスプレイに説明文が表示される場合があります。
(!)	ブレーキ故障 ブレーキフルードレベルが過度に低下している場合、またはブレーキシステムに異常が検出された場合、赤色に点灯します。
(!)	琥珀色に点灯し、電動パーキングブレーキシステムの故障が検知されたことを通知します。
	エレクトロニック・スタビリティ・コントロール スタビリティプログラムが手動でオフにされた場合、琥珀色に点灯します。196ページ。

記号	説明
	<p>故障 琥珀色に点灯します。運転中に点灯したままの場合は、車両の排出ガスシステムの故障が検出されています。直ちに減速し、ロータス・ディーラーに相談してください。不要な移動はすべて避けてください。</p> <p>触媒コンバーターの過熱による損傷を引き起こす可能性のある故障が発生したときに点滅します。直ちに減速し、停止準備をしてください。ランプの点滅が止まり点灯し続ける場合は、慎重に対処し、ロータス・ディーラーにご相談ください。ランプが点滅し続ける場合は、安全確認後に車両を停止させエンジンを切ってください。ロータスの正規ディーラーにご相談ください。</p>

記号	説明
	<p>アンチロック・ブレーキ・システム(ABS) システムが動作していない場合、琥珀色に点灯します。車両の通常のブレーキシステムは作動し続けますが、ABS機能はありません。194ページ。</p>
	<p>油圧 赤く点灯します。エンジン始動後、ランプが消えない場合、またはエンジンがオンの際に点灯した場合は、ただちに、安全確認後エンジンを切ってください。原因解明されるまで再起動しないでください。</p>
	<p>冷却水温度 詳細については、68 ページを参照してください。</p>

記号	説明
	<p>充電 エンジン稼働中にバッテリーが充電されていない場合、赤色に点灯します。エンジンの冷却にも影響を及ぼし、エンジンが急速に過熱する恐れがあるため、できるだけ早く車を停止しすぐにエンジンを切ってください。</p>
	<p>エアバッグ 赤く点灯します。ランプが点灯したまま、あるいは走行中に点灯した場合は、エアバッグもしくはプリテンショナーシートベルトシステムの故障が検知されたということです。直ちに修理を行う必要があります。36ページ。</p>
	<p>ワイパーの故障 ワイパーシステムの障害が検知されると、赤色に点灯します。150ページ。</p>

ディスプレイ、アラーム、ゲージ

記号	説明
(!)	タイヤ空気圧システム タイヤの空気圧が低すぎる場合、琥珀色に点灯します。ウィジェットのオプションで選択すると、ドライバーディスプレイに表示することができます。235ページ。 タイヤ空気圧システムに欠陥がある場合、記号が約1分間点滅した後、常時点灯し、システムが意図した通りにタイヤ空気圧の低下を検出できない、あるいは警告できないことを示しています。
(◎)	ブレーキランプの故障 ブレーキシステムの不具合が検出されると、琥珀色に点灯します。
↔!	方向指示器の故障 方向指示器システムの故障が検出されると、赤色に点灯します。144ページ。

記号	説明
	車線逸脱警告 (利用可能な場合) 機能が無効になると、琥珀色に点灯します。106ページ。
	前方衝突警告 (利用可能な場合) 機能が無効になると、琥珀色に点灯します。115ページ。



メッセージ

特定の記号は、チャイム、メッセージ、アイコンがドライバーディスプレイの中央または右側に優先的に表示されます。

メッセージは、車両システムの起動、車両情報が利用可能、またはシステム障害の検出についてのいずれかを示します。

このメッセージにより、ドライバーに取るべき措置を知らせます。

メッセージの中には短時間簡単に表示してその後通知として保存されるものもありますが、関連するメッセージ記号は、その故障が改善されるまで、または次のドライブサイクル（エンジンを切って再びオンにする）まで点灯したままになります。故障が改善されたり、対策（ウォッシャーボトルの補充やシートベルトの装着など）

ディスプレイ、アラーム、ゲージ

がとられると、メッセージは自動的に削除されることがあります。

安全性や深刻なシステム故障を示すメッセージについては、ドライバーがステアリングホイール右側キーパッドの○確認ボタンを押してメッセージを確認するまでは、継続表示されます。

保存された通知を見るには、82 ページを参照してください。



燃料ゲージ

ゲージライン内の白いゾーンは、燃料タンク内の燃料の量を表しています。燃料が消費されると、白(ベージュ)ゾーンの長さが短くなります。

使用可能な燃料で算出した走行可能距離の目安である燃料レンジは、記号の横に表示されます。平均燃費と瞬間燃費を表示することも可能です。77ページをご覧ください。

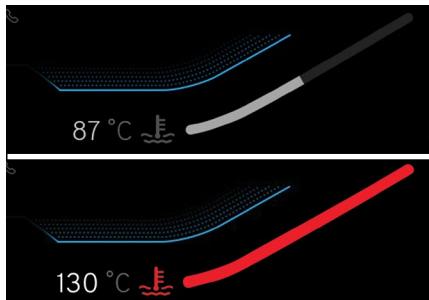
燃料の残りが約6リットルになると、インストルメントパネルの記号が琥珀色に点灯し、ドライバーディスプレイには通知メッセージが表示されます。63ページをご覧ください。

記号が点灯した場合は、次の給油機会に充填してください(208ページを参照)。残りの燃料は緊急の場合にのみとします。この残量分を使用すると、断続的に燃料が枯渇してしまい、エンジンに損傷を与える可能性があります。このような場合は、エンジン負荷とコーナリングフォースを最小限に抑えるよう走行スタイルを変更する必要があります。

燃料タンク内の燃料残量により、充填量が「テクニカルデータセクション」に示される指定タンク容量より少なくなることがあります。

注意: 触媒コンバーターや燃料ポンプを損傷する恐れがあるので、タンクが完全に空になるまで運転しないでください。この結果生じた不具合は、新車保証の対象外となります。

ディスプレイ、アラーム、ゲージ

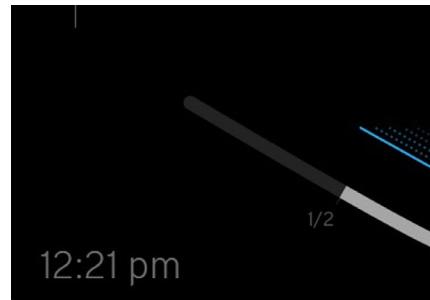


エンジン冷却水温度計

冷却水の温度が高くなると、白ゾーンの長さが長くなります。現在冷却水温度も  温度記号の横に表示されます。

冷却水の温度が過剰に高くなるとゲージラインは赤くなり、 記号が赤く点灯して、1秒間チャイム音とともに通知メッセージがドライバーディスプレイに表示されます。66ページもご覧ください。

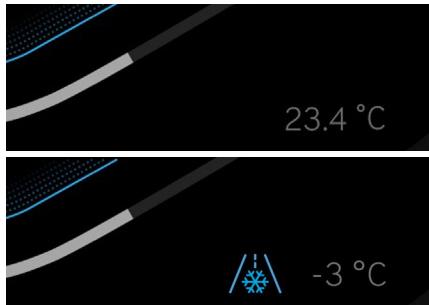
ドライバーディスプレイに表示されるエンジン冷却水温度の通知メッセージの指示に従ってください。これらのメッセージには、エンジンの損傷を防ぐために直ちに停車し、エンジン停止させることも含まれている場合があります。



時計

時計はドライバーディスプレイと中央ディスプレイの両方で表示されます。

ドライバーディスプレイでは、時計は画面の左下に表示されます。日時設定のオプションについては、124ページを参照してください。

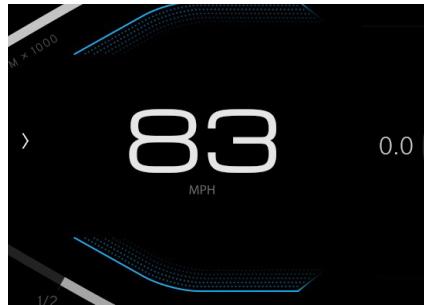


外気温度

画面右下に外気温度の読み取り値が表示されます。設定オプションについては、124ページを参照してください。

停車状態のままでは、表示の外気温度の読み取り値が高すぎるものとなる場合があります。

※ 外気温が-5°C～+2°Cの場合、雪の結晶記号とアラームメッセージが表示され、1秒間のチャイム音が鳴ります。



速度計

メインディスプレイに表示の速度の単位は、mph または km/h に変更可能です。中央ディスプレイから単位を選択して変更します。グローバル設定とアプリのオプション→システム→単位。128ページと133ページを参照してください。

注記: これにより、オドメーターの距離単位もトリップコンピューターのウィジェットディスプレイの該当する値に変更されます。

トリップコンピューターのウィジェットオプションでデュアル速度単位を選択すると、代わりの速度単位がウィジェットディスプレイに表示されます。77ページを参照してください。



ツアードライブモード



スポーツドライブモード



トラックドライブモード

タコメータ

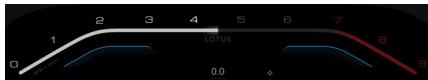
1分あたりのエンジン回転数を(rpm)で表示します。

表示されるタコメーターのレイアウトは、選択した車両のドライブモードによって異なります。

ゲージ線内の白ゾーンは、その時のエンジン回転数を表しています。エンジン回転数が上がると、白ゾーンが長くなり、回転数×1000の速度桁が点灯します。

LOTUSロゴが点灯し始め、エンジン回転数が上がるにつれて明るくなります。

ディスプレイ、アラーム、ゲージ



タコメーターの「赤線ゾーン」の部分は、エンジンの安全作動回転数を超えた回転数を表しています。

最高回転数の表示は、選択したドライブモードによって異なる場合があります。



エンジンが安全最高回転数に接近したり、それを上回ったりすると、ゲージ線とすべての速度桁が赤く点灯します。



冷間時のエンジン回転数

V6モデルの最大エンジン回転数は、エンジンのウォーミングアップ中、正常な運転温度に達するまで最大6,000 rpmまで徐々に上がり続け、エンジンウォームアップ中、赤線ゾーンに修正された最大回転数値が表示されます。

! **注意：**損傷や摩耗の可能性を低減するため、通常の走行温度に達する前にスロットルを大きく開けたり、エンジン回転数を上げるといった運転は避けてください。

! **注意：**最高エンジン回転数での連続運転はおやめください。不正確なギアチェンジや早期のギアダウンによるオーバースピードから、エンジンを保護することはできません。このことは、車両保証対象外のエンジン故障を引き起こす原因となります。



パフォーマンス・ギアシフト・ライト

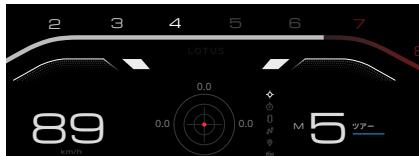
この機能により、ドライバーは最適なシフトアップのポイントを確認することができ、どのギアでもエンジンとトランスミッションが最大限の加速を実現させるとともに、エンジン回転数が上昇しそうな場合にはドライバーに警告を発することができます。

! **注記：**オートマチックトランスミッション車の場合、マニュアルモードを選択した場合のみ選択可能です。

燃費向上のためのギアシフトインジケーターの詳細については、72ページを参照してください。



アップシフトインジケーター
エンジン回転数が上がり、最初のシフトレベルポイントに達すると、上側のドライブモードインジケーターインジケーターにパフォーマンスシフトライトに切り替わり、白色になります。



同じギアに入れたままエンジン回転が上がり続けると、2番目のシフトレベルに到達し、アウターシフトロックが点灯します。



続けて同じギアに入れたままエンジン回転が上がり続けると、3番目のシフト、インナーレベルシフトロックが点灯します。



ギアシフトの指示を無視しエンジン回転数が最終シフトポイントを超えると、パフォーマンスシフトラインとブロックの点滅が速くなります。



エンジン回転数の上昇に伴い、パフォーマンスシフトラインとシフトブロックがゆっくりと点滅し、「シフト」がドライバーに理想的なシフトポイントに到達したことを知らせます。

ディスプレイ、アラーム、ゲージ

ギア表示

ギアインジケーターは、現在選択中のギアポジションを表示します。

マニュアルトランスマッision車

表示:

ニュートラル
リバース
ギア1 ~ 6



オートマチックトランスマッision車

自動モード表示:

P -パーク
R -リバース
N -ニュートラル
D -ドライブ



マニュアルモード表示:

ギア1 ~ 6
'M' -マニュアルモード
も表示される。



ドライブモード表示

ドライバーディスプレイは、現在選択したドライブモードにリンクされています。61ページを参照してください。

ギアシフトインジケーター

高いギアで燃費を向上させながら必要なパフォーマンスが得られる場合、現在選択のギアの横にシフトアップの矢印が点灯します。

オートマチックトランスマッision車の場合、この機能は「マニュアルギア選択モード」が選択されているときのみ作動します。189ページを参照してください。

ロータス・ローンチコントロール

ロータス・ローンチコントロールが搭載されている場合のみ選択可能です。

この機能は、エミーラV6オートマチック・トランスマッision・モデル、または8速デュアル・クラッチ・トランスマッision・システムを搭載したエミーラ4気筒モデルのみに適用されます。

注意: エミーラ4気筒モデルの場合、1000 milesを超えるまではロータス・ローンチコントロールを使用しないでください。詳細については、204ページの「ならし運転」の項目も参照してください。

ロータス・ローンチコントロールは、エミーラV6モデルのすべてのドライブモードで作動します。エミーラ4気筒モデルの場合は、スポーツモード、もしくはトラックモードでのみ作動します。

この機能は、トラックモードに設定することでエンジントルクを最大にし、発進から最速の加速を実現します。



アラーム: いかなる場合でも、この機能を公道で使用しないでください。

ロータス・ローンチコントロールの準備

ロータスのローンチコントロールを実行するには、以下の車両条件を満たす必要があります。

- 車両は静止しドアを閉めた状態であること。
- エンジンオイル、冷却水、およびトランスマッisionフルードはすべて、正常な動作温度範囲にあること。
- ステアリングホイールが直進位置にあること
- すべてのタイヤの空気圧が推奨範囲内であること。
- MIL (誤動作表示灯) またはスタビリティ記号の点灯を引き起こすようなシステム障害が存在しないこと。詳細については、64ページを参照してください。
- 現在の車両走行距離が800 km以上であること。(エミーラV6モデルのみ)。



注記: エミーラV6モデルの場合、その他の条件を満たしていても、車両走行距離が800kmを超えるとロータスローンチコントロールは起動できません。

ディスプレイ、アラーム、ゲージ

ロータス・ローンチコントロールの起動
エンジンがアイドリング回転の状態で：

1. パーキングブレーキを解除します。
2. 左足でブレーキペダルをしっかりと踏み込みます。
3. トランスマッキンションをオートマチックモードにして、D-ドライブを選択します。
4. 左足をブレーキペダルに置いたまま、右足でアクセルペダルを素早く完全に踏み込みます。エンジン回転数が設定値まで上昇します。

ローンチコントロールの準備条件がすべて満たされていない場合、ドライバーディスプレイに通知メッセージが表示されます。



準備条件と起動条件がすべて揃うと、上側のドライブモードインジケーターラインが白に変わり、ほぼ瞬時にロータイマーに切り替わります。

ローンチタイマーはカウントダウンを続けます。ローンチモードが準備できると、「ローンチ」が表示されます。

アクセルペダルをしっかりと踏み続けた状態で、左足をブレーキペダルから離します。車両はローンチスタートを発揮し、最大限の加速を発揮します。エンジンオイル、冷却水、トランスマッキンションフルードが正常な作動温度範囲に戻った後、さらに制御されたローンチを発揮します。

**ロータス・ローンチコントロールの解除
加速中**

アクセルペダルを離すか、ブレーキペダルをかけます。

静止中

アクセルペダルを離すか、ローンチコントロールが解除されるまで約5秒間待ちます。ドライバーディスプレイに「ローンチモード解除」というメッセージが表示されます。

または

73ページに示される、1つ以上のローンチコントロールのパラメータが満たされなくなった場合。

ドライバーディスプレイのウィジェット

ドライバーディスプレイのウィジェット

ウィジェットのオプション

ドライバーディスプレイのウィジェットは、ステアリングホイール右側のキーパッドで操作します。また、中央ディスプレイの画面でも見ることができます。137ページをご覧ください。

⚠ アラーム: 運転中はこれらのシステムのオプションに気を取られないでください。事故を起こす要因となります。

- ○ボタンを押すかスワイプすると、ウィジェットのオプションが表示されます。
- □□□は、ウィジェットの他の画面オプションが利用可能な場合、ウィジェットの下に表示されます。
- 利用可能なウィジェットを表示するには、<>ボタンを押すか、○ボタンをスワイプします。
- ○ボタンを押してオプションを選択します。
- ☰を押して、利用可能なメニュー設定オプションにアクセス。
- 他の機能がアクティブでない場合、🔇🔇ボタンは音量調節として機能します。

ボタンを下にスワイプすると音量レベルが最小に、上にスワイプすると中レベルになります。





トリップコンピュータ
オドメーター画面

オドメーター

車両の総走行距離を表示します(リセット不可)。

トリップA トリップAを最後に手動でリセットしてからの走行距離が表示されます。

トリップB 1回の走行距離、または最後に給油してからの走行距離を表示するように設定することができます。



トリップAとBの画面

画面には以下が表示されます。

- 1 瞬間燃費。
- 2 トリップAの画面:
トリップAを最後に手動でリセットしてからの走行距離。
- 2 トリップBの画面:
現在のドライブサイクルまたは前回の燃料タンク給油時の走行距離。
- 3 前回のトリップがリセットされてからの平均燃費。
- 4 平均速度またはデュアル速度表示。
69ページもご覧ください。

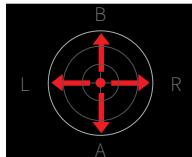
ドライバーディスプレイのウィジェット



性能

76ページにあるように、ステアリングホイールの右側キーパッドの操作で、ウィジェットのメニュー画面を表示します。

G-フォースメーター



A - 加速

B - ブレーキ

L - 左

R - 右

車両が現在受けている方向性Gフォースは、異なるレベルのGフォースを示す円内の領域を移動する際に、赤い点で示されます。

○を押すと、現在のドライブサイクルで到達した最大Gフォース値(gとして測定)が表示されます。

パワー	215 bhp
トルク	240NM
ブースト	24 %

パフォーマンスゲージ

〈〉または[△]○を押すと、現在のエンジン性能データが表示されます。



ダウンフォースゲージ

〈〉または[△]○を押すと、現在のダウンフォースが表示されます。ダウンフォースが増すにつれ、車両の上の点灯した気流ラインの数が増加します。

トラックツール



トラックツール

このメニューは、トラックモードのオプションが搭載されている車両で利用できます。

〈〉または[△]○を押すと、トラックツールが表示されます。

◇または[△]を押してから、○を押してオプションを選択します。

ドライバーディスプレイがトラックモードの場合、画面左側に選択中のトラックツール、右側には選択中のその他のメニューが表示されます。

⌚ ラップタイマー

76ページにあるように、ステアリングホイールの右側キーパッドの操作で、ウィジェットのメニュー画面を表示します。

セッションの開始



新しいイグニッションサイクルの最初のセッションは、センターディスプレイから起動する必要があります。137ページをご覧ください。



現在のラップ番号は、起動したタイマーの上に表示されます。

ラップタイムを記録



ラップボタンが強調表示されている状態で、もう一度○を押すと、タイマーが停止し、ラップタイムが記録されます。もしこれが最初のラップであれば、現在のベストラップタイムとして記録されます。



新しいラップを開始

ラップボタンが強調表示されている状態で、○を再度押すと新しいラップが開始され、再度押すとタイマーが停止します。



ラップ登録時にベストラップタイムがある場合は、前回のラップタイムと今回のセッションのベストラップタイムの時間差が10秒間表示されます。



現在のラップタイムがベストラップとして登録されたラップタイムより遅い場合、そのタイム差は赤色で表示されます。

より速いラップタイムを達成した場合、タイム差は緑色で表示されます。

ドライバーディスプレイのウィジェット

ラップを止める



ラップ中にタイマーを停止し、ゼロにリセットすることができます。
👉 ○で停止ボタンを強調表示します。
○を押すと、タイマーを停止します。



そのラップのタイマーはゼロにリセットされ、停止ボタンが開始ボタンに変わります。開始が強調表示されている状態で○を押すと、そのラップのタイマーが再開されます。

セッションの終了

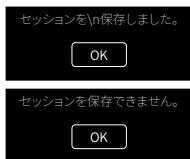


上記のように、👉 ○で停止ボタンを強調表示します。
もう一度スワイプすると、終了ボタンが強調表示されます。
○を押して、セッションを終了します。



セッションの保存

セッションを保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
👉 ○で、はい または いいえ を強調表示し、○を押して選択します。



はいを選択した場合、セッションが保存されたことを確認するメッセージが表示されます。



いいえを選択した場合は、プロンプトが表示されます。

また、セッションが保存されると、センターの表示画面に通知が表示されます。

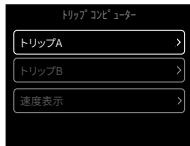


ラップタイマスタートメニューが表示されます。
○を押して、新しいセッションを開始します。
👉 または👉 ○を押すと、別のメニュー項目が表示されます。

トリップコンピュータのリセット

76ページにあるように、ステアリングホイールの右側キーパッドの操作で、ウィジェットのメニュー画面を表示します。

トリップA



トリップメニューから、△または○を押して、トリップコンピューターを表示します。

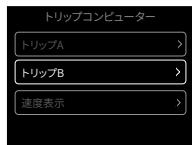
次に、△または○を押して、トリップAを強調表示し、○を押して選択します。



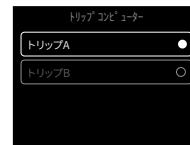
△または○を押してリセットオプションを強調表示し、○を押して選択します。

注記：トリップAのオプションはすべて、ライトスイッチの端にあるリセットボタンを押してもリセットできます。144ページをご覧ください。

トリップB

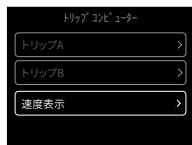


トリップコンピューターのメニューから、△または○を押してトリップBを強調表示し、○を押して選択します。

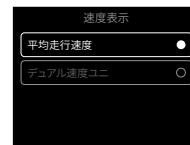


△または○を押してリセットオプションを強調表示し、○を押して選択します。

速度表示



トリップコンピューターのメニューから、△または○を押して「速度表示」を強調表示し、○を押して選択します。



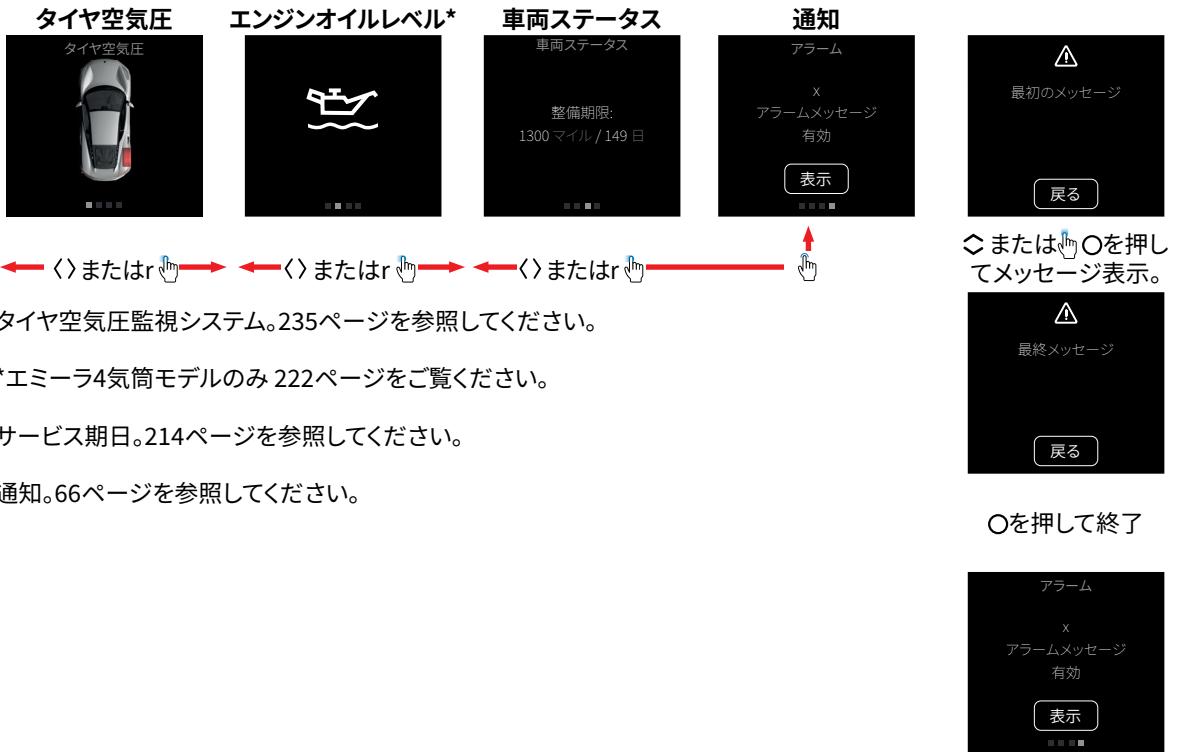
△または○を押して速度オプションを強調表示し、○を押して選択します。

ドライバーディスプレイのウィジェット



車両状態

76ページにあるように、ステアリングホイールの右側キーパッドの操作で、メニュー画面を表示します。



 **メディア**

76ページにあるように、ステアリングホイールの右側キーパッドの操作で、ウィジェットのメニュー画面を表示します。詳細については、別途インフォテインメントブックレットを参照してください。メディアメニューから次を選択できます。

**ラジオ**

AM/FMラジオから選局してください。
放送局名、曲名、アーティスト名
がある場合は表示されます。

**Bluetooth**

メディアは、Bluetoothで接続された適切なデバイス
から再生することができます。
アルバムジャケット、曲名、アーティスト名がある場合
は、表示されます。

**マイミュージック**

インフォテインメントシステムは、接続されたUSBストレージデバイス(フラッシュドライブ/メモリースティック)
内に保存の、認識されたオーディオファイルを再生します。
アルバムジャケット、曲名、アーティスト名がある場合は、表示されます。



 **注記:** MP3プレーヤー (iPodを含む) はインフォテインメントシステムで再生できません。

Apple CarPlay Android Auto

Apple CarPlayやAndroid Autoのアプリケーションは、適切なデバイスをインフォテインメントシステムとペアリング、もしくはUSBコネクターで接続することで利用可能です。
ドライバーディスプレイに表示される情報は、選択したアプリによって異なります。

ドライバーディスプレイのウィジェット



電話

76ページにあるように、ステアリングホイールの左右のキーパッドの操作により、ウィジェットのメニュー画面を表示します。 詳細については、別途インフォテインメントブックレットを参照してください。インフォテインメントシステムに対応した電話がペアリングされていれば、電話メニューから選択することができます。



最近の通話

⟨⟩または ○ を押して、最近の通話を表示します。
○ を押してメニューに入ります。



◇ または ○ を押して、最近の通話の連絡先詳細を表示します。
強調表示された最近の通話連絡先 ○ を押してダイヤルします。



お気に入りの連絡先

⟨⟩または ○ を押して、お気に入りの連絡先を表示します。
○ を押してメニューに入ります。



◇ または ○ を押して連絡先詳細を表示します。
強調表示された連絡先 ○ を押してダイヤルします。

ドライバーアシスタンス

ドライバーアシスタンス

クルーズコントロール

クルーズコントロールは、アクセルペダルを操作することなく、一定の走行速度を保つことができるため、通常の交通量の高速道路や長い直進道路を走行する際に有効です。

⚠ アラーム: 道路および交通状況が許す場合にのみ使用してください。

クルーズコントロールなどのドライバーアシスタンツシステムは、ドライバー支援のために開発されたものであり、ドライバーの注意に取って代わるものではありません。

ドライバーは、車両の運転に際にしては、全ての責任を負うものとします。

ドライバーは、危険または悪質な路面状態を避けるために、車速をコントロールし、先行車との距離を保つ心構えが必要です。

クルーズコントロールは、時速32km以上で選択可能です。

車速は時速1kmまたは5km単位で設定可能です。トラックモードを選択した場合、クルーズコントロールは使用できません。



スタンバイモード

クルーズコントロールは、ステアリングウィール左側キーパッドのスイッチで操作します。

△または□を押すと、ドライバーディスプレイにクルーズコントロールの△記号が表示されます。

△記号が白の場合、クルーズコントロールはスタンバイモードです。

△記号がグレーの場合、クルーズコントロールを有効にすることはできません。

起動

クルーズコントロールがスタンバイモードで:

- 必要な車速まで加速または減速します。
- ○ボタンを押します。
- 現在の車両走行速度が設定されます。
- 設定した速度が△記号の横に表示され、緑色に点灯している場合は、クルーズコントロールが機能しているということです。
- アクセルペダルを離すと、設定した車速が持続します。

ドライバーアシスタンス

通知メッセージ

クルーズコントロールが使用できない、あるいは解除されている場合は、ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。66ページを参照してください。

車速を上げる

走行速度をアクセルペダルで一時的に加速させることができ、アクセルペダルを離すと、それまで設定されていた車速に戻ります。

クルージング速度を上げる

クルーズコントロールを起動させて: 設定速度を5 km/h単位で上げるには、+ボタンを短く押してから放します。長押しすると、設定速度は1km/h。

または
必要な速度まで加速し、○ボタンを押してください。



クルージング速度を下げる

クルーズコントロールを起動させて:

設定速度を5 km/h単位で下げるには、=ボタンを短く押してから放します。長押しすると、設定速度は1km/h。



手動解除

○ボタンを押します。ドライバーディスプレイに、記号と設定速度が再び白く点灯します。クルーズコントロールがスタンバイモードに戻り、最後に設定された車両の走行速度が保存され、必要に応じて再利用できます。



オートマチックの解除

- 車両の走行速度が32km/h以下。
- 車両の走行速度が約209km/h以上に上昇する。
- ブレーキペダルを踏む。
- トランクションコントロールまたはエレクトロニックスタビリティコントロールが起動中。
- トランクモードが選択されている。
- 走行速度が設定速度よりも1分間以上上回っている。

ドライバーディスプレイに、記号と設定速度が再び白く点灯します。クルーズコントロールはスタンバイモードに戻り、最後に設定した車速を持続しているので、必要に応じ再度使うことができます。

クルーズコントロールを続行

クルーズコントロールが解除の状態(ただし、オフにはなっていない):

ドライバーアシスタンス

+^①ボタンを押して、再起動します。ドライバーディスプレイのクルーズコントロール設定速度と^②記号の色は白から緑に変わり、車両の走行速度は以前に保存された設定速度に戻ります。



⚠️ アラーム: クルーズコントロールを再開するのは、設定速度に戻りたいとき、そして設定速度を認識しているときのみにしてください。

解除するには

スタンバイモードから:

⟨⟩または^③○ボタンを押すと、別のオプションが表示されます。

稼働中:

- ○ボタンを押して、クルーズコントロールをスタンバイモードに設定します。
- 次にステアリングホイール左側キーパッドの⟨⟩または^③○を押して、別のオプションを表示します。

^④記号が消え、設定した速度が消去されます。

クルーズコントロールは、走行モードを切り替えると有効ですが、エンジンを切ると解除されます。

アダプティブクルーズコントロール (装着の場合)

アダプティブクルーズコントロールは、運転中の車両の真正面を走るターゲット車両*に対して、設定速度または時間間隔を維持するよう設計されています。

*アダプティブクルーズコントロールのオプションは、エミーラV6オートマチックトランスマッision車、または8速デュアルクラッチ・トランスマッisionシステム装着のエミーラ4気筒モデルにのみ設定されています。

アダプティブクルーズコントロールを有効にすると、前方のターゲット車が設定速度よりも遅い速度で走行していることをカメラとレーダーのセンサーが検知した場合、その車との車間距離を維持するよう車速が自動的に調整されます。前方の遅い車がいなくなると、車両は加速して設定速度に戻ります。

アダプティブクルーズコントロールは、設定車速と前方車両の運行状況に基づいて車速を調整するよう設計されていますが、レーダーセンサーには限界があるため、予期しないブレーキやブレーキ不足が起る場合があります。急ブレーキが必要な状況では、常にブレーキをかけるべきです。アダプティブクルーズコントロールは、

時速32km以上で有効化でき、有効になると完全停止の状態から時速180kmまで先行の車両を追従することが可能です。

⚠ アラーム: このシステムを使用する前に、本ハンドブックに記載のアダプティブクルーズコントロールに関する情報をすべて読み、その限界を認識するようお勧めします。

⚠ アラーム: アダプティブクルーズコントロールは、交通状況、天候、道路状況によっては機能しない場合があります。

⚠ アラーム: ドライバーアシスタンツシステムは、ドライバー支援のために開発されたものであり、ドライバーの注意に取って代わるものではありません。ドライバーは常に、現行の交通規則に従い、適切な速度と車間距離で車両を安全に運転する責任があります。

⚠ アラーム: アダプティブクルーズコントロールは衝突回避システムではありません。システムが他の車両を検知しない場合は、ブレーキをかけるのは常にドライバーの責任です。

⚠ アラーム: アダプティブクルーズコントロールは、人、動物、自転車、オートバイを検知できない場合もあります。また、動きの遅い車、駐車中の車、接近中の車、静止している物体を検知できないこともあります。

以下の場合は、アダプティブクルーズコントロールを使用してはいけません。

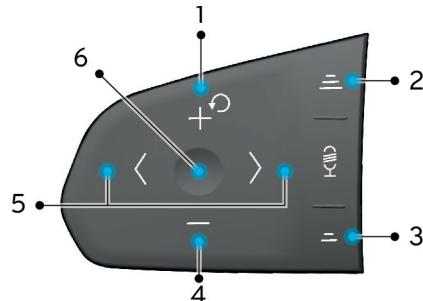
- 市街地など交通量の多い場所での運転。
- 道路が滑りやすい状況。
- 道路に水やぬかるみの多い場合。
- 大雨や降雪の場合。
- 視界が悪い。
- 曲がりくねった道やランプで。

アダプティブクルーズコントロールが有効な場合、車速はアクセルとブレーキによって制御されるため、アダプティブクルーズコントロールシステムによってブレーキが作動/解除される際に音を発する場合がありますが、これは正常な状態です。

! **注記:** ESC「オフ」またはトラックモードが選択されている場合は、アダプティブクルーズコントロールは使用できません。

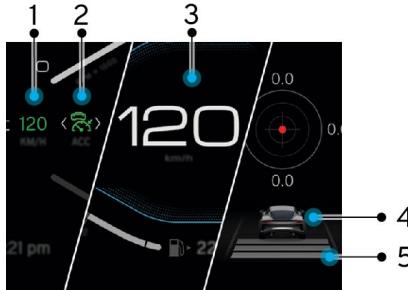
*トラックモードオプションが利用可能な場合。

ドライバーアシスタンス



クルーズとアダプティブクルーズコントロールは、ステアリングホイール左側のキー パッドに設置のスイッチで操作します。

- 1 前方車両との時間間隔を広げる。
- 2 前方車両との時間間隔を縮める。
- 3 - スタンバイモードからシステムを起動し、設定された速度に戻す。
- 設定速度を上げる。
- 4 設定速度を下げる。
- 5 クルーズコントロールかアダプティブクルーズコントロールかを選択。
- 6 車速を設定する。



ドライバーディスプレイ

アダプティブクルーズコントロールが有効な場合、ドライバーディスプレイに以下の情報が表示されます。

- 1 アダプティブクルーズコントロールの設定速度。
- 2 アダプティブクルーズコントロールの記号。
- 3 実際の車速。
- 4 前方車両を検知。
- 5 時間間隔。

記号と画像

 アダプティブクルーズコントロールシステムの状態に応じて、ドライバーサポートメニューに表示される記号と画像の色が変わります。

カラー/ステータス メニュー画像

白/無効		画像なし
グレー/使用不可		画像なし
緑/有効		車が検出された*
白/スタンバイ		時間間隔ラインが暗くなる
緑/オーバーライド		時間間隔ライン非表示
緑/ストップ		車が検出された

*検出されない場合、車両は表示されません。

アダプティブクルーズコントロールの限界
 アダプティブクルーズコントロールの理想最適運転条件は、路面が平坦な場合に発揮されます。急な下り坂を運転中、前方車両との適切な車間距離を保つのが困難な場合があります。このような状況では、ドライバーは細心の注意を払い、ブレーキをかけるよう準備しておく事が求められます。

カメラとレーダーの制限については 119 ページを参照してください。



スタンバイモード

ステアリング左側キーパッドに設定のスイッチを使う。

〈〉または○を押すと、ドライバーディスプレイにアダプティブクルーズコントロールの記号が表示されます。

記号が白の場合、アダプティブクルーズコントロールはスタンバイモードです。

記号がグレーの場合、アダプティブクルーズコントロールは無効です。



起動

アダプティブクルーズコントロール待機モード:

- 必要な車速まで加速または減速します。
- ○ボタンを押します。
- 現在の車両走行速度が設定されます。
- 設定した速度が記号の横に表示され、緑色に点灯している場合は、アダプティブクルーズコントロールが機能しているということです。
- アクセルペダルを離すと、設定した車速が持続します。

ドライバーアシスタンス

車速を上げる

走行速度をアクセルペダルで一時的に加速させることができ、アクセルペダルを離すと、それまで設定されていた車速に戻ります。

クルージング速度を上げる

アダプティブクルーズコントロール作動時：

設定速度を5 km/h単位で上げるには、+○ボタンを短く押してから放します。長押しすると、設定速度は1km/h単位で上がります。

または

必要な速度まで加速し、○ボタンを押してください。



クルージング速度を下げる

アダプティブクルーズコントロール作動時：

設定速度を5 km/h単位で下げるには、=ボタンを短く押してから放します。長押しすると、設定速度は1km/h単位で上がります。



手動解除

○ボタンを押します。ドライバーディスプレイに、記号と設定速度が再び白く点灯します。アダプティブクルーズコントロールがスタンバイモードに戻り、最後に設定された車両の走行速度が保存され、必要に応じて再利用できます。



車両に追従する

前方のターゲット車が停止するまで減速すると、アダプティブクルーズコントロールシステムは必要に応じてブレーキをかけながら自車を減速させ、ターゲット車の3~6メートル後方に停止させます。

ターゲット車が3秒以内に前進すると、アダプティブクルーズコントロールは自動的に再開します。



ターゲット車が3秒以降に前進した場合、アダプティブクルーズコントロールを自動的に再開させるには、アクセルペダルを踏む、またはステアリングホイール左側のキーパッドに設定の続行ボタンを押してください。

10分経過してもターゲット車が動かない場合は、代わりにパーキングブレーキが自動的に作動し、アダプティブクルーズコントロールはキャンセルされます。

オートマチックの解除

アダプティブクルーズコントロールは、以下の場合に自動的にスタンバイモードに切り替わります：

- 車速が時速15km/h以下となり、前方の車両が静止しているのか、スピードバンプなどの物体なのかをシステムが判断できない場合。
- 車速が時速15km/h以下となり、前方の車両が車線変更または旋回したため、システムが追従すべきターゲット車がなくなった場合。
- 運転席のドアが開いている。
- 運転席のシートベルトが締まっていない。
- トランクションコントロールまたはエレクトロニクス・スタビリティ・コントロールが有効化、またはエレクトロニクス・スタビリティコントロールがオフになった。
- トランクモードが選択されている。
- ブレーキペダルが踏み込まれている。
- パーキングブレーキがかかっている。
- ニュートラル、リバース、パークを選択。
- 走行速度が設定速度よりも1分間以上上回っている。
- レーダーセンサーが覆われている（雪や大雨などで）。



注記: アダプティブクルーズコントロールが自動的に解除された場合、メッセージまたは音声によるアラームが表示されます。

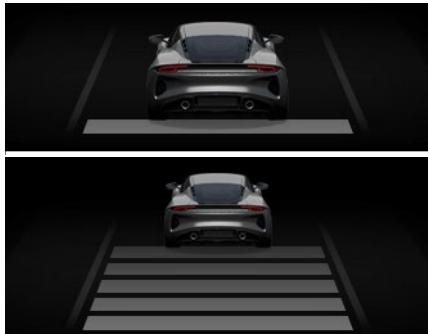
アダプティブクルーズコントロールの再開
アダプティブクルーズコントロールが無効になっている（だがオフにはなっていない）：

+ ボタンを押して、再起動します。ドライバーディスプレイのクルーズコントロール設定速度と記号の色は白から緑に変わり、車両の走行速度は以前に保存された設定速度に戻ります。



アラーム: アダプティブクルーズコントロールを再開すると、走行速度が大幅に上昇する可能性があります。

ドライバーアシスタンス



時間間隔

前方車両までの時間間隔は左側のキーパッドから選択でき、ドライバーディスプレイのサポートメニューに1~5本の横棒で表示されます。検出車両の後ろに表示される1本のバーは時間間隔約1秒を表し、バー5本は約3秒に相当します。

注記: 工場出荷時の時間間隔は3本のバーですが、アダプティブクルーズコントロールを再起動すると、時間間隔は前の設定から再開されます。

時間間隔の設定

アダプティブクルーズコントロール作動時:

三を押して時間間隔を長くする。



二を押して時間間隔を縮める。

アダプティブクルーズコントロールシステムは、前方車両をできるだけ安定的に追従させるため、一定条件下で時間間隔を変化させます。

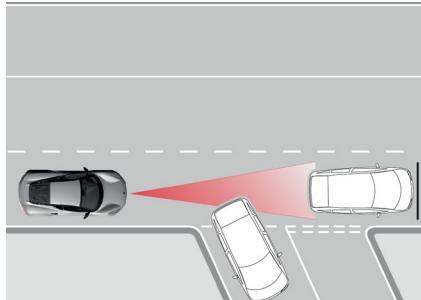
低速走行時に前方車両との距離が短い場合、アダプティブクルーズコントロールはその間隔をわずかに広げます。

アラーム: 時間間隔が短ければ短いほど、ドライバーは不測の交通状況に対応するための反応時間が短くなります。ドライバーは常に、安全な走行速度に調整し、維持する責任があります。

アラーム: 現地の交通規制に従って、時間間隔を設定してください。

注記: アダプティブクルーズコントロールをアクティブモードにしても反応しない場合は、プリセットした前方車までの時間間隔によって速度を上げられないためかもしれません。

注記: 走行速度が速いほど、一定時間内の前方車両との距離が長くなります。



ターゲット車の変更

アダプティブクルーズコントロールが作動中で、時速30km以下で他の車両に追従している際、システムが走行中の車両から停止中の車両にターゲットを変更すると、システムが自動的にブレーキをかけて車両を停止させます。

⚠ アラーム: 時速30km以下でアダプティブクルーズコントロールが走行中の車両から停止中の車両にターゲットを変更した場合、システムは停止中の車両に反応せず、前回設定した速度まで加速することがあります。

車を減速または停止させるには、手動でブレーキをかける必要があります。

ターゲット変更時の自動スタンバイモード

アダプティブクルーズコントロールは、前方の車両が車線変更または方向転換を行ったためアダプティブクルーズコントロールが追従すべきターゲット車を失った場合、スタンバイモードに移行します。

エラーメッセージ

システム故障が検出されるとメッセージが表示されます。

メッセージ	カメラの使用性
フロントカメラの遮断、ウィンドシールドを清掃	フロントカメラの前のウィンドシールドを清掃すること。
フロントカメラ整備が必要	カメラが正常に動作しない、ロータス・ディーラーに連絡。
ACCのキャンセル。	アダプティブクルーズコントロールの解除。
ACC使用不可。 ドライバーのシートベルト不使用。	ドライバーのシートベルトが締まっていないため、アダプティブクルーズコントロールが使用できない。
ACCキャンセル。 フロントレーダーセンサーの遮断	フロントレーダー検知機の清掃
ACCのキャンセル	トラックモードからツアーモード、スポーツモードへの切り替え。

ドライバーアシスタンス

スピードリミッター(調整式)

スピードリミッターは、予め設定された最高速度を超えないように制御します。

自動スピードリミッターについては 98 ページをご参照ください。

⚠ アラーム: 道路および交通状況が許す場合にのみ使用してください。

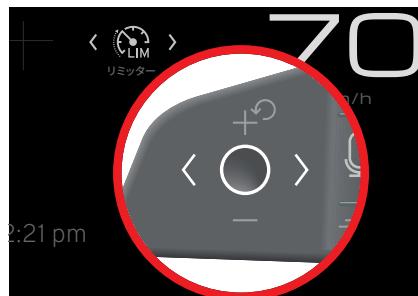
⚠ アラーム: スピードリミッターなどのドライバーアシスタンツシステムは、ドライバー支援のために開発されたものであり、ドライバーの注意に取つて代わるものではありません。ドライバーは、車両の運転に際にしては、全ての責任を負うものとします。

⚠ アラーム: ドライバーは、危険または悪質な路面状態を避けるために、車速をコントロールし、先行車との距離を保つ心構えが必要です。

スピードリミッターは32 km/h以上で起動可能です。車速は時速5kmまたは1km単位で設定可能です。

下り坂を走行する場合、制限速度から逸脱する場合があります。トラックモードを選択した場合、スピードリミッターは使用できません。

調整式スピードリミッターは、中央ディスプレイの車両設定 → ドライバーサポート → 車速サポートメニューで選択/解除できます。124ページを参照してください。



スタンバイモード

ステアリングホイールの左側キーパッドの「<」または「>」を押して、ドライバーディスプレイにスピードリミッターの  記号を表示します。

 記号が白の場合、スピードリミッターはスタンバイモードです。

 記号がグレーの場合、スピードリミッターは機能しません。



起動

- スタンバイモードのスピードリミッターで：
- ○ボタンを押します。
 - 車両の最高走行速度が設定され、記憶されます。
 -  記号の横に最高車速が表示され、緑色に点灯している場合は、スピードリミッターが機能しているということです。
 - これで、その設定速度までしか加速しません。

最高速度の調整

スピードリミッタを起動させて:
+[○] または -[○] ボタンを押すと、最高速度が増減します。



設定速度を5 km/h単位で増減させるには、+[○] または -[○] ボタンを短く押して放します。長押しすると、最高速度は1km/h単位で増減します。

解除

○ボタンを押します。ドライバーディスプレイには、記号と設定速度が白く点灯します。スピードリミッタがスタンバイ状態になります。

**続行**

スピードリミッタを解除した状態(オフではない):

+[○] ボタンを押して、再起動します。ドライバーディスプレイのスピードリミッタ設定速度と記号が白から緑に変わります。



これで車両は、あらかじめ設定された速度までしか加速しなくなります。

解除するには

スタンバイモードから:

<[○] または  ボタンを押すと、別のオプションが表示されます。

稼働中:

- ○ボタンを押して、スピードリミッタをスタンバイモードにします。
- 次にステアリングホイール左側キーパッドの<[○] または  を押して、別のオプションを表示します。

記号が消え、最高設定速度が消去されます。

スピードリミッタは、走行モードを切り替えても作動し続けますが、エンジンを切ると解除されます。

ドライバーアシスタンス

スピードリミッターの一時解除

追い越しの際には、制限速度以上の速度で走行する必要があるかもしれません。一時的に解除する場合は：

- スピードリミッターが一時的に解除されるまで、アクセルペダルを最大一杯踏み込んでください。
- 他の車を追い越します。
- 一時的加速が済んだらアクセルペダルを完全に離します。

その後、エンジンブレーキにより、車速は最後に記憶された最高速度以下に自動的に戻されます。

スピードリミッターの限度

急な下り坂では、スピードリミッターの制動効果が十分でなく、実際の車速が記憶されている最高速度を超えることがあります。

スピードリミッター(自動)

(装着の場合)

自動スピードリミッター機能は、車両の最高速度を交通標識*に表示された速度に設定し、維持します。

ステアリングホイール左手のキーパッドを使って、中央ディスプレイで自動スピードリミッターのオプションを選択すると、スピードリミッター機能を自動に変更できます。

自動スピードリミッターは、中央ディスプレイの車両設定 → ドライバーサポート → 車速サポートメニューで選択/解除できます。122.ページを参照してください。

自動スピードリミッターはクイックパネルのメニューからも選択できます。131ページを参照してください。

* 108ページの交通標識の認識も参照してください。

⚠ アラーム: ドライバーが速度関連の道路標識をはっきりと認識していても、交通標識認識システムからの速度情報が正しくない場合があります。このような場合はドライバーが介入して、適切な速度までアクセルまたはブレーキを踏まなければなりません。

⚠ アラーム: このシステムを使用する前に、本ハンドブックに記載されている自動スピードリミッターに関する情報を見てください、その限界を認識しておくことをお勧めします。

⚠ アラーム: ドライバーアシスタンツシステムは、ドライバー支援のために開発されたものであり、ドライバーの注意に取って代わるものではありません。ドライバーは常に、現行の交通規則に従い、適切な速度と車間距離で車両を安全に運転する責任があります。

起動

中央ディスプレイで自動スピードリミッターを選択します。122ページを参照してください。

ステアリングホイール左側のキーパッドを使用して、スピードリミッターをスタンバイモードにします。86ページを参照してください。

- 自動スピードリミッターが使用可能な場合、ドライバーディスプレイに白い  の記号が表示されます。
-  記号がグレーの場合、自動スピードリミッターは無効です。

左側キーパッドに設定の  ボタンを押すと、現在の車速で自動スピードリミッターが作動します。

 記号の横に最高車速が表示され、緑色に点灯している場合は、スピードリミッターが機能しているということです。

これで、車両はあらかじめ設定した速度、またはドライバーディスプレイに表示の交通標識の制限速度まで加速します。



注記: 交通標識認識が作動していない場合、自動スピードリミッターオプションが作動している場合は、ドライバーディスプレイに道路標識情報が表示されます。



注記: ドライバーディスプレイの交通標識情報を非表示とするには、交通標識認識と自動スピードリミッターの両方のオプションを解除する必要があります。

ドライバーアシスタンス

許容速度レベル

許容速度レベルは、調整式スピードリミッターの速度設定と同じ方法で増加します。

現在の車速がドライバーディスプレイに表示の交通標識の最高制限速度に設定されている場合(例えば70 km/h)、設定速度はさらに10 km/hまで上げることができます。

許容速度レベルの調整

最高速度を上げるには、ボタンを長押しするか、繰り返し押してください(最大時速 10 kmまで)。

増加した設定速度は、の記号の横に表示されます。

ドライバーディスプレイに70 km/hの交通標識が継続して表示されている場合、設定速度(80 km/h)まで上がります。

この増加許容速度は、これより低い速度または高い速度を表示する交通標識を通過してドライバーディスプレイに表示され

るまで、維持されます。車両の最高走行速度は、新たな制限速度に調整され、自動スピードリミッターシステムからは許容速度レベルが削除されます。

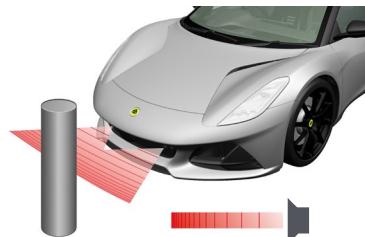
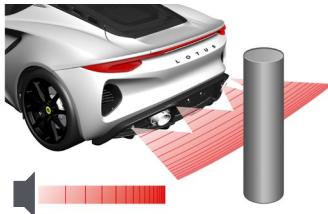
自動スピードリミッターの限度

自動スピードリミッターは交通標識認識システムからの速度情報を使用します。道路標識が認識できなかったり、何らかの理由で制限速度が表示されなかった場合には、自動スピードリミッターは現在の車速または20 km/h(いずれか高い方)に設定されます。

このような事態が発生した場合、ドライバーはブレーキを使用するか、適切な速度まで車両を減速させる準備をしなければなりません。交通標識認識システムによって道路標識が認識されると、自動スピードリミッターが再び作動します。



注記: 表示の制限速度が30 km/h未満の場合、スピードリミッターは30 km/hに設定されます。



パークアシストシステム

パークアシストシステム(PAS)*は、超音波センサーにより、駐車時や操縦時に車両の前方や後方に近接する物体を検知し、表示するシステムです。

PASは、リバースギアを選択すると自動的に起動しますが、後進時はいずれの速度でも、また前進時は時速12 kmまでの低速で作動します。



作動中は、中央ディスプレイに車両の画像が表示され、センサーエリアが、検出物体と車両との相対近接度を表示します。

車両の進行経路上に物体が検知されると、周波数が高まり音声によるフィードバック信号が鳴ります。

車両画像に最も近いアクティブセンサーフィールドは、対象物が近づくにつれて、白→黄→琥珀→赤、のように色が変化します。

PASのアラームを優先するため、インフォテインメントシステムからの他のすべての音声フィードバックが小さくなります。ディスプレイのボタンをタップすると、必要に応じて音のON/OFFができます。リアPASがレッドゾーン内の物体を検知しない限り、車両が2秒間停止していると音声フィードバックが停止します。

PASは運転開始/停止中に有効ですが、パーキングブレーキをかけると解除、またオートマチック車の場合P-パークを選択すると解除されます。

* PASはオプション機能ですので、お客様の車両には搭載されていない場合があります。

⚠ アラーム: これらの機能は、あくまでもパーキングの補助であり、全方位からの注意深い観察に取って代わるものではありません。ドライバーは、常に安全な操縦と安全運転に責任を持つものとします。

⚠ アラーム: PASの音声フィードバックと実際の検出距離に慣れるまで、このシステムを十分に活用してください。

ドライバーアシスタンス

 **アラーム:** 子供や動物などの小さなオブジェクト、動いているもの、狭い柱、牽引車、縁石、車両の左右にあるものなどは検知できない場合があります。

 **アラーム:** PASセンサーの機能を十分に発揮させるためには、雪や氷などの異物が付着しないよう、常に清潔に保つ必要があります。

 **注意:** PASセンサーは、高い位置にある物体を検知できません。荷台、棚、ハンガーなどの突起物が車両の近くにある場合は、特に注意して操縦してください。

PASセンサーの位置については、21ページを参照してください。

パークアシストシステムセンサーの洗浄
263ページをご覧ください。

パークアシストシステムのプリセット
パークアシストシステムの起動/解除や音量レベルの設定は、中央ディスプレイから操作できます。詳細については、124および131ページを参照してください。



パーキングアシストカメラ

中央ディスプレイにパーキングアシストカメラ(PAC)が捉えた車両後方の映像が映し出されます。



PACは、リバースギアを選択すると、いずれの速度でも自動的に起動します。また、中央ディスプレイの画面を使って手動で起動させることもできます。

カメラの映像に軌道のガイドラインを重ねることで、車両後方の地面を表します。このガイドラインは、車両後方の軌道を表

します。このガイドラインはステアリングホイールの回転に相関して調整されます。

リアパーキングカメラの位置については21ページを参照してください。

PACはパークアシストシステム(PAS)と連動しており、両方を同時に確認することができます。

⚠ アラーム: これらの機能は、あくまでパーキングの補助であり、全方位からの注意深い観察に取って代わるものではありません。ドライバーは、常に安全な操縦と安全運転に責任を持つものとします。

パーキングアシストとカメラのオプション
PACが起動している場合、オプションが画面の側面に表示されます。

P (パーキングアシスト) PASのオン/オフを切り替えます。
128ページを参照してください。

／＼ (ガイドライン) PACの軌道ガイドラインをオン/オフに切り替えます。

🔇 (音声) PASセンサーフィールドのオン/オフを切り替えます。

🔇 (音声) PASセンサーの音声フィードバックをミュート/ミュート解除します。

ブラインドスポット

カメラの視野には限度があります。リアパーキングカメラに映った子供や物が突然見えなくなった場合、カメラの死角に入った可能性がありますので、後進を続ける前に車の後方を再確認してください。

⚠ アラーム: 子供や動物などの小さなオブジェクト、動いているもの、狭い柱、牽引車、縁石、車両の左右にあるものなどは検知できない場合があります。

ドライバーアシスタンス

アンビエントライティング

カメラ画像は周囲の明るさに合わせて自動的に調整されますが、周囲の照明が暗すぎたり明るすぎたりすると、中央ディスプレイに表示される画像の質が低下することがあります。

オーナーのメンテナンス

PACレンズの機能を十分に発揮させるためには、汚れ、雪、氷などの異物がないように清潔に保つ必要があります。

パークアシストカメラレンズの洗浄

263ページをご覧ください。

エラーメッセージ

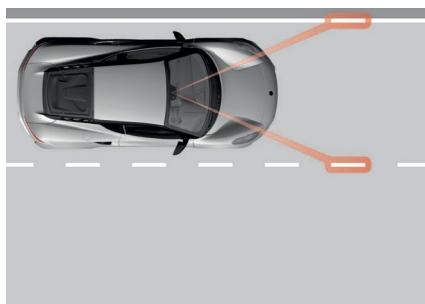
パーキングアシストカメラシステムに不具合が検出された場合、中央ディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージ	カメラの使用性
パーキングカメラが一時的に使用できない。	パーキングアシストカメラの作動を一定時間抑制するような故障が検出された場合、パーキングアシストカメラは一時的に使用不可となります。
パーキングカメラが反応しない。	整備が必要です。修理または交換が行われるまで、パーキングアシストカメラは延々と使用不可となります。

疲労アラート

(装着の場合)

疲労アラートは、ドライバーが注意散漫になっていたり、居眠りをしている可能性がある場合など、運転が安定しなくなってきたことを警告する補助装置です。



ウィンドシールド上部の後方に取り付けられたカメラが、道路方向とステアリングホイールの動きを比較しながら、利用できるいずれの車線表示をも監視します。

選択した場合、車速が65 km/hを超えると疲労アラートが作動し、車速が60 km/hを下回らなければこの作動を継続します。



疲労アラートにより車両の運転が不安定だと検知された場合、このアラーム記号と「ドライバーに休憩を警告」のメッセージがドライバーディスプレイに表示されます。



アラーム: 疲労アラートは、運転時間の延長をサポートするための装置ではありません。運転中の注意力を保つために、常に定期的な休憩を計画に入れてください。



アラーム: 疲労アラートを無視してはいけません。実際に疲労していても自覚していない場合があります。できるだけ早く安全な場所に停車し、休憩してください。



アラーム: 状況によっては、疲労が運転スタイルに影響しないこともあるため、アラームメッセージは表示されません。したがって、疲労アラートが選択されているかアラームメッセージが表示されたかどうかにかかわらず、定期的に休憩を取ることが重要です。



アラーム: ドライバーアシスタンツシステムは、ドライバー支援のために開発されたものであり、ドライバーの注意に取って代わるものではありません。ドライバーは常に、現行の交通規則に従い、適切な速度と車間距離で車両を安全に運転する責任があります。

ドライバーアシスタンス

疲労アラートの限度

疲労アラートは、次のような運転条件など、運転パターンに一貫性がない場合も警告を発することがあります：

- 強い横風の中。
- 輻のついた路面。

カメラの限度については 119 ページを参照してください。

疲労アラートは、中央ディスプレイの車両設定 → ドライバーサポートメニューで選択/解除できます。124ページを参照してください。

! **注記:** 選択を解除すると、このシステムは次のドライブサイクルでアクティブになります。

車線逸脱警告

(装着の場合)

レーン逸脱警告は、ドライバーディスプレイの中央下部にあるドライバーサポートメニューで、車両が高速道路などの主要道路で意図せず現在のレーンを離れる可能性を、左右のレーンマークの色を変えることで視覚的および聴覚的に示します。

選択した場合、車線逸脱警告は、車線表示がはっきりと見える道路で、車速 40 – 125 mph もしくは 65~180 km/h の範囲で作動します。

車線逸脱警告はスタンバイモードになり、狭い道路や、車線表示が消えている、あるいは目立たない主要道路では使用できません。このシステムは、道路幅が広がり、車線がはっきりしてくると利用できるようになります。

方向指示器の使用中は、ドライバーディスプレイには車線逸脱警告の表示はありません。

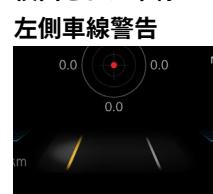
道路標識のイメージ

車線が検出されない



車線が検出されないか、システムがスタンバイ状態。

検出された車線



車両が車線を左側に逸脱している。

左側車線警告



車両が車線を右側に逸脱している。

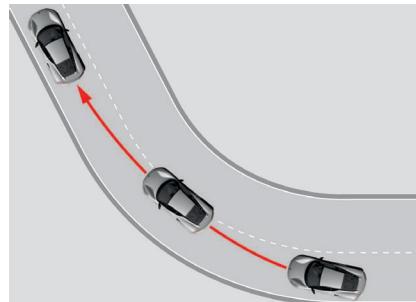


車線逸脱警告が解除されている場合(128ページを参照) ドライバーディスプレイにこの記号が点灯します。

⚠ アラーム: 車線逸脱警告は、より安全な運転を目的とした補助的なドライバーアシスタンスシステムであり、交通状況、天候、道路状況によっては機能しません。

⚠ アラーム: このシステムを使用する前に、運転者はこのハンドブックに記載されている車線逸脱に関する情報をすべて読み、その限界を認識するようにしてください。

⚠ アラーム: ドライバーアシスタンツシステムは、ドライバー支援のために開発されたものであり、ドライバーの注意に取って代わるものではありません。ドライバーは常に、現行の交通規則に従い、適切な速度と車間距離で車両を安全に運転する責任があります。



方向指示器の使用中やカーブでコーナーを切るときなど、状況によっては、車両はアラーム表示することなく側線を越えてしまうことがあります。

車線逸脱警告の限度

特定の条件下では、車線逸脱警告システムがドライバーを支援できない場合があります。次のような条件下で運転する場合は、この機能をオフにすることをお勧めします：

- 道路工事。
- 冬季の道路状況。
- 路面状態が悪い。
- スポーツタイプのドライビングスタイルの場合。
- 視界が悪くなるような悪天候。
- 車線表示が不明瞭、または全くない道路。
- 車線表示以外の鋭利なエッジやライン。

! **注記:** 車線逸脱警告は、車道脇のバリアやレール、その他同様の障害物を検知することはできません。

カメラの限度については 119 ページを参照してください。

車線逸脱警告は、中央ディスプレイの車両設定 → ドライバーサポートメニューで選択/解除できます。128.ページを参照してください。

ドライバーアシスタンス

車線逸脱警告は、クイックパネルメニューからも選択/解除できます。131ページを参照してください。

! **注記:** 選択を解除すると、このシステムは次のドライブサイクルでアクティブになります。



交通標識の認識

(装着の場合)

前方カメラを使ってドライバーディスプレイに表示される交通標識認識システムは、現在走行中の道路の制限速度や特定の交通規制を知らせます。また、認識された制限速度を超えた場合の警告としても使用できます。

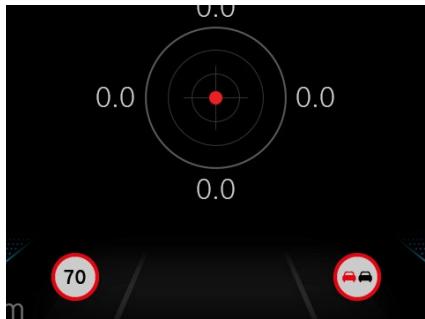
! **アラーム:** 交通標識認識は、より安全な運転を目的とした補助的なドライバーアシスタンスシステムであり、交通状況、天候、道路状況によっては機能しません。

アラーム: このシステムを使用する前に、運転者はこのハンドブックに記載されているすべての交通標識認識情報をお読み、その限界を認識するようしてください。

アラーム: ドライバーアシスタンツシステムは、ドライバー支援のために開発されたものであり、ドライバーの注意に取って代わるものではありません。ドライバーは常に、現行の交通規則に従い、適切な速度と車間距離で車両を安全に運転する責任があります。

! **注記:** 交通標識認識はカメラからの情報を使用するため、他の車両や樹木に遮られた標識は認識できない可能性があります。

! **注記:** 交通標識認識システムは時速0~250km/hで作動します。



交通標識認識が有効の場合、車両が認識可能な道路標識を通過すると、ドライバーディスプレイの中央下部に記号で表示されます。

 **70** 制限速度表示

 **補足記号**

道路標識は片側1点まで表示します。

ドライバーディスプレイに表示されている制限速度標識は、車速がその標識に表示されている制限速度を1km/h以上超えると点滅します。表示された速度制限を超えて続ける場合、可聴警告も発せられます。

交通標識認識は、中央ディスプレイの車両設定 → ドライバーサポートメニューで選択/解除します。128.

 **注記:** 選択を解除すると、このシステムは次のドライブサイクルでアクティブになり、以前に設定した感度レベルのみが変更されません。

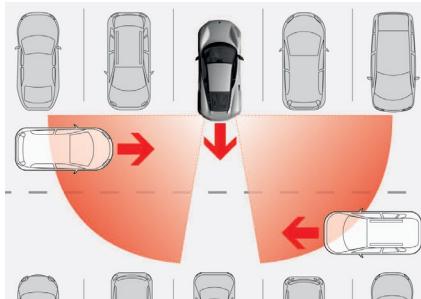
交通標識認識の限度

交通標識認識システムは、標識の読み取りが困難な場合があります：

- 色褪せ。
- カーブの途中にある。
- 向きが異常、損傷している。
- 道路より高い位置にある。
- 全体/部分的に見えないか、位置が悪い。
- 全体/部分的に霜、雪、土で覆われている。

交通標識認識はカメラユニットを使用しますが、一般的な限度がいくつかあります。119ページを参照してください。

ドライバーアシスタンス



リアクロストラフィックアラート (装着の場合)

リアクロストラフィックアラートは、バック時または車両が後転した場合に作動し、車両の後方を横切る交通がある場合に警告します。

リアクロストラフィックアラートは車両の検知が目的ですが、自転車やその他の小さな物体も検知されることがあります。



車両後方から接近する物体を検知すると、以下のアラートが作動します：

- 中央ディスプレイのパーキングアシスト画像
» 左側から物体が接近しているときにグラフィックが表示される。
- » 右側から物体が接近しているときにグラフィックが表示される。
- »»» 両側から物体が接近しているときにグラフィックが表示される。

音声/ミラーアラート

(装着の場合)

車両が移動中：単一の可聴音が鳴り運転席ドアミラーの  記号が点滅します。

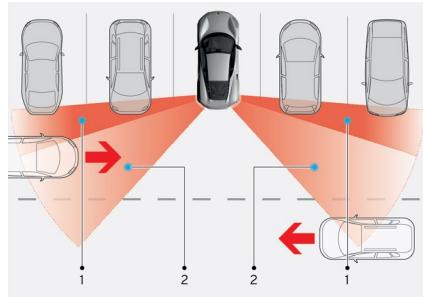
車両が静止中：音は鳴らず、運転席ドアミラーの  記号が点滅します。

アラーム: このシステムを使用する前に、運転者はこのハンドブックに記載されているすべての交通標識認識情報を取り読み、その限界を認識するようしてください。

アラーム: リアクロストラフィックアラートは補助的なドライバーアシスタンスシステムであり、全方位を注意深く観察することの代替えにはなりません。ドライバーは、常に操縦、運転、後退を安全に行う責任があります。

注記: リヤクロストラフィックアラートは、パーキングアシストシステムの作動または解除に連動して自動的に作動または解除されます。リヤクロストラフィックアラートの音量のみ、独立して変更可能です。

音量警告音を変更するには、中央ディスプレイの車両設定→ドライバーサポートメニューをご覧ください。128.ページを参照してください。



リヤクロストラフィックアラートの限界

車両位置が駐車スペースの前方にあります場合、ゾーン1として表示されるセンサーの視野は他の駐車車両に遮られてしまいます。

ゾーン2エリア内に接近する車両のみが検知されます。

これは限界の一例に過ぎず、リヤクロストラフィックアラートはすべての状況で機能するとは限りません。リヤクロストラフィックアラートが機能していると仮定しても、ドライバーは安全に後退する全責任があります。

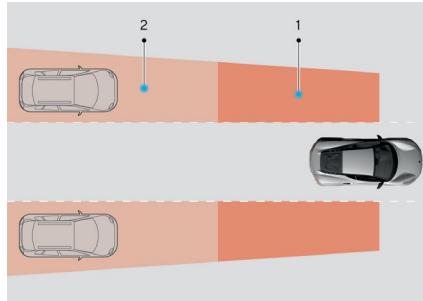
リヤクロストラフィックアラートはリアレーダーユニットを使用しますが、一般的な限界がいくつかあります。120ページを参照してください。



死角検知システム (装着の場合)

死角検知システムは、車両の死角に後方から接近てくる他の車両について警告するものです。死角検知システムと組み合わされるのが、車両接近警報システムで、隣接車線の後方から他の車両が急接近し、ドライバーが車線変更を決断した場合に衝突の危険性がある場合にドライバーに警告を発します。

ドライバーアシスタンス



ゾーン 車両位置/状態

- 1 死角検知システム。
- 2 車両接近アラーム。

死角検出システムがゾーン1内の車両を検出すると、対応するドアミラー内の^⑨表示記号が継続的に点灯します。

車両接近警報システムがゾーン2内の他の車両の急接近を検知すると、対応するドアミラー内の^⑩表示記号が継続的に点灯します。

その後、警告が発せられた側の方向指示器を使用すると、^⑨の表示記号が点滅し、アラーム音が鳴ります。



アラーム: このシステムを使用する前に、ドライバーは本ハンドブックに記載の死角検出に関するすべての情報を読み、その限界を認識するようしてください。



アラーム: ドライバーアシスタンツシステムは、ドライバー支援のために開発されたものであり、ドライバーの注意に取って代わるものではありません。ドライバーは常に、現行の交通規則に従い、適切な速度と車間距離で車両を安全に運転する責任があります。



アラーム: この機能は運転をより安全にするための補助的なドライバーアシスタンツシステムであり、交通状況、天候、道路状況によっては機能しないことがあります。



アラーム: 死角検知システムは、道路の急カーブを走行中は機能しません。

- 死角検知システムは、車速が10km/hまたは10km/hを超えると有効になります。

- 死角検知システムは、通過車両の速度が自車より15km/h以上速い場合は機能しません。

- 死角検知システムは、二輪車や小さな障害物を検出できない場合があります。

アラーム音量設定

車線変更警告システムのアラーム音量をオフにしたり異なるレベルの音量に設定することができます。

死角検知システムは、リアレーダーユニットを使用しますが、一般的な限度がいくつかあります。120ページを参照してください。

死角検知システムは、中央ディスプレイの車両設定→ドライバーサポートメニューで選択/解除します。128ページを参照してください。

死角検知システムは、クイックパネルメニューからも選択/解除できます。131ページを参照してください。

! **注記:** 選択を解除すると、このシステムは次のドライブサイクルでアクティブになり、以前に設定した感度レベルのみが変更されません。



ドアオープン警告 (装着の場合)

車両が静止している状態で、ドアを開けた場合に車両の後方から(進行方向と平行に)接近してくる交通をいずれも、乗員に警告します。

アラームシステムが開いたドアに衝突する可能性のある車両を検知すると、次のようにドライバーに警告を発します。

- ドライバーディスプレイの中央下部に視覚的にアラーム表示。
- アラーム音。
- 該当する運転席または助手席のドアミラーに、の黄色に点滅する表示記号。

! **アラーム:** ドアオープン警告は、乗員が周囲の状況を目視で確認し、安全にドアを開けられるかどうか周囲の交通状況を確認するといった必要性を排除するものではありません。乗員は、安全な状態でドアを開ける上での責任を全て追うものとします。

! **アラーム:** ドアオープン警告は、後方から接近する交通のみにアラームを発し、車両の前方から接近する交通についてはアラームを発しません。

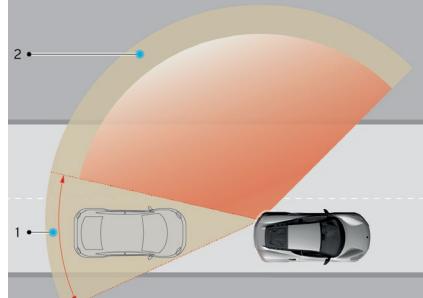
! **アラーム:** この機能は運転をより安全にするための補助的なドライバーアシスタンスシステムであり、交通状況、天候、道路状況によっては機能しないことがあります。

! **アラーム:** 車両が動いている場合、ドアオープン警告は作動しません。

ドライバーアシスタンス

⚠ アラーム: このシステムを使用する前にドライバーはこのハンドブックに記載のドアオープン警告システムに関するすべての情報を読み、その限界を認識してください。

💡 注記: ドアオープン警告システムは常に有効で、解除することはできません。



ドアオープン警告の限度

ゾーン 車両位置/状態

- 1 レーダーの死角。
- 2 探知可能なレーダーの視野。

レーダーの視界を遮る物体がある場合(ゾーン1と表示)、遮られた移動物体は検知されない。後方から接近する物体(ゾーン2と表示)のみが検出される。

前方衝突警告

(装着の場合)

前方衝突警告は、自律緊急ブレーキシステムと連動して作動し、自車が前方の車両や歩行者、自転車に衝突する危険性が高いとシステムが検知した場合、ドライバーに行動を取るよう警告し、ドライバーが素早く反応できない場合は自動的にブレーキをかけます。

⚠ アラーム: この機能は運転をより安全にするための補助的なドライバーアシスタンスシステムであり、交通状況、天候、道路状況によっては機能しないことがあります。

前方衝突警告システムは、時速8～180km/hの間で作動し、歩行者に対しては時速64km/hまで作動します。安全対策として、最高減速速度は時速48km/hです。

前方衝突警告は、中央ディスプレイの車両設定 → ドライバーサポート → 衝突回避 → 衝突軽減メニューで選択/解除します。128ページを参照してください。

アラーム: 前方衝突警告システムの選択を解除すると、自律緊急ブレーキシステムも解除されます。116.

注記: ESC「オフ」またはトラックモードが選択されている場合、前方衝突警告および自律緊急ブレーキシステムは使用できません。201ページを参照してください。



注記: 音声によるアラームもあり、音声アラーム信号が作動すると、再生中のオーディオメディアはミュートになります。

前方衝突警告が解除されている場合(128ページを参照) ドライバーディスプレイにこの記号が点灯します。

ドライバーディスプレイの衝突警告

前方衝突警告システムが作動し、衝突の危険を検知した場合、ドライバーディスプレイに以下の画像が表示されます。

1 ディスプレイ上部が赤くなる。

2 前方の対象車両が表示され、赤い輪郭で表示*。

*アダプティブクルーズコントロールが有効で作動している場合、ターゲット車がすでに表示されている可能性があります。

*車両、歩行者、自転車のいずれかが検出された場合、車両が表示されます。

ドライバーアシスタンス

アラームレベル距離の設定

選択されたアラームレベルは、システムの応答性を決定し、視覚および音でのアラームが作動する距離を設定します。

中央ディスプレイで衝突軽減オプションを選択し、有効にし、128ページを参照に希望の検知レベルを選択します。

レベル	アラーム距離
低：	アラーム距離が短く、通常より強い制動力が必要です。
普通：	通常のアラーム距離、通常の制動力が必要です。
高：	アラーム距離が長く、通常のような制動力は必要ないですが、アラームが多く表示される場合は、NORMAL(普通)に変更してください。



アラーム：どのような自動化システムであっても、すべての状況において100%正しく機能することを保証することはできません。そのため、故意に人や物に向かって運転し前方衝突警告や自律緊急ブレーキのテストを絶対にしてはいけません。重傷したり死亡の恐れもあります。



アラーム：高感度設定を選んでも、速度差が大きかったり先行車が急ブレーキをかけた場合など、アラームが遅れているかのように見受けられることがあります。



アラーム：前方衝突警告は、衝突の可能性を警告することはできますが、反応時間を短縮することはできません。



アラーム：前方衝突警告を可能な限り効果的にするために、高感度レベルの設定を推奨します。

自律型緊急ブレーキ

このブレーキ機能が介入すると、前方の車両や歩行者、自転車との衝突を回避するため、以下の手順が実行されます：

- ブレーキアシスト：**必要に応じて、ドライバーによるブレーキペダルの踏み込みがさらに強められます。
- 自動ブレーキ：**衝突を可能な限り回避するため、あるいは衝突速度を弱めるために、前方衝突警告システムが衝突の危険を検知すると、自律緊急ブレーキシステムによって自動的にフルブレーキがかかります。自動ブレーキが介入すると、ブレーキライトも点滅します。145ページを参照してください。

自律緊急ブレーキと前方衝突警告の限界

どちらのシステムもフロントカメラとレーダーを使用するため、状況によっては機能が制限されたり低下したりすることがあります。

- **滑りやすい状況での運転:** 滑りやすい路面では制動距離が延長し、衝突回避を助ける自律緊急ブレーキの能力を低下させる可能性があります。
- **外界の強い光:** 強い日差し、反射、極端な光のコントラストによってアラーム信号が見えにくくなり、カメラが車両や歩行者を検知する能力が制限されることがあります。
- **室内温度:** 車内の温度が非常に高い場合、カメラが一時的にオフになり、アラームが表示されないことがあります。
- **悪天候:** 激しい降雪、吹雪、雨、濃霧、フロントガラスやフロントバンパーの埃といった状況は、システムの視認機能を低下させる可能性があります。

- **視野の限度:** カメラやレーダーの視野には限界があり、状況によっては車両や歩行者、自転車を予想より遅れて検知したり、まったく検知しなかったりすることがあります。

- **バックする:** 車両後退中はシステムが解除されます。
- **低速:** 時速が約10km/h以下の場合、システムは作動しません。
- **アクティブドライバー:** アクティブに操作/ブレーキをかけたりする状況では、システムが反応しなかったり、予想より反応が遅れたりすることがあります。

⚠ **アラーム:** 自律緊急ブレーキの歩行者検知ができない:

- 身体の輪郭がはっきり見えないような衣服を着て、部分的に見えなくなっている歩行者。
 - 背景とのコントラストが弱い歩行者。アラームやブレーキが遅れたり、まったく作動しなかったりすることがある。
 - 大きな物を運ぶ歩行者。
- 車両を安全に運転する責任は常にドライバーにあります。

⚠ **アラーム:** アラームは、衝突の危険性がありそうな場合、または差し迫っている場合にのみ実行されます。車両を運転する前に、システムの限界を認識しておく必要があります。

⚠ **アラーム:** 歩行者や自転車に対するアラームと自動ブレーキは、車速50km/h以上で解除されます。

ドライバーアシスタンス

⚠ アラーム: 自律緊急ブレーキシステムは、衝突を防いだり衝突の衝撃速度を軽減したりするのに役立ちますが、自動ブレーキが介入した場合でも、必ずブレーキをかける必要があります。

⚠ アラーム: ドライバーは常に、先行車に対して正しいスピードと車間距離を保つ責任があります。衝突アラームや自律緊急ブレーキシステムの介入を待ってはいけません。

⚠ アラーム: センサーの性能に限界があるため、安全上重要なユーザー機能の予期せず誤ったブレーキがかかる可能性があります。この場合、ドライバーはアクセルペダルを踏むことで、ブレーキの作動を無効にすることができます。

どちらのシステムもフロントカメラとレーダーを使用しますが、一般的な限度がいくつかあります。119ページを参照してください。

エラーメッセージ

ドライバーディスプレイに「フロントレーダーセンサーが遮蔽状態 ユーザーマニュアルを参照してください」または「フロントカメラが遮蔽状態 ユーザーマニュアルを参照してください」と表示された場合は、フロントカメラ/レーダーが前方の車両や歩行者を検知できていません。

考えられる原因	解決策の提案
ウインドシールドやフロントバンパーが汚れていたり、雪や氷で覆われている。	ウインドシールドやフロントバンパーを清掃する。
路面から巻きあがる水や雪がレーダー信号を妨害することがある。	何のアクションもできない。著しく濡れた路面や雪に覆われた路面は、レーダーの機能に影響を与える可能性がある。
大雨や雪がレーダーやカメラの信号を妨害している。	何のアクションもできない。大雨や雪はレーダー/カメラの機能に影響を与える可能性がある。
ウインドシールドまたはフロントバンパーはきれいだが、ドライバーディスプレイにメッセージが表示されたまま。	しばらく待つ。レーダー/カメラが障害物でなくなったことを検知するまで、数分かかる場合があります。

メッセージが消えない、または再発する場合は、ロータスの正規ディーラーにお問い合わせください。



カメラとレーダーの情報 (装着の場合)

ドライバーアシスタンスシステムの多くは、ウィンドシールド上部後方に設置のカメラユニットと、フロントバンパー中央後ろ、車両後部の左右に設置されたレーダーユニットを使用しています。

限度

以下の情報は、カメラとレーダーに影響を及ぼす可能性のある、外的要因によって起こる状態の一部です。

改造

ウィンドシールドの内外、カメラユニットの前方や周囲、レーダーユニット*の周囲のバンパーの上、などに設置されたアイテムが、カメラやレーダー機能の働きを妨げる場合があります。その結果、ドライバーアシスタンス機能の作動が一部低下したり、誤った機能応答をしたり、作動が停止したりする可能性があります。

*これは、恒久的な改造だけでなく、ビニール・ラッピング、ステッカーの貼付、フロントおよびリアバンパーのレーダー部分の塗装変更にも適用されます。

高温

カメラおよびレーダーユニット内の電子機器が周囲温度の高温による影響を受けないようにするために、エンジン始動後、温度が十分に下がるまでの約15分間、使用できない場合があります。

ドライバーアシスタンス

ウインドシールドまたはバンパーの損傷
ウインドシールドやフロント／リアバンパーが損傷していると、ドライバーアシスタンス機能の作動が一部低下したり、誤った機能応答をしたり、作動が停止したりする可能性があります。

カメラユニット用の窓前方のウインドシールドに傷、ひび割れ、欠けが生じた場合、これが約 0.5×3.0mm 以上の面積を覆っている場合は、ウインドシールドを交換してください。

カメラユニット部分のひび割れ、傷、石による欠けを修理することは推奨いたしません。代わりにウインドシールド全部を交換してください。

ロータスが承認した交換用ウインドシールドのみ、またはウインドシールドワイパーのみを取り付けてください。

ウインドシールドの交換後は、カメラに依存するすべてのドライバーアシスタンスのオプション機能を確保するため、カメラユニットの再較正が必要となります。必要に応じて、ロータス・ディーラーにお問い合わせください。

バンパーの損傷は、レーダー性能に影響があるかどうかを判断するため、ロータス・ディーラーで査定を受けてください。

クリーニングとメンテナンス

レーダーエリアは、汚れ、氷、雪がついていないようにし、定期的に洗浄する必要があります。263ページを参照してください。



リアレーダーユニットの位置。車両の左右両側に示されるエリアをきれいに保ちます。

カメラとレーダーの限界

以下の情報は、レーダーやカメラに影響を及ぼす可能性のある、運転条件や天候状態の一部です。

フロントバンパーレーダー (装着の場合)

車速

レーダーユニットの前方車両検知能力は、前方車両の速度が自車両の速度と著しく異なる場合、大幅に低下します。

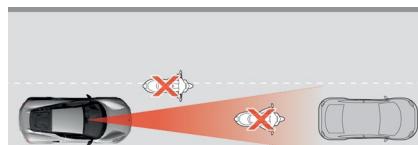
他のレーダーソースによる干渉、またはレーダーの強い反射。

視野

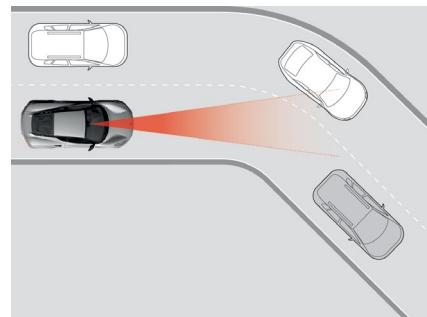
レーダーユニットの視野には限度があり、状況によっては他の車両を検知できなかったり、想定よりも遅れて検知されたりすることがあります。



レーダーユニットは、自車と前方車両の間を走行する車両など、近距離の車両の検知が遅れることができます。



オートバイなどの小型車や、道路の中央を走行していない車両は検出されないことがあります。



カーブでは、レーダーユニットが意図したものとは異なる車両を検知したり、検知した車両が見えなくなったりすることがあります。

カメラ (装着の場合)

視界の障害

激しい降雪や豪雨、濃霧、激しい砂嵐や吹雪などの場合、カメラの視界が悪くなることがあります。このような状況により、カメラに依存するドライバーアシスタンス機能の作動が一部低下したり、誤った機能応答をしたり、作動が停止したりする可能性があります。

ドライバーアシスタンス

対向する強い光、車道の反射、路面の雪や氷、路面の汚れ、不明瞭な車線標識なども、道路標識情報のために道路を検視する際カメラの機能を著しく低下させることができます。

中央ディスプレイ画面

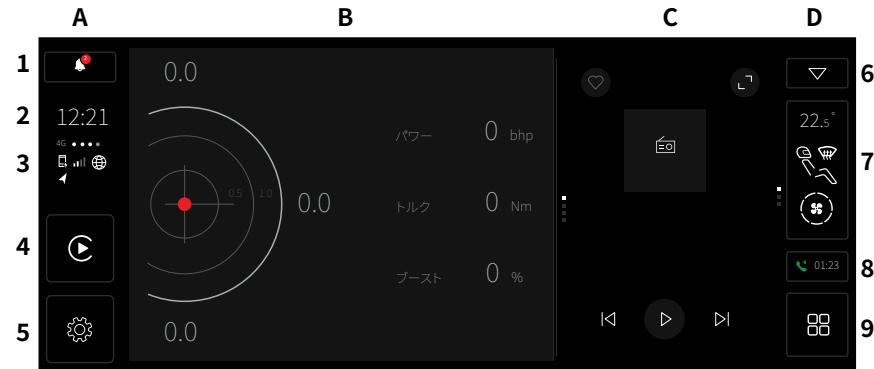
中央ディスプレイ画面

中央ディスプレイの概要

インフォテインメント、特定の車両制御/ウィジェット/アプリケーションのオプション、メニュー、およびパーソナライズ設定は、中央ディスプレイからアクセスできます。ディスプレイ上の一のボタンは、現在表示されているアプリケーションやメニュー画面によって、外観や機能が変化します。

⚠ アラーム: 運転中は中央スクリーンの画面に気を取られないようにしてください。事故を起こす要因となります。キーボードの使用、住所や連絡先の入力など、一部のアプリケーションを使用する前には停車するようにしてください。

💡 注記: 車両が移動すると、一部の機能が無効になります。



B レフトウィジェット

C ライトウィジェット

A サイドバー

- 1 通知センター。
- 2 時計。
- 3 デバイス状態*。
- 4 デバイス投影*。
- 5 グローバル設定/アプリのオプション。

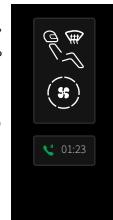
ナビゲーションバー D

- | | |
|-----------------|---|
| クイックパネル。 6 | 7 |
| クライメートコントロール。 7 | 8 |
| 通話時間。 8 | 9 |
| アプリランチャー/ホーム。 9 | |

*別途インフォテインメントガイドブックをご参照ください。

ナビゲーションを表示

サイドバーやナビゲーションバーにあるオプションをタップすると、そのオプションに直接移動したり、代わりに該当するメニュー画面を表示します。

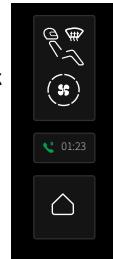


サブメニューのオプション画面で「左」ボタンをタップすると、前のメニュー画面に戻ります。



アプリケーションまたはアプリランチャーを開いているときは、ナビゲーションバー上のホーム△ボタンが利用可能になります。

ホームボタンをタップすると、ホーム画面表示に戻ります。



ディスプレイ操作

ディスプレイとメニューオプションは指の動きに反応して起動します。

ムーブメント

1回タップ。



素早く2回タップ。



長押し。



スワイプ
左/右/上/下



パンニング-画面のある部分から別の部分にドラッグ。



フリック-指のあるポイントから別のポイントに素早く移動し、離す。



ドラッグ & ドロップ。



つまむ-指をそろえて動かし、離す。



スプレッド-指を広げて、離す。



アクション

オブジェクトを強調表示/選択を確認/機能を起動します。

オブジェクトをズームイン/ズームアウトします。

オブジェクトをつかむ/アプリを移動/地図上のポイントを移動させます。

画面オプション間を移動

地図をスクロール、またはアイテムを移動します。

すばやくスクロールするか、ページを削除します。

アイテムを移動させます。

ズームアウトします。

ズームインします。

中央ディスプレイ画面

自動起動/自動解除

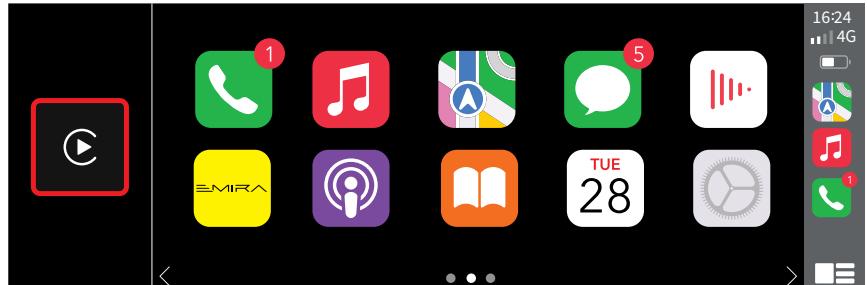
運転席のドアを開閉すると、自動的にディスプレイが起動/停止します。また、電池の消耗を防ぐために、自動的にディスプレイがオフになることもあります。

手動解除

必要に応じて、センターコンソールの音量ボタンを5秒間押し続けると、Wi-Fiエッジディスプレイエリアがオフになり、サイドバーとナビゲーションバーの限られたオプションだけを点灯状態とすることができます。さらに音量ボタンを短く押すと、Wi-Fiエッジ表示がオンになります。

照明

ダッシュボード内の光センサーが周囲の明るさの低下を感知すると、ディスプレイの照度が自動的に下がります。この場合、イルミネーションコントローラーを使って、照度を手動で調整することができます。148ページを参照してください。



デバイスの投影

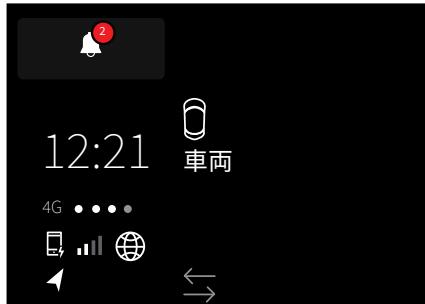
Apple CarPlayまたはAndroid Autoアプリを使用してモバイルデバイスがインフォテインメントシステムに接続されている場合、投影シンボルが表示されます。

接続機器にこの機能がない場合、またはデバイスが投影機能用にペアリングされていない場合、投影記号は表示されません。

デバイス投影の画面を開く

利用可能な場合は、サイドバーに表示される または のいずれかのボタンをタップすると、モバイルアプリが表示されます。

詳しくは、別冊のインフォテインメントガイドブック、およびご使用の機器の説明書をご覧ください。



通知センター

以前にドライバーディスプレイと中央ディスプレイに表示されながら無視された不在着信やシステム通知のポップアップメッセージは、通知センターで再び確認することができます。

通知センターを開く

① 車両ボタンをタップします。



メッセージ

① スクロールしてすべてのメッセージを表示します。

② 電話メッセージの場合は、📞記号をタップして折り返し電話をかけます。

③ 画面上部の刪除ボタンをタップして、すべてのメッセージを消去します。

④ ⑤ メッセージを個別に消去するには、メッセージを画面の左側にスライドさせて刪除ボタンを表示し、タップするか、メッセージを画面の端にスライドさせます。

通知センターを閉じる

① メッセージリスト外の任意の場所を上にスワイプします。

② 画面下部のへ記号をタップします。

中央ディスプレイ画面

グローバル設定とアプリのオプション
特定の車両機能の操作を設定・調整することができます。



グローバル設定とアプリのオプションを開く

👉 ホーム画面の  ボタンをタップして、設定サイドバーを起動します。

設定	メニュー&オプション
車:	一般、クライメート、エクステリアライト、ドライバーサポート、セキュリティ、ミラー設定。
接続	デバイス接続、Bluetooth、Wi-fi、車両名など、詳しくは別途インフォテインメントガイドブックをご覧ください。
システム:	表示画面とキーボードの言語、単位値、時計／日付形式。
オーディオ:	音量調整、サウンド最適化、イコライザー設定、車速補正、着信音設定については、別途インフォテインメントガイドブックをご覧ください。

設定	メニュー	オプション
一般 >	電動パーキングブレーキ:	自動起動/自動解除。
	車両情報:	RMS作動表示、V.I.N.情報。
	車両のオプションをリセット:	車両の設定を工場出荷時の状態にリセット。
クライメート >	内気循環タイマー:	30分後に自動解除。
	ファン速度自動モード:	低、中、高の強度レベルを選択可能。
	オートリアデフロスター:	リアスクリーンヒーターは、7 °C以下の温度で自動的に起動。
	シートヒーター自動作動:	座席を選択。
	オートスタートシートヒータータイマー:	オートシートヒーターの継続時間を設定。
ミラー >	オートディムレベル:	「明るい」、「普通」、「暗い」の設定。
	エクステリアミラーの傾き:	リバースギア選択時にドアミラーグラスを傾ける。
	ロック解除のフィードバック:	方向指示ランプのフィードバックを起動/解除。
	ロック時のミラー折りたたみ:	ミラーの折りたたみを起動/解除

中央ディスプレイ画面

設定	メニュー	オプション
ドライバーサポート	衝突回避:*	パークアシストとリアクロストラフィックアラートシステムの有効化/無効化、アラーム音量レベルのコントロール。 衝突回避を有効/無効にし、感度レベルを制御。
	車線警告:*	車線警告および死角検知システムの有効化/無効化、アラーム音量レベルの調整
	交通標識認識:*	標識認識を有効化。
	交通標識アラート:*	認識アラートを有効化。
	車速サポート:*	調整式/自動スピードリミッター、およびクルーズコントロール、またはアダプティブクルーズコントロールのいずれかを選択。
	低疲労通知:*	低疲労アラートを有効化。
セキュリティ	ロック/ロック解除のフィードバック表示: 車両のロックまたはロック解除時に方向指示器ランプを起動/解除。	
	走行中のドア自動ロック:	オートロックドア機能を起動/解除。
	アラームレベルを下げる:	チルトとインテリアセンサーを解除。
エクステリアライト	トリプルフラッシュシーケンス:	方向指示器が3回点滅。
	ウェルカムライト:	アプローチ照明を参照。
	ホームセーフティライト:	タイマー期間を設定。
	オートマチックハイビーム:*	低速、中速、高速の起動時間のオプション。

* 利用可能な場合



クリックパネル

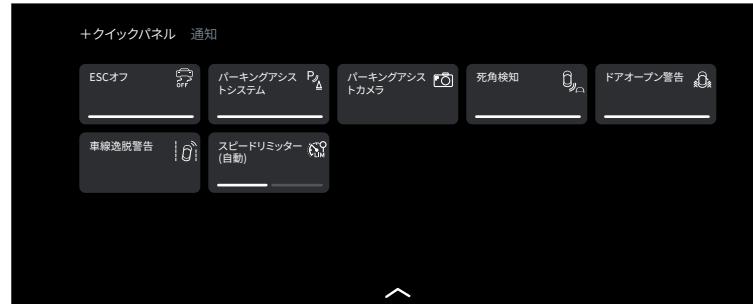
クリックパネルでは、特定の車両オプションのプリセットと設定へのショートカットが利用できます。

クリックパネルを開く

クリックパネルは、ホーム画面から以下の方法でアクセスします。

① ナビゲーションバーの上部にある▽
② クリックボタンをタップします。

通知オプションは、クリックパネルからも利用できます。



クリックパネルのオプション

! **注記:** その他のオプションは、車両の仕様や市場によって異なる場合があります。

オプションの選択

① 必要なボタンをタップします。選択したアプリケーションのオプションや必要な操作を説明するメッセージが表示されます。

② プリセットレベルがある場合は、ボタンをタップして必要なレベルを選択します。

③ ボタンをタップして、オプションの選択を解除します。

クリックパネルを閉じる

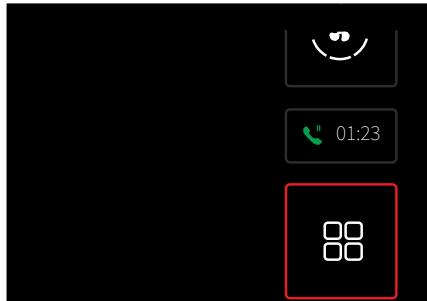
① 画面上のどこかを上にスワイプします。

② 画面下部のハンドルのアイコンをタップすると、アニメーションが表示され、画面を上方にスワイプしないと閉じないことを示します。

③ 画面上のどこかを右から左にスワイプして、通知センターにアクセスします。

④ 「通知」をタップして通知画面を開きます。

中央ディスプレイ画面



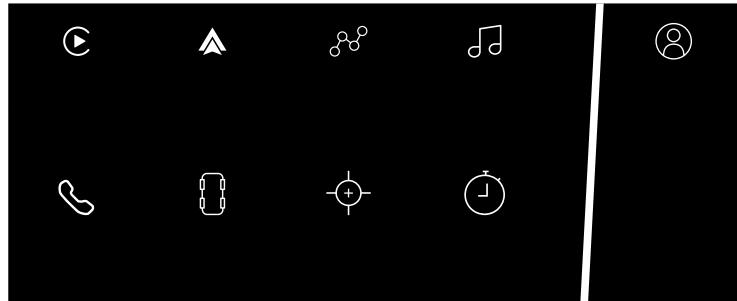
アプリランチャー

ドライバーズディスプレイで表示されるメニュー、オプションや一部の設定にアクセスでき、ステアリングホイールの右側キーパッドで操作できるほか、アプリランチャー ボタンでもアクセス可能です。

ホーム画面のディスプレイから、ホームボタンがアプリランチャー ボタンに切り替わります。

アプリランチャーを開く

ナビゲーションバー下部の アプリボタンをタップします。



アプリケーションの選択

画面をスクロールすると、利用可能なすべてのアプリが表示されます。
必要なボタンをタップします。

アプリを長押しすると、画面上でアプリを移動させて必要に応じアプリの位置を再編成できます。

オプション

Apple CarPlay

Android Auto*

メディア

電話

タイヤ空気圧

パフォーマンス

ラップタイマー

走行統計

プロファイルマネージャー

*適切なデバイスを接続した状態。

システム設定

この画面から特定の車両設定の操作を調整することができます。

システムオプションを開く

👉 ホーム画面から、⚙️ボタンをタップして、設定アプリを起動します。

👉 設定サイドバーから、⚙️ボタンをタップして、システム設定のオプションを表示します。



言語

ドライバーディスプレイと中央ディスプレイの表示言語を、12の言語から選択可能です。

単位

燃費、周囲温度、車速、走行距離、オドメーター距離の単位を選択可能です。

キーボード

キーボード機能を12の言語から選択可能です。

時計

日付と時刻のフォーマットを変更したり、手動で日付と時刻を設定可能です。

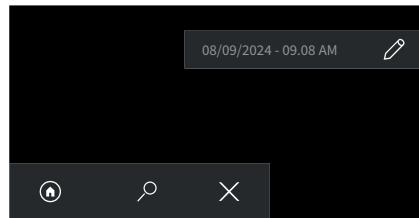
システム設定をリセット

特定のシステム設定を選択して、工場出荷時の設定に戻すことができます。

安全なデコミッショニング

中央ディスプレイ画面を使って **システムのリセット** を完了します。これにより、すべての個人設定、ペアリングしたデバイス、保存データが消去されます。

中央ディスプレイ画面



キーボード

キーボードは、文字、パスワード、インフォ
テインメントシステムや車両に保存の情
報を入力するのに使います。

キーボードは、検索または編集アイ
コンが表示されている場合にのみ起動す
ることができます。

言語設定

ドライバーディスプレイと中央ディスプレ
イの画面、キーボードの言語を変更するこ
とができます。

システム設定画面から、言語オプシ
ョンをタップします。選択言語は、画面
の左上に表示されます。

言語を変更するには、必要に応
じて画面をスクロールし、希望す
る言語オプションをタップしてく
ださい。



キーボード機能

キーボードは標準レイアウトで、強調表示のボタン/エリアはキーボードの特別な機能を表しています。

1 キャンセル-前の画面に戻ります。

2 入力した文字が表示される入力欄です。

3 すべての入力を同時に削除します。

4 検索結果が表示されます(結果をタップして選択)。

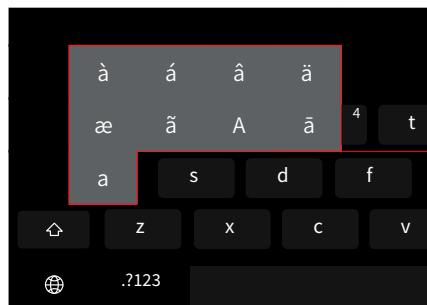
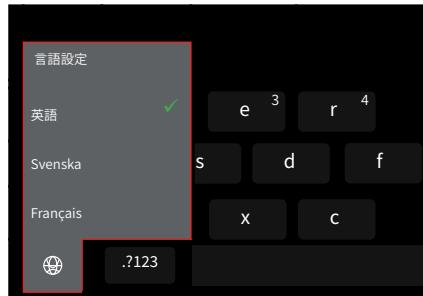
5 言語セレクター。

6 Returnキー。

7 キーボードを非表示にします。

こちらはキーボードの概要です。選択した言語やキーボードの使用方法によって、表示されるキーとその外観が変わることがあります。

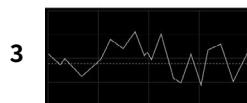
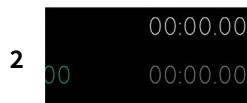
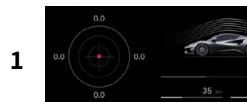
中央ディスプレイ画面



キーボード言語
① ボタンをタ長押しすると、言語
② ポップアップが起動します。3つ
の言語から選択できるほか、「言
語設定」をタップすると、シス
テム設定から言語オプションに移
動します。

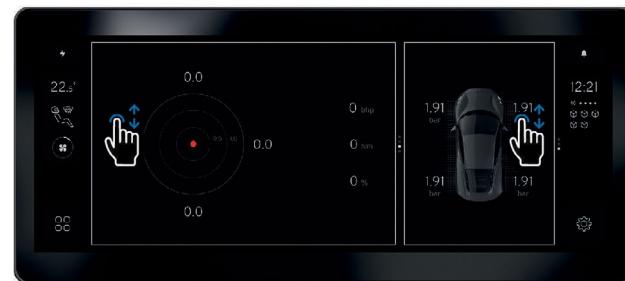
キーポップアップ

① 特定のキーを長押しすると、追加機
能や選択可能なキーボード文字をポ
ップアップで表示します。閉じるには
キーポップアップ以外の場所をタッ
プします。



ウィジェットのオプション

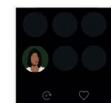
- 1 パフォーマンス
- 2 ラップタイマー
- 3 走行統計



ウィジェット

ディスプレイ画面の表示エリアに、大小の
ウィジェットが表示されます。

ホーム画面の表示から、画面上のウ
イジェットをクリックして上下にスク
ロールすると、利用可能なオプション
を表示することができます。



4

5

6

ウィジェットのオプション

- 4 タイヤ空気圧監視システム
- 5 メディア
- 6 電話

中央ディスプレイ画面



ドライバーのプロファイル

中央ディスプレイで指定した設定の多くは、ドライバープロファイルのメニュー内に詳細設定として保存することができます。

ドライバープロファイルが有効であれば、指定した設定の多くは自動的に保存されます。

「ゲスト」プロファイルに加え、最大4件の「パーソナル」プロファイルを作成できます。

プロファイル設定の種類

パーソナル

これは、作動中のいずれのドライバープロファイルにも保存可能な設定で、オーディオ/メディアシステムや言語などの機能があります。

グローバル

これらの設定は変更できますが、特定のドライバープロファイルに保存されることはありません。グローバル設定を変更すると、すべてのドライバープロファイルでその特定の設定が変更されます。

キーボードのレイアウト設定はグローバルです。ドライバープロファイルでキーボードに追加された言語は、別のドライバープロファイルを使用したときにも使用できます。

ゲスト

これはローカルプロファイルで、使用するとローカルで行った設定が保存され、次回「ゲスト」プロファイルを選択したときにこれらの設定が使用されます。

最後に選択したドライバープロファイルがPINコードで保護されていない場合、そのプロファイルは次回車両がロック解除された際に有効です。最後に選択したプロファイルがPINコードで保護されている場合、車両がロック解除されると「ゲスト」プロファイルが自動的に選択されます。

新車のデフォルト設定プロファイル

新車には他のプロファイルがリンクされていないため、「ゲスト」プロファイルが自動的に選択されます。



新規プロファイルの追加

- ① ナビゲーションバーの下部にある「アプリボタン」をタップします。132ページをご覧ください。
- ② プロファイルマネージャのオプション⑧をタップします。
- ③ 「新しいプロファイルを追加」をタップします。



- ④ タップしてプロファイルを選択し、「次へ」をタップします。



② キーボードで名前を入力し、リターンキーをタップします。



③ 画面の指示に従って、任意の4桁の暗証番号(PIN)をキーパッドで入力し、確認します。



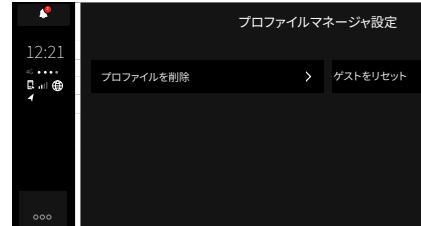
PINコードの確認後、プロファイル編集画面が表示されます。

④ 必要に応じて、>をタップしてユーザー名とPINコードを編集します。

⑤ ●をタップして、プロファイルへのサインインにPINコードが必要かどうかを選択します。

⑥ 「ログアウト」をタップしてプロファイル選択メニューに戻ります。

⑦ または、ナビゲーションバーの△ホームボタンをタップして、中央ディスプレイのホーム画面に戻ります。



プロファイルを削除する

① プロファイル管理画面から、ナビゲーションバーの〇〇〇設定のボタンをタップします。

② 「プロファイルの削除」ボタンをタップします。



③ 削除するプロファイルをタップします。

④ 削除をタップします。

中央ディスプレイ画面



PINコードの誤り

 PINコードの入力を5回試みると、ドライバープロファイルが無効になります。そのような場合は、「ゲストプロファイルを使用」ボタンをタップします。

車両の設定は、すでに定義されているローカル設定に戻ります。

 **注記:**無効化されたドライバープロファイルは復元できません。プロファイルを削除して、新しいプロファイルとして再作成する場合は、ページ 139 と 138 を参照してください。

所有権の変更

中央ディスプレイ画面を使って **システム** のリセットを完了します。これにより、すべての個人設定、ペアリングしたデバイス、保存データが消去されます。



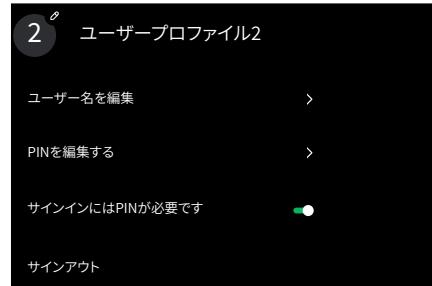
プロファイルの編集

 プロファイル画像アイコンをタップして、「新しいプロファイルの追加」画面にアクセスします。



 強調表示されている画像(利用可能な)をタップし、「次へ」ボタンをタップします。

ディスプレイはアクティブプロファイルの画面に戻ります。



139ページにあるように、必要に応じユーザー名とPINコードを変更することができます。

照明



エクステリアライト照明スイッチ

ステアリングホイール左側の \triangle ストロークのつまみリングを回します。

○ 消灯

このポジションでは、デイタイムランニングライトを除くすべてのライトが消灯します。

デイタイムランニングライト

前方後方のデイタイムランニングライトは、イグニッションがモード II のとき、あるいはエンジンが稼働しているときに点灯します。(ライトスイッチがどの位置にあっても)。選択した照明オプションによって強さが異なります)。258ページも参照してください。

△ ポジションライト

ライトスイッチをこの位置に設定すると、デイタイムランニングライトも作動します。

イグニッションがモード 0 または I のときにデイタイムランニングライトを点灯させるには、この設定を使用します。

! **注記:** イグニッションポジションが II の場合は、デイタイムランニングライトが点灯します。

ポジションランプは、どのイグニッションポジション設定でも点灯させることができます。

エンジンがかかり車が止まっている状態で、リングを他の設定から \triangle に合わせ、ポジションランプのみを点灯させます。

短時間走行後や車速が上がると、フロントポジションランプはデイタイムランニングライトに切り替わります。

まだ作動していない場合、周囲が暗い状態でテールゲートを開けると、リアポジションランプが点灯します。

 この記号は、ポジションライトまたはデイタイムランニングライトが作動すると、運転席のディスプレイスクリーンに点灯します。

☰ ロービームライト

エンジンが起動中、または車両のイグニッションが II の位置にあるとき、この位置ではロービームヘッドライト、フロントとリアのポジションライト、リアライセンスプレートライトが作動します。

AUTO ロービームヘッドライト、ポジションライト、インストルメントパネル・ライトは、周囲の明るさに応じて自動的に点灯・消灯します。

⚠ アラーム: AUTOシステムは、すべての状況において周囲の明るさを判断できるわけではありません（霧や雨などの場合）。ドライバーは常に、運転時の環境や適用される交通法規に従って、正しいエクステリアライトの設定が選択されていることを確認しなければなりません。

☰(A) アクティブ・ハイビーム (装着の場合)

ウィンドシールドのカメラを使用し、暗闇を時速20km以上で走行中、対向車のヘッドライトや先行車のリアライトを検知して、ハイビームのオン／オフを自動的に切り替える機能です。

これが有効の場合はドライバーディスプレイの記号が白く点灯し、ハイビームが作動中の場合は青く点灯します。アクティブ・ハイビームを解除すると、ヘッドライトはロービームに戻ります。

大雨や霧などの特定条件によっては、アクティブ・メインビームが使用できない場合があります。

アクティブ・メインビームが使用できない場合、ドライバーディスプレイにメッセージが表示され、アクティブ・メインビームが使用できるようになるまで、メインビームとロービームを手動で切り替える必要があります。カメラの限度については 119 ページを参照してください。

⚠ アラーム: アクティブ・メインビームは、適切な環境条件下で車両照明を最適に使用するための補助装置です。

⚠ アラーム: 交通状況や天候によってハイビームとロービームを手動で切り替える必要がある場合、ドライバーは常にその責任を負うものとします。



ヘッドライトハイビーム/ロービーム

- 1 ハイビームフラッシュ：ストークを後方に自分に向かって引くと起動します。
- 2 常時ハイビーム：照明リングが AUTOまたはAUTOの位置にある状態で、ストークを前方（向こう側）に押して起動します。
- 3 ストークを後方に引いて解除します。

☰(D) この記号は、メインビームライトが作動するとドライバーディスプレイの画面に表示されます。



リアフォグライト

イグニッションポジションがIIで、 またはAUTOが選択されている場合に起動します。

ストローク前面のボタンを押すと、ライトをオン/オフに切り替えます。

この記号は、リアフォグライトが作動するとドライバーディスプレイの画面に表示されます。

ヘッドライトまたはイグニッションがオフになると、スイッチはデフォルトでオフになります。

注記: リアフォグライトの使用に関する規制は、国によって異なる場合があります。



方向指示器

1 短い点滅: 抵抗が感じられるまでストロークを上下に動かし、離します。インジケータランプが3回点滅します*。

2 連続点滅: ストロークを上下に動かして抵抗点を通過すると、ストロークはその位置にとどまります。

運転中ドライバーディスプレイに、指示に対応する記号が点灯します。

ストロークは、手動で戻すか、ステアリングホイールの動きで自動的に戻されるまで、その位置に留まります。



トリップAリセット

ライトスイッチ先端のリセットボタンを押すと、トリップAのトリップメーターに記憶されている情報(走行距離、平均燃費、平均速度)がすべてリセットされます。トリップメーター1がリセットされたことを示す通知メッセージがドライバーディスプレイに短く表示されます。

また、トリップメーターのオプションと、ステアリングホイール右側キーパッドを使ってのリセットの詳細については、76ページをご覧ください。

*中央ディスプレイで機能を停止させると、ランプが1回点滅します。147ページを参照してください。



ハザードランプ

起動するには:センターコンソールの△を押します。ドライバーディスプレイのスイッチ、方向指示ランプ、➡➡記号が点滅します。

解除するには:もう一度押すとオフになります。

⚠ アラーム: 緊急により停止した場合は、衝突の危険を減らすために車両を道路脇へ寄せて、ハザードランプを点灯させ、その他のアラーム装置で可能な限り目立つようにしてください。



注記:ハザードランプの使用は、地域の交通法の対象となる場合があります。

ブレーキライト

ブレーキペダルを踏み込むと、ブレーキランプが点灯します。193ページもご覧ください。

緊急ブレーキライト

時速50km以上の道路で、アンチロック・ブレーキ・システムが作動するのに十分な急ブレーキをかけた場合、または車両が急減速した場合、緊急ブレーキ・ライト・システムが作動します。ブレーキランプが常時点灯ではなく、点滅しはじめます。ブレーキランプは、発進後や減速度が低下したときに常時点灯に戻ります。194ページも参照してください。

照明

リバースライト

ギアレバーをRの位置にすると、リバースライトが点灯し、リアパーキングアシストシステムが作動します。258ページと103ページをご覧ください。

アプローチライト

キーフォブの Δ ボタンを押して車両をロック解除すると、アプローチライトが点灯します。ポジションライト、カーテシーライト、フロアライトが点灯します。周囲が暗い場合は、ナンバープレートの照明とアウターハンドルライトも光源を地面に向けて点灯します。

ドアを開けなければ、アプローチライトは約2分間点灯します。起動時間内にドアを開けた場合、インテリアライトとアウターハンドルライトの点灯時間が延長します。

アプローチライトの機能は、中央ディスプレイで設定します。147ページを参照してください。



ホームセーフティライト

一部のエクステリアライトは、車両ロック後も継続して点灯が可能です。

1. エンジンスイッチを切ります。
2. 左側のコラムストロークを前方に動かし、離します。
3. 車を降りてドアを \square ロックします。

ドライバーディスプレイの記号が点灯し、機能が起動し、ポジションランプ、ヘッドライトロービーム、ナンバープレートのランプが点灯します。

照明の点灯時間は、中央ディスプレイで設定します。147ページを参照してください。

照明の故障

エクステリアライトのシステムに影響を及ぼす故障が検出された場合、ドライバーディスプレイの画面に△記号が点灯します。また、故障に関する情報を伝えるメッセージも画面に表示されます。66ページも参照してください。

エクステリアライトのプリセット

中央ディスプレイの「グローバル設定」とアプリの「オプション」ボタンのサイドバーから、以下を選択します。車>エクステリアライト

詳細については、128ページを参照してください。



インテリアライト オーバーヘッドコンソールスイッチ

ボタンを押すと：

左前方の読書灯を点灯/消灯。

すべてのインテリアライトを点灯/消灯。

AUTO インテリアライトのカーテシーモードを起動/解除。

カーテシーモードの場合すべてのインテリアライトは：

- 車両がロック解除でイグニッションスイッチがOFFの時、点灯します。
- エンジン始動時で車両のロック時、消灯します。
- ドアの開閉時に点灯または消灯します。
- ドアを開けたままにしておくと、2分間点灯し続けます。

- AUTO機能が有効なときは、ボタンの表示ランプが点灯します。

押すと、右前の読書灯が点灯します。

インテリアライト

両サンバイザー脇のルーフライニングには読書灯があります。

両フロントシート上方のルーフライニングにはメインライトがあります。

グローブボックス照明

グローブボックス内のライトは、カバーの開閉に応じて点灯/消灯します。158ページをご覧ください。

バニティミラーライト

サンバイザー(装備の場合)のライトは、カバーの開閉に応じて点灯/消灯します。156ページをご覧ください。

トランク内のライト

トランク内のライトは、テールゲートの開閉に応じて点灯/消灯します。50ページをご覧ください。

照明

アンビエントライティング

ストリップライトはドア、インストルメントパネル、センターコンソール、カップホルダーに設置されており、車両のロック解除、イグニッションの起動、または車両の停止時に点灯します。

明るさのレベルはインストルメントパネルのディム(調光)スイッチで調整します。148ページをご覧ください。



カーテシーライト

オーバーヘッドコンソールで「自動」を選択すると、以下の場合にフットウェルヒルーフのライトが自動的に点灯します。

- 車両のロック解除。
- エンジンの停止。
- ドアが開く。

カーテシーライトは以下の場合に自動的に消灯します。

- 車両がロックされる。
- エンジンの起動。
- ドアが閉まる。
- ドアが2分以上開いたまま。

グランドライト

グランドライトは、ドアが開くと弱光のアンビエントライトが点灯し、閉じると消灯します。

明るさの調整

ステアリングコラム外側にある \odot 操作輪を回して、インスツルメント、アンビエントライト、ムードライトの明るさを調整することができます。

注記: コントロールホイールを使って輝度レベルを調整できるのは、照明システムのナイトモードが作動し、計器類、アンビエントライティング、ムードライトの輝度レベルが自動的に落ちるほどに、車外の環境照明レベルが低い場合のみです。

ウインドシールド、ウィンドウ、ミラー、サンバイザー



ワイパー/ウォッシャー

ワイパー

ステアリングホイール右側のストークを使って必要な設定に動かします。

○ ワイパーをオフにします。

▽ 単発ワイプ:ストークを0の位置から下方向に押して離すと、ワイパーはゆっくりとウインドシールドをワイプします。ストークをさらに下方向に押さえると、リリースされるまでゆっくりとワイプし続けます。

!
注意: ワイパーを使用する前に、ブレードが凍っていないこと、ウインドシールドに雪や氷が付着していないことを確認してください。



断続ワイプ

AUT ワイパーの掃引インターバルを設定するには、ストーク先端のリングを回転させます。掃引インターバルを長くするには上向きに、短くするには下向きにします。



連続ワイプ

△ ワイパーは通常速度で連続して動きします。

△ ワイパーは高速で連続して動きます。

!
注意: ワイパーブレードの状態を定期的に確認してください。ワイパーブレードのゴムが摩耗または損傷していると、ウインドシールドを適切に清掃できない場合があります。

レインセンサーワイプ

ワイパーは、ウインドシールドに降る雨の強さを感じて自動的に作動します。

レインセンサーワイプは、ワイパーストークがAUTの位置にありイグニッションがIまたはIIに設定されているときに作動します。

ストークの先端にあるリングを上に回すと感度が高くなり、下に回すと感度が下がります。

⚠ アラーム: 雨やウォッシャー液がウインドシールドに付着して凍結し、視界が悪くなる可能性がある場合は、レインセンサー機能を使わないでください。

オートカーウォッシャー

⚠ 注意: 自動洗車機でワイパーが動き、破損する可能性があります。エンジンが稼働中、または車両の電気系統がイグニッションポジションIまたはIIにあるときに、レインセンサー機能が解除されていることを確認してください。



ウィンドウウォッシャー

ワイパーストークを手前に引くと、ウォッシャーが作動します。また、ワイパーがウインドシールドを数回ワイプします。

⚠ 注意: ワイパーでウиндシールドを拭くときは、ウォッシャー液をたっぷりと使ってください。ワイパーの作動中は、ウンドウが濡れていなければなりません。

ウォッシャー液のレベル



ウォッシャー液リザーバーの液面レベルが低下すると、ドライバーディスプレイにこの記号と通知メッセージが表示されます。223ページを参照してください。

ウインドシールド、ウィンドウ、ミラー、サンバイザー



パワードア ウィンドウ

ドライバー側ドアパネルのコントロールパネルのスイッチを使用して、車両両側のパワーウィンドウを操作します。助手席の乗員は、そのドアパネルにあるウィンドウスイッチで操作します。

- 1** スイッチを上、または下に少し動かすと、スイッチの位置を保持している間、ウィンドウが上下します。
- 2** スイッチを上または下にいっぽいに動かしてから離すと、ウィンドウは自動的に最終位置まで上がりります。

⚠ アラーム: 子供を車内に放置しないでください。

⚠ アラーム: ウィンドウを閉めるときは、人や物が挟まれないよう必ず確認してください。

⚠ アラーム: 不注意なウィンドウ操作は、特に子供にとって危険です。また、同乗者にもこの危険性を周知徹底してください。

⚠ アラーム: 炎天下の中、ウィンドウを閉め切って駐車した車内に子供や動物を放置しないでください。

パワーウィンドウを操作するには、イグニッションモードIまたはIIでなければなりません。イグニッションモード0では、パワーウィンドウを数分間操作することができます(ただし、ドアを開けた後はできません)。一度に操作できるのはスイッチ1つのみです。

自動昇降

ドアを閉めやすくし、ドアガラスとドアシールの密閉性を最適化するために、完全に閉まったウィンドウはドアが開くと同時に自動的に少し下降し、ドアが閉まると再度上昇します。

挟み込み防止機能

開閉中にドアウィンドウのどちらかが障害物で塞がれると、開閉の動きが止まり、塞がれた位置から約50mm(または全開位置まで)自動的にリバースします。

例えば氷が張ったときなど、閉める作動がキヤンセルされたときに挟み込み防止機能を解除とするには、ウィンドウスイッチを必要な方向に押し続けてください。

バッテリー供給が途絶えると、ワンタッチ下降、自動降下、挟み込み防止機能が作動しなくなり、ドアウィンドウシールが損傷するリスクが高まります。

自動昇降/挟み込み防止機能のリセット

- 各ウィンドウを完全に上昇させ、上がったらカチッと音が聞こえるまでスイッチを2秒間長押しします。
- 各ウィンドウを完全に下降させ、下がったらカチッと音が聞こえるまでスイッチを2秒間長押しします。

! **注記:** ウィンドウはおよそ180km/h以上の速度では開けられませんが、いずれの速度でも閉めることはできます。



ドアミラー

ドライバー側ドアパネルのコントロールパネル内スイッチとジョイスティックを使って、両側ドアミラーを操作、ミラーガラスを調整することができます。

! **アラーム:** ミラーガラスは、視野を広くするために凸型になっていますが、その分、物が小さく、遠くに見えます。

ドアミラーガラスの調整

- 左側のドアミラーはLスイッチ、右側のドアミラーはRスイッチを押します。
- 押したスイッチのライトが点灯します。
- ジョイスティックを使ってミラーガラスの位置を調整します。
- もう一度スイッチを押すと、ライトが消灯します。

ウインドシールド、ウィンドウ、ミラー、サンバイザー

ドアミラーの折りたたみ/展開

駐車時や狭い場所での運転時に、ドアミラーを内側に折りたたむことができます*。

ドアミラーの折りたたみ

- イグニッションモードをI以上に設定します。
- LとRスイッチを同時に押します。
- 約1秒後に離すと、両側のドアミラーは自動的に完全に折りたたまれた位置で停止します。

ドアミラーの展開

- もう一度、LとRのスイッチを同時に押します。
- ミラーは完全に展開された位置で自動的に停止します。

*こちらはオプションのアクセサリーです。

ロック時の自動折りたたみ

キーフォブを使って、車両のロック/ロック解除時にドアミラーを自動的に折りたたみ/展開することができます。

この機能にはプリセットのオプションがあり、中央ディスプレイで設定できます。128ページをご覧ください。



注記: LとRのボタンでミラーを内側に折りたたんだ場合は、手動で開く必要があります。

ニュートラルにリセット

電動式折りたたみ/展開を正しく動作させるためには、外力によって位置がずれたドアミラーを電動で元の位置に戻す必要があります*。

- LとRスイッチを同時に押して、ドアミラーを折りたたみます。
- LとRスイッチを同時に押して、もう一度展開させます。
- 必要に応じて上記の手順を繰り返し、ミラーを元の位置に戻してください。

*こちらはオプションのアクセサリーです。

パーキング中の手動角度調整

ドアミラーガラスは、角度を下向きにして、駐車時に道路面を確認することができます*。

- リバースギアを入れた状態で、必要に応じてLまたはRスイッチを押します。
- なお、スイッチが既に選択されているかどうかによって、スイッチを2回押す必要があるかもしれません。
- ドアミラーガラスの角度が下向きになると、スイッチが点滅します。
- リバースギアを解除すると、ドアミラー ガラスは3秒後に自動的に戻り始め、約8秒後に元の位置へ戻ります。

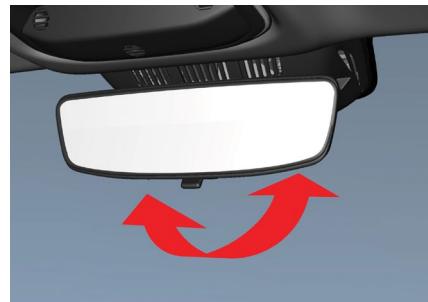
*メモリーボタン付きのパワーシートを装備している場合にのみ適用されます。

パーキング中の自動角度調整

リバースギアを選択すると、ドアミラーガラスの角度を自動で下げることができます。

この機能は中央ディスプレイにて設定します。124 ページをご覧ください。

! **注記:** LまたはRスイッチを2回押すと、ガラスは元の位置に戻ります。



インテリア バックミラー

手動調光

インテリアバックミラーは、ミラーベースのレバーを使って明るさの調節が可能です。

- レバーを手前に倒すと、ミラーが暗くなります。
- レバーをウインドシールドの方向へ動かすと、通常ビューに戻ります。

! **注記:** オートディム機能付きのミラーでは、手動で調光はできません。

ウインドシールド、ウィンドウ、ミラー、サンバイザー

自動調光ミラー

バックミラーやドアミラーに反射した車両後方の眩しい光を自動的に減光します*。

イグニッションのオフ時やリバースギア選択時を除き、自動調光は常に有効です。

この機能の調光レベルのプリセットは、中央ディスプレイで設定します。128 ページをご覧ください。

*オプションで装着の場合。

! **注記:** パーキング許可、トランスポンダ、サンバイザーなど、センサーに光が届かないものがあると、ルームミラーとドアミラーのディム機能は低下します。



サンバイザー

サンバイザー(装着の場合)は、シート前方のルーフライニングにあり、必要なときに折りたたみが可能です。また、必要に応じて内部のマウント部分を外して回転させることも可能です。

サンバイザーを降ろした状態でミラーカバーをスライドさせると、バイザー内のバニティミラーが点灯します。

キャビン内収納と電源ソケット

キャビン内収納と電源ソケット



グローブボックス

助手席側フェイシアにあり、グローブボックス上部のリリースボタンを押すと開きます。閉じるには完全に押しこみ、ラッチを嵌合させます。



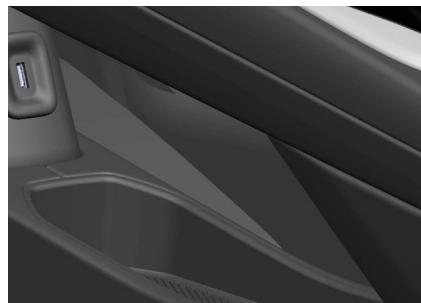
アームレスト



クライメートコントロールスイッチの下



カップホルダー



ギアセレクターの下

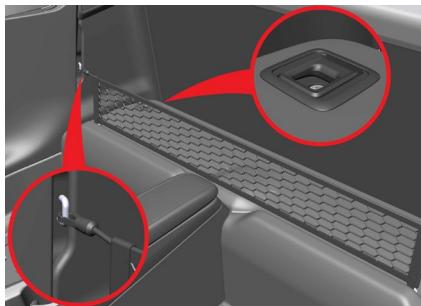
(オートマチックトランスミッション車のセンターコンソールを表示。マニュアル車のコンソールの収納トレイはこれより小さめです)。

キャビン内収納と電源ソケット



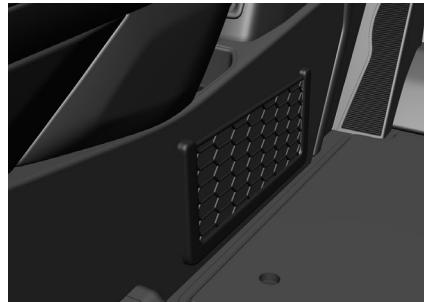
ドアポケット

ラゲッジネット



リアキャビンネット
(装備の場合)。

⚠️ アラーム: 最大荷物重量は20 kgを超えてはなりません。収納する荷物は、車内で不安定にならないよう、ネットに完全に収納する必要があります。



センターコンソールネット
(装備の場合)。

電源ソケット



12ボルト電源ソケット

電源ソケットはセンターコンソール後部にあります。イグニションモードIまたはIIで作動します。

エンジンを切り、車両をロックすると、電源ソケットとUSBポートが解除されます。エンジンを切り、車両をロックしていない場合、ソケットとUSBポートは引き続き7分間作動します。

⚠️ アラーム: 小さな子供を車内に残さないでください。不用意に電源ソケットに触れると危険です。

キャビン内収納と電源ソケット

⚠ アラーム: 車両のラジオや電気系統に干渉を与える可能性のあるアクセサリーは使用しないでください。

⚠ アラーム: 接続のアクセサリーは、急ブレーキや衝突の際に乗員に危害を与えないような位置に置いてください。

⚠ アラーム: 接続のアクセサリーは熱くなって乗員が火傷をしたりインテリアに損傷を与える能性があるため、こまめにチェックしてください。

! **注意:** エンジンを切った状態でAUXソケットやUSBポートを使用すると、バッテリーが放電することがあります。

! **注意:** 定格10アンペアを超えるアクセサリーは使用しないでください。電源ソケットに接続する前に、アクセサリーの定格を確認してください。



USBポート

アームレスト内

センターコンソールのアームレスト内には2つのUSBポート(タイプAとC)が備えられています。ここをインフォテインメントシステムに接続し、データ転送や電話投影が可能です。

! **注意:** USBポートの出力電圧は5V、最大電流は約2.5Aです。ファンやライトなどの機器をUSBポートに接続しないでください。



センターコンソールの前方

センターコンソールのロアストレージレイの前方には、充電専用のタイプA USBポートが1つ装備されています。

USBケーブルは、アッパーコンソール下側の穴を通してクライメートコントロールスイッチ下のストレージエリアにつなぐこともできます。ストレージエリアのラバーマットには、USBケーブルを所定の位置に保持させる機能もあります。

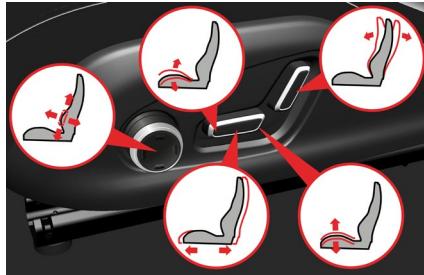


バックミラー

(装着の場合)

バックミラートリムの前方に、交通ビデオ
レコーダーへの電源供給を想定したUSB
ポートが配置されています。

シートとステアリングホイール



シート パワーシート

- ランバーサポートは、スイッチの上/下/前/後を押して調節します。
- シートクッションの角度は、スイッチ前部を上下に動かして調節します。
- シートクッションの高さは、スイッチの後部を上下に動かして調節します。
- 背もたれの角度は、コントロールを前後に動かして調節します。
- シートの前後は、コントロールを前後に動かして調節します。

シートのフォールド

165ページをご覧ください。

アラーム: 急ブレーキによる人身事故を防ぐため、運転前にシートが所定の位置にロックされていることを確認してください。

アラーム: ステアリングホイールからの快適な距離であること、ブレーキペダルを最後まで踏み込むことができる、常に車両を完全に制御できることを確認します。

アラーム: シートを調整するときは、人や物が挟まれないようにしてください。

アラーム: 運転中にシートポジションを調整すると、車の操縦に悪影響を及ぼすことがあります。

注記: パワーシートの操作スイッチのうち、2つ以上は同時に使用できません。

注記: パワーシートには、シートの動きを妨げるものがあると起動するオーバーロードプロテクションシステムが搭載されています。これが起動した場合は、その対象物を取り除き、再度シートを動かしてください。

シートとステアリングホイール



シート/ドアミラーメモリースイッチ (装着の場合)

パワーシート装備の車両は、ドライバー側ドアパネルにメモリーボタンが設置されています。このメモリー機能では、運転席とドアミラーの2種類の設定を記憶することができます。

メモリ設定の保存

シート/ドアミラーの位置をボタン1に記憶させるには:

- 車両をイグニッション1にセット、もしくはエンジン稼働状態にします。181ページを参照してください。
- シートとドアミラーを好みの位置に調節します。163ページと153ページを参照してください。
- Mボタンを押し、離します。ボタンの表示ランプが点灯します。
- 短時間の内に、Mボタンの表示ランプが消えチャイムが鳴るまで、ボタン1を押し続けます。

! **注記:**ボタン2を同様に使用して、シート/ミラーのポジションを、もう1設定記憶させます。

保存した設定を起動

運転席のドアを開けた状態で:

ボタン1を押し、離します。シート/ドアミラーは自動的に設定位置に移動します。

運転席のドアを閉めた状態で:

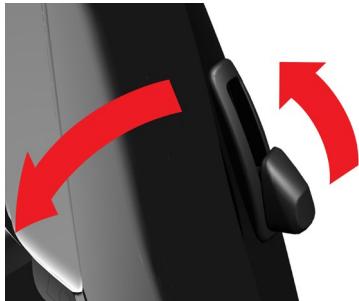
シート/ドアミラーの動きが止まるまで、ボタン1を押し続けます。

! **アラーム:** 走行中は、メモリー機能の使用やシート調整をしないでください。これにより、車両の制御が失われる可能性があります。

! **アラーム:** ドライバーシートは、イグニッションをモード0にした状態でも調整できますので、乗車中は子供の目を離さないでください。

! **注意:**シートの動きを妨げると、シートに損傷を与える可能性があります。

! **注記:**ランバーポジションの設定は保存されません。



シートのフォールド

シート外側リアのストラップを引いて背もたれを倒し、シートを前に移動させます。レバーを離すとシートは元の位置に戻ります。

シートヒーター

175ページをご覧ください。



ホーン

ステアリングホイールのセンターパッド部分を押すと音が鳴ります。



ステアリングホイールの調節

ステアリングホイールは、高さと奥行きの調節が可能です。

1. ステアリングホイールを解除するには、コラムロックレバーを押し下げてください。
2. ステアリングホイールを望みの高さと奥行きの位置に調節します。
3. ステアリングホイールを所定の位置にロックするには、コラムレバーを戻します。
4. ステアリングホイールを上下左右に動かし、確実にロックされていることを確認してください。

⚠ アラーム: 運転する前に、ステアリングホイールが正しい位置にあり、しっかりとロックされていることを確認してください。運転中はステアリングホイールの調整を絶対に行わないでください。

シートとステアリングホイール

ドアミラーと運転席は、運転前に安全で快適な位置に調整する必要があります。153ページと163ページを参照してください。

電子ステアリングコラムロック

イグニッションモード0で車両が停止状態のとき、以下の場合に電子式ステアリングコラムロックが起動（ロック）します。

- キーフォブで車両がロック。
- イグニッションモード0のまま一定時間が経過。
- 車両がロック解除された後、一定期間内に車両が起動しない。

クライメートコントロール

クライメートコントロール

クライメートコントロールシステム

クライメートコントロールは手動もしくは自動のどちらかを選択できます。ロータス特製のクライメートシステムは、暖房、換気、冷房、除湿を車室内に供給します。

クライメートシステムのオプションは、センターコンソールのクライメートコントロールスイッチ、および中央ディスプレイのオンスクリーンボタンから選択します。

クライメートコントロールシステムの効果を最大限に引き出すためには：

- 最適なパフォーマンスを得るためにウィンドウを閉めること。
- ウィンドシールド前のインレット口の雪、氷、詰まりを取り除き、システムの最適な動作を確保すること。

注記:エアコンシステムの状態を良好に保ち、コンプレッサーを潤滑するために、少なくとも毎週数分間はエアコンを選択することをお勧めします。



クライメートコントロールスイッチ

- 1 温度制御とエアコンのオン/オフ。
- 2 空気分布。
- 3 ウィンドシールドデミスター。
- 4 ヒーテッドドアスクリーン/ドアミラー。
- 5 空気再循環。
- 6 ファン速度/オートクライメーションモードのオン/オフ。



エアコン

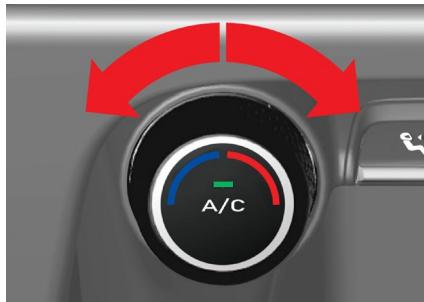
エンジンが稼働しクライメートファンがオンの状態で：

- A/C ボタンを押して、エアコンを起動します。
- ボタン内の表示ランプが点灯し、センターディスプレイにA/C記号が表示されます。
- もう一度ボタンを押すと、解除されます。

以下により、エアコンの起動も可能です：

- AUTOボタンを押す。
- ウィンドシールドデミスターボタンを押す。

中央ディスプレイの設定については、175ページをご覧ください。



気温

キャビン内室温を調整するには、A/Cボタン外周のコントロールリングを時計回りに回すと温度が上昇し、反時計回りに回すと下降します。

設定温度は中央ディスプレイに一時的に表示、中央ディスプレイのクライメート・ナビゲーション・バーには常時表示されます。

中央ディスプレイの設定については、175ページをご覧ください。



空気分布

気流は、以下の組み合わせでキャビン内に入ります。

- ウィンドウシールドのデミスターとサイドウィンドウの通気口。
- フットウェルの通気口。
- 頭部レベルのインスツルメンツパネルの通気口。

現在時の気流分布設定は中央ディスプレイに一時的に表示され、中央ディスプレイのクライメート・ナビゲーション・バーには常時表示されます。

気流分布スイッチを押すと、これらの通気口の組み合わせを短時間で切り替え/循環します。6種類の設定が可能です。



フットウェル。



フットウェルと頭部。



頭部。



頭部とウインドシールド。



ウインドシールド。



ウインドシールドとフットウェル。

中央ディスプレイの設定については、175ページをご覧ください。

クライメートコントロール



デミスターの起動中は、手動循環は選択できません。

デミスター

ウィンドシールドの除湿/防曇を最大とするには、デミスターのスイッチを押してください。起動時:

- スイッチ上部の表示ランプが点灯し、中央ディスプレイにデミスターの記号が一時的に表示されます。
- クライメートファンが全速力で作動します。
- 気流はすべてウィンドシールドに流れます。
- 最大ヒートが選択されます。
- エアコンが作動します。
- スイッチをもう一度押すと解除されます。イグニッションモードが0に設定されている場合、デミスター機能も解除されます。



ヒーテッドリアスクリーン/ドアミラー

エンジン稼働の状態で、リアスクリーン／ドアミラースイッチを押して、リアウインドウデフレスト機能を起動します。起動時:

- スイッチ上部の表示ランプが点灯します。
- リアスクリーンとドアミラーの防曇が開始されます。
- もう一度スイッチを押すと解除されますが、約10分後に自は動的に解除されます。

中央ディスプレイのコントロールを使って、低温時にリアスクリーンのヒーターが自動起動するように設定可能です。175ページをご覧ください。



空気再循環

他の車などの排ガスがキャビン内に入るのを防いだり、エアコン使用の際に最大限冷却するには、再循環スイッチを押してください。起動時:

- スイッチ上部の表示ランプが点灯し、中央ディスプレイに再循環の記号が一時的に表示されます。
- キャビン内の空気が再循環します。
- スイッチをもう一度押すと解除されます。

⚠️ アラーム: 再循環モードは長時間使いしないでください。室内の空気がよどんだり、ウィンドウに霧がかかることがあります。

デミスターの起動中は空気再循環を作動させることはできません。

中央ディスプレイの設定については、175ページをご覧ください。



オートクライメート

好みの室温に設定した状態で、AUTO ボタンを押して自動空調システムを作動させます。起動時:

- ボタンのインジケータランプが点灯します。
 - そして、気流温度、気流分布、クライメートファンの回転数を車両側で制御し、希望の温度を維持します。
- 次のいずれかが発生すると、オートモードは解除されます。
- 再循環モードが起動する。
 - デミスターが起動する。
 - 空気分配スイッチが押される。
 - クライメートファンの速度が調整される。

クライメートコントロール

中央ディスプレイの設定については、128ページをご覧ください。

自動温度設定

車室内的温度調節は、実際の気温ではなく、システムが感知した温度に基づいています。

感知温度は、車両がその時に受けている外気温、風速、湿度、日射量などの影響を受けています。

車内のどちら側に日差しが注いでいるかをセンサーで検知するため、システムが温度調節を試みても通気口間の気温が異なる場合があります。



クライメートファン

クライメートファンの速度を調節するには、AUTOボタン周囲のコントロールリングを時計回りに回すと、速度が増大します（速度は7段階あります）。反時計回りに回すと減少します（ファンを切るまで）。

ファン速度のレベルは、中央ディスプレイに一時的に表示され、中央ディスプレイのクライメート・ナビゲーション・バーには常時表示されます。

中央ディスプレイの設定については、175ページをご覧ください。

クライメートコントロール



通気口

調整可能な通気口は、フェイシア中央と左右サイドにあります。

ウィンドシールドとフットウェルにあるのは調節不可能な通気口です。



通気口の調整

通気口内のレバーを動かして、望む方向に送風します。

花粉フィルター

花粉フィルターは、キャビン内に入るすべての空気を清浄するためのものです。

花粉フィルターの交換

キャビン内に流れる空気の質を維持するために、フィルターは、車両の整備スケジュールで指定された間隔で、ディーラーにて交換してください。

埃や砂の多い環境で運転される場合は、フィルター交換の頻度が高くなることがあります。必要に応じ、詳細につきましてはロータスのディーラーまでお問い合わせください。

クライメートコントロール

インテリア空気洗浄システム

空気質検知器で車外の空気の汚れを検知します。過剰な汚染物質が検出されると、キャビン内へ新鮮な空気を取り込む吸入口が閉じてキャビン内の空気が再循環されるため、汚染度が高まるのを回避します。

次の場合、システムは起動しません。

- 再循環モードがすでに起動している。
- クライメートファンがオンになっていない。
- ウィンドウが開いている。

アクティブ電気モジュール冷却

最適なパフォーマンスを確保するために、必要に応じて、クライメートシステムからの冷却風をダッシュボードエリア後方に配置された電気モジュールに分配します。

この機能を起動すると、クライメートファンとアコンの機能が自動的に作動したり、現在設定を調整したりすることができます。

中央ディスプレイ

また、スイッチ操作によるクライメートコントロール設定に加え、中央ディスプレイからも操作することができます。

プリセットバー

中央ディスプレイのサイドバーから、次を選択します。グローバル設定/アプリオプション>車>クライメート

1 内気循環タイマー：

起動から30分後に自動解除。

2 ファン速度自動モード：

低、中、高の強度レベルを選択可能。

3 自動リアデフロスター

リアスクリーンヒーターは、7 °C以下の温度で自動的に起動。

4 シートヒーター自動作動

イグニッションモードII(アクティブ)のときに使用でき、オートシートヒーターの持続時間を設定します。



必要なクライメートのオプションをタップします。

スライドボタンを使用してプリセットを有効にします。

プリセットレベルがある場合は、トグルボタンをタップして必要なレベルを選択します。

中央ディスプレイの画面情報については、124ページをご覧ください。

シートヒーター

トグルボタンを使っての、シートのヒートレベルの変更方法詳細については、177ページを参照してください。

注記: 助手席エアバッグが解除されている場合、助手席シートヒーターは作動しません。38ページをご覧ください。

クライメートコントロール

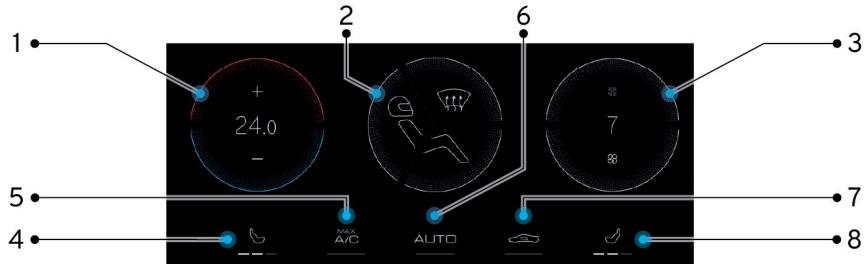
ナビゲーションバー

 中央ディスプレイのナビゲーションバーから、クライメートコントロールのアイコンを選択すると、利用可能なオプションが表示されます。

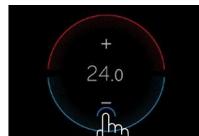
クライメートコントロールのオプション

- 1 温度。
- 2 空気分布。
- 3 ファン速度。
- 4 左側シートヒート。
- 5 最大A/C。
- 6 オートクライメート。
- 7 再循環。
- 8 右側シートヒート。

中央ディスプレイ画面の詳細については、128ページをご覧ください。



1 温度



「+」または「-」をタップすると、温度が0.5度単位で変化します。



「+」または「-」を長押しし、温度を「Hi」または「Lo」に設定します。



ディスプレイ内の上下を押しドラッグすると、温度が変化します。



ディスプレイの外側を押してドラッグし、「Hi」温度を設定します。

2 空気分布

空気分配ディスプレイの下、中、上をタップして、ゾーンを有効または無効にします。



ウインドシールド



フットウェル



頭部

3 ファン速度



ディスプレイの内側をタップして、速度を1段階上げたり下げたりします。



ディスプレイの内側を長押しして、速度を「7」または「OFF」に設定します。



ディスプレイの内側を押してドラッグすると、速度が変更できます。



ディスプレイの外側を押してドラッグし、ファン速度を「7」に設定します。

4 8 ヒートシートの温度



トグルボタンを繰り返しタップすると、運転席と助手席のヒートレベルを、OFF、高、中、低と変更できます。

⚠ アラーム: 感覚が鈍く温度の上昇を感じにくい人や、操作に問題がある人は、火傷の恐れがあるため、ヒートシートのオプションは使用しないでください。

5 最大 A/C



「MAX A/C」のトグルボタンを押すか、温度を「Lo」に設定すると、最大A/Cを作動させることができます。



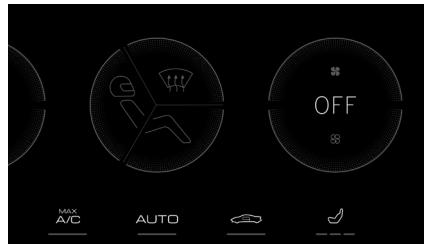
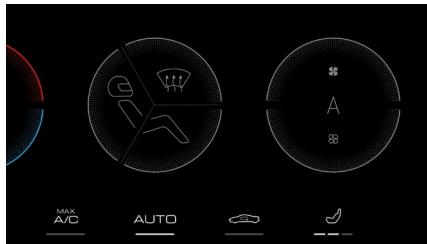
注記: オートクライメートが選択されている場合は、解除されます。

起動すると、トグルボタン下部の表示ランプが点灯し、温度が「Lo」に設定され、クライメートシステムはクライメートファンの速度、空気配分設定を調整し、エアコンを起動させて（その時起動していない場合）、キャビン内の室温をできる限り下げようとします。

トグルボタンをもう一度押して、最大A/Cを無効に、もしくは：

- 温度を変更する。
- クライメートファンの速度と空気分配の設定を変更する。
- エアコンを無効にする。
- オートクライメート設定を有効にする。

クライメートコントロール



6 オートクライメート

オートクライメートを設定

希望の温度に設定してから、中央ディスプレイのトグルボタンを押すか、センターコンソールのAUTOボタンを押して、オートクライメートを起動します。171ページを参照してください。

- トグルボタン下部のインジケータランプが点灯します。
- ディスプレイ内のクライメートファンの速度レベルと空気分配表示が暗くなります。

これでクライメートシステムは、キャビン内に入る冷気の速度、分布、量を調整し、希望する温度を維持することができます。

クライメートを再起動するには：

- 温度調節ディスプレイ内の「+」ボタンをタップします。
- 中央ディスプレイから、またはセンターコンソールのAUTOボタン周囲のコントロールリングを使って、クライメートファンの速度レベルを「OFF」に設定します。

クライメートをオフに設定

中央ディスプレイから、またはセンターコンソールのAUTOボタン周囲のコントロールリングを使って、クライメートファンの速度レベルを「OFF」に設定します。171ページを参照してください。

- クライメートファン速度表示には、「OFF」が表示されます。
- 温度表示内の温度レベルが暗くなります。
- 気流分布が解除されます。



7 空気再循環

空気再循環の設定

中央ディスプレイのトグルボタンを押すか、センターコンソールの再循環ボタンを押します。171ページをご覧ください。

- トグルボタン下部のインジケータランプが点灯します。
- キャビン内の空気が再循環します。
- もう一度トグルボタンを押すと、解除されます。

始動と運転



イグニションモード

イグニッションモードをモード0(無効、車両がロック解除され運転席のドアが開いている状態)から変更するには、クラッチ(マニュアル車)またはブレーキペダル(オートマチック車)を踏まずにエンジンスタート/ストップボタンを押してください。

イグニションモードI(コンビニエンス)

モード0からIへ切り替えるには、キーフォブを検知した状態で、エンジンスタート/ストップボタンを短く押します。

イグニションモードII(アクティブ)

イグニッションモード0またはIからモードIIに切り替えるには、キーフォブを検知した状態で、エンジンスタート/ストップボタンを約5秒間長押しします。

電子ステアリングコラムロック

イグニッションモード0(無効)で車両が停止状態のとき、以下の場合に電子式ステアリングコラムロックが起動(ロック)します。

- キーフォブで車両がロック。
- イグニッションモード0のまま一定時間が経過。
- 車両がロック解除された後、一定期間内に車両が起動しない。

イグニッションモード

利用できるシステム

0 - 無効	このモードでは、限られた時間内に一部の電気系統の機能を使用することができます。時計、オーディオインフォディスプレイ、ポジションライトを使用できます。ステアリングコラムの電子ロックも解除されます(アンロック状態)。
I - コンビニエンス	パワーウィンドウ、電話など、特定の便利な機能を操作できます。
II - アクティブ	エクステリアライトを操作できます。電気システムがセルフチェックを行い、ドライバーディスプレイにアラーム表示記号が約3~6秒間点灯します。これでほとんどの電気制御が操作できるようになります。

始動と運転

エンジンの起動

- キーフォブがフロントシート周辺にあることを確認します。
- マニュアル車：トランスマッisionがニュートラルになっていることを確認し、クラッチペダルを踏み込みます。184ページを参照してください。
- オートマチック車：[P - パーク]または[N - ニュートラル]を選択し、ブレーキペダルを軽く踏みます。186ページと193ページを参照してください。



- エンジンスタート/ストップボタンのフリップカバーリア側を持ち上げます。
- エンジンスタート/ストップボタンを押して離すと、オートスタート機能により、車両が始動するまでスターターモーターを作動させます。

⚠ アラーム：運転する前に、自分自身と同乗者がシートベルトを締めていることを確認します。

⚠ アラーム：走行中は絶対にキーフォブを外したり、START/STOP ENGINE ボタンを押したりしないでください。エンジンを停止させ、事故の原因となる可能性があります。

⚠ 注意：始動後、冷たいエンジンを直ちに加速しないでください。オイルがすべてのエンジンコンポーネントに潤滑しない可能性があり、エンジン損傷の原因となる場合があります。

⚠ アラーム：車両の操作を維持するには、運転席、ハンドル、ドアミラーが正しく調整されていることを確認してください。

⚠ アラーム：必要に応じて、ブレーキペダルを完全に踏み込めるように運転席を調整してください。

アルコールインターロック

アフターマーケットのアルコールインターロックの装着により、ドライバーが飲酒状態の際は、車両の始動や運転を防ぐことができます。

アルコールインターロックを車両の電気系統に接続する方法など、ロータス正規ディーラーの認可を受けた自動車電気技師より装着に関する情報を得ることができます。

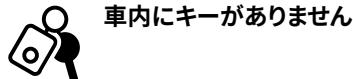
アルコールインターロックシステムの操作については、同システムに付属の情報を参照してください。

アラーム: 運転手は常に、アルコールを摂取していないこと、そして車両の安全運転の責任を負わなければなりません。



緊急起動

キーフォブの電池残量が少ないためにキーを検知できない場合、ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。



車内にキーがありません

このメッセージが表示され、エンジンが起動しない場合は：

- キーフォブをセンターコンソールアームレスト内収納部後方にある凹部に置きます。
- スタートボタンを押します。
- アラームサイレンが消音され、アラームが無効になります。



注記: リモコンキーがフロントカップホルダー内のバックアップリーダーのそばに置かれている場合、カップホルダー内に車のキーや金属製のもの、その他の電子機器(携帯電話や充電器など)がないことを確認してください。バックアップリーダーのそばにあるデバイス同士が干渉する可能性があります。



注記: 3回試みても起動しない場合は、3分ほど待ってから再度試みてください。



エンジンのスイッチを切る

- 車両が静止し、パーキングブレーキがかかり、トランスミッションがニュートラル（マニュアル車）、またはP-パーク（オートマチック車）になっていることを確認します。197 ページと 186 ページをご覧ください。
- エンジンスタート/ストップボタンのフリップカバーリア側を持ち上げます。
- エンジンスタート/ストップボタンを押し離すと、エンジンが停止します。

⚠ アラーム: 退出時には必ずリモコンキーを取り出し、イグニッションモードが0になっていることを確認してください（特に子供が車内に残っている場合）。

! **注意:** 可能であれば、高速または高負荷走行後、エンジンのスイッチを切る前に数分間エンジンをアイドリングさせてください。これにより、エンジン/フルードの温度が正常に戻ります。これはパワートレインの長期的な耐久性にも貢献します。



マニュアルトランスマッision

エミーラ V6 マニュアルトランスマッision は、6段変速、ギアノブにはシフトレバーのパターンが表示されています。ギアチェンジのたびにクラッチペダルを完全に踏み込み、シフトアップ時にはスロットルペダルを緩めなければなりません。

その他のトランスマッision のオプションについては、186 ページをご覧ください。

⚠ アラーム: 傾斜地や坂道で駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。車両をギアのままにしておくと、車両を保持するのに十分でない場合があります。



リバースギアの選択

車両が停止した状態で、クラッチペダルを完全に踏み込んだままギアノブの下のカバーを持ち上げ、ギアシフトレバーを左側いっぱいに動かし、次に前方にシフトしてリバースギアを入れます。

また、パークアシストカメラが自動的に作動し、中央ディスプレイには車両後方の様子が映り出されます。

*市場により異なります。



注意: クラッチやスロットルを正しく操作せずにギアチェンジをすると、トランスマッisionやエンジンに損傷をもたらす場合があります。車両が前進している間は、絶対にリバースギアを入れないでください。これは、車両保証の対象外となる深刻なトランスマッisionの損傷を引き起こす可能性があります。

クラッチペダル

エミーラ V6 マニュアルトランスマッision車の場合、エンジンを始動させるには、クラッチペダルを完全に踏み込まなければなりません。走行前に、クラッチペダルの動きがフロアーマットなどで妨げられていないことを確認してください。



アラーム: フットウェル内のフロア材はすべて適切に固定されていなければなりません。マットが緩んでいると、フットペダルの操作に支障をきたし、車の制御が効かなくなる可能性があります。



他のトランスミッションのオプション
オートマチックトランスミッション
エミーラV6には、ロータスのオートマチックトランスミッションシステムが用意されています。

デュアルクラッチ・トランスミッション
エミーラ4気筒には8速デュアルクラッチ・トランスミッションが搭載されています。どちらのオプションでも、ドライバーは従来のオートマチックドライブからマニュアルシフトモードに切り替えることができ、スポーツモードとトラックモードのオプションでは、より迅速で顕著なギアシフトを体験できるばかりでなく、パフォーマンスに応じてシフトポイントを最適化することができます。

185 - 192 ページに記載の情報は、特に記載のない限り、両方のトランスミッションシステムに適用されます。

システムモードオート選択

ツアーモードでは、ギアシフトと変速ポイントの洗練性と燃費が最適化されるよう調整されます。

手動選択

前進ギアは、ギアセレクターまたはステアリングホイール後方のパドルシフトで順次にマニュアル選択が可能です。

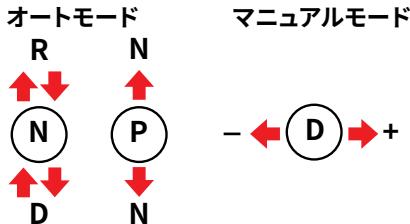


ギアセレクター

イグニッションモードIIの場合、ギアセレクターで以下のギアを選択することができます。

R - リバース
N - ニュートラル
D - ドライブ

エンジンは、フットブレーキを踏んだ状態でPまたはNを選択した場合にのみ始動できます。



ギアの選択

現在選択中のギアに応じて、フットブレーキをしっかりと踏み込み、ギアセレクターを前方／後方に1～2回動かすと、ギアが切り替わります。

Dが選択されているときにRを選択するには(またはその逆)、フットブレーキを踏み、ギアセレクターを前方または後方に素早く2回動かしてギアを選択します。

⚠ アラーム: スロットルが押されていないくても、車両が動く可能性があるため、DまたはRを選択しながらフットブレーキを常にしっかりと押し下げてください。

⚠ アラーム: エンジンが長時間アイドリングのままで車が停止している場合は、予期しない、または突然の車の動きを避けるため、必ずPまたはNを選択してください。

! **注記:** 予期しない、または突然の車の動きを避けるため、DまたはRを選択した後トランスミッションがギアに入るまで待ってから、アクセルペダルを踏み込んでください。

フットブレーキを踏んでいない状態でギアを選択したり、車両を発進させようと、ドライバーズディスプレイの画面にアラームメッセージが表示されます。

エンジンを切るのは、車両が停止し、PまたはNが選択されているときのみとするのが良い運転習慣です。



P -パーク

車両が停止している状態で、パーキングブレーキをかけ、ギアセレクターの後ろにあるPボタンを押して、パークモードを起動します。セレクターレバーを前方／後方に1回動かすと、パークモードが解除されます。

⚠ アラーム: 車両を静止した状態にしておくため、Pを選択すると同時に、必ずパーキングブレーキもかけてください。

! **注意:** エンジンとトランスミッションの損傷を避けるために、Pを選択する前に車両は静止していなければなりません。

始動と運転

! **注記:**車両をロックしてアラームを起動させるには、トランスミッションがPにはいっていなければなりません。

! **注記:**エンジンを停止してドアを開けると、Pを選択するようにアラーム音が鳴り響きます。

オートパークアクティベーション

パークは以下の場合に自動的に選択されます。

- DまたはRの位置でエンジンが停止しているとき。
- それ以外のギアでエンジンがかかるている際にドライバーがシートベルトを外し、運転席のドアを開ける。

R - リバース

フットブレーキをしっかりと踏み込み、Rを選択して車両を後進させます。Rを選択する前には、必ず車両を完全に停止してください。市場によりますが、パークアシストカメラも自動的に起動し、中央ディスプレイに車両後方の様子が映し出されます。

N - ニュートラル

ニュートラルが選択された状態ではギアは入っていません。パーキングブレーキをかけ、車両が停止しているときのみ、Nを選択してください。トランスミッションをニュートラルにした状態でも、エンジンを始動することができます。

ニュートラルはまた、ステアリングホイールに装備のパドルシフトを両方同時に手前に引くことで、いずれのギアからもニュートラルが選択できます。

! **注記:**エミーラV6モデルの場合、Nから他のギアを選択するには、ブレーキペダルを踏み込み、イグニッションをモードIIにする必要があります。

D - ドライブ

ブレーキペダルを踏んでDを選択するのは、車が停止し前進ギアを入れるときのみとします。

! **注記:**現在の車速が5 km/h以上であれば、ブレーキペダルを踏み込む必要はありません。

*エミーラ4気筒モデルの場合、NからDを選択する際、ブレーキペダルを踏む必要はありません。

ギアエンジのシフトポイントは自動的に制御されます。

不適切なPRNDの選択

PRND要求が不適切に選択された場合（車両がドライブで前進しているときにリバースを選択した場合やフットブレーキが踏まれていない場合など）、現在選択中のギアはドライバーディスプレイの画面上で強調表示されたまま、アラームメッセージが表示され、トランスミッションは要求のギアは入りません。

マニュアルモードのドライブ選択

フットブレーキを踏みながら「+」パドルシフトをドライバー側に持っていくと、P、R、Nのドライブを選択することができます。191ページも参照してください。

注記: 現在の車両が5km/h以上であれば、ブレーキペダルを踏み込む必要はありません。190ページも参照してください。

キックダウン

オートマチックモードでは、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、トランスミッションは最も低いギアにシフトダウンします。アクセルペダルを通常の走行位置に戻すと、トランスミッションは最適なギアにシフトアップします。キックダウンの動作は、路面速度、現在選択中のギア、アクセルの動きによって変化します。

トランスミッションアラームメッセージ

⚠ トランスミッションシステムに故障が検出されると、この記号が点灯し、ドライバーズディスプレイに説明のメッセージが表示されます。検出された故障によっては、車両はデフォルトで出力制限モードに移行することがあります。これが発生した場合は、表示されたメッセージ（車両の停止を含む）に従い、ロータス・ディーラーにご連絡ください。



手動選択モード

ドライバーコントロールのオプションが2つあります。

パーマネントマニュアルモード

最初にギアセレクターレバーで作動させ、その後オートマチックモードが再選択されるまで、ギアセレクターレバーまたはパドルシフトで維持されます。

テンポラリーマニュアルモード

パドルシフトの操作で初期化され、一定時間操作しないとオートマチックモードに戻ります。191ページをご覧ください。

パーマネントマニュアルモードでは、選択中アの横に白い「M」が表示されます。テンポラリーマニュアルモードの表示については 192 ページを参照してください。

始動と運転



注記: キックダウンはマニュアルモードでは使用できません。



パーマネントマニュアルモードの起動
Dで走行中にギアセレクターを右または
左に動かして起動させます。

ギアセレクターを使う

- ギアセレクターを右(「+」方向)に動かし離すと、トランスミッションは自動的に選択された現在のギアにとどまります。そのままギアセレクターレバーを右に動かして、上位ギアにシフトアップします。
- ギアセレクターを左(「-」方向)に動かし離すと、直ちに次の低位ギアにシフトダウンします。

パーマネントモードにすると、パドルシフトを使い、パーマネントモードに留まることができます。パーマネントマニュアルモードでは、トランスミッションは最高エンジン回転数(rpm)に達するまでは自動的にシフトアップしませんが、最低エンジン回転数でシフトダウンします。



テンポラリーマニュアルモードの起動
ステアリングウィール後方にあるパドルシフトを手前に引くと、一時的にマニュアルモードが起動します。

アップシフト: 「+」右側パドルで操作。
ダウンシフト: 「-」左側パドルで操作。

必要なパドルを手前に引くと、順次シフトアップまたはシフトダウンします。

エンジン回転数が許容範囲内 (rpm) であれば、パドルを引くたびにトランスミッションがギアチェンジします。

! **注意:** 通常の走行温度に達する前にエンジン回転数 rpm を上げるといった運転は避けてください。損傷や摩耗の可能性を低減するため、エンジン最高速度の使用は最大加速が必要な場合に限定する必要があります。過度に使用すると、パワートレインの寿命が損なわれます。

エンジンの最高回転数 (rpm) に達する前に、トランスミッションは自動的にシフトアップされます。

ドライバーによって選択されていない場合、トランスミッションシステムを保護し、エンストを防ぐために、車速が低下するとトランスミッションによって自動的に低速ギアが選択されます。

不適切なギア選択

エミーラV6オートマチックパワートレインモデル

エンジンが最大回転数 rpm に達するようなギアシフトを試みると、現在選択中のギアは変更されず、ドライバーディスプレイ画面に表示されたままとなります。

エミーラ4気筒パワートレインモデル テンポラリーマニュアルモード

エンジンが最大回転数 rpm に達するようなギアシフトを試みると、現在選択中のギアは変更されずそのままとなります。

パーマネントマニュアルモード

エンジンが最大回転数 (rpm) に達するようなギアシフトを試みると、現在選択中のギアは変更されず、パフォーマンスギアシフトライトとギアシフトインジケーター アローが作動します (70 ページと 72 ページを参照)。

始動と運転

テンポラリーマニュアルモードに維持
20秒間隔でどちらかのパドルを操作し続けると、マニュアル選択が維持されます。



20秒以内にパドルを操作しないと、トランスマッisionは自動モードに戻り、最後に手動で選択したギアとは異なる適切なギアが選択される場合があります。

「M」-マニュアルモード表示ステータス
エミーラV6: グリーンの「M」の下にタ
イマーバーがある(上の
画像のように)。
エミーラ4気筒 グリーンの「M」-下にバ
ーはない。

注記:トランスマッisionを保護する
ため、低回転領域でシフトダウンし、
エンストを防止します。

テンポラリーモードからパーマネントモードへ

一時的なマニュアルモードから常時マニュアルモードに切り替えるには、ギアセレクターを右(「+」側)または左(「-」側)に動かします。190ページを参照してください。

マニュアルモードを解除ギアセレクターを使う:

- ギアセレクターを後方にシフトしDを
選択。

または

- ギアセレクターを前方にシフトしNを
選択。

シフトパドルを使う:

- アップシフトパドル「+」を2秒間引く。

または

- アップシフト「+」とダウンシフト「-」の両
方のパドルを2秒間引いて、ニュートラ
ルを選択。

または

- テンポラリーマニュアルモードでは、い
ずれかのパドルシフターで20秒以上ギ
アを選択しない。

スポーツ&トラックモード

ドライバーの好みに合わせて、スポーツモ
ードとトラックモード(利用可能な場合)
が用意されています。

スポーツ、トラック、ESC(エレクトロニッ
ク・スタビリティ・コントロール)の「オフ」
モードを起動するのに適した条件や、適
切な安全アラームに関する詳細につい
ては、200ページをご覧ください。

注記:エレクトロニックスタビリティ
プログラムをオフにし、スポーツモード
またはトラックモードを選択すると、
エンジンやトランスマッisionのス
ポーツ機能は維持されますが、パワー
によるホイールスリップの介入はあ
りません。アンチロックブレーキシス
テムとハイドロリックブレーキアシス
トは、どのモードを選択しても保持さ
れます。

エレクトロニック・スタビリティ・コントロ
ールの詳細については、196ページを参
照してください。

ブレーキシステム

フットブレーキ

ベンチレーテッドディスクブレーキは、4輪すべてに装備されています。これらは、独立して動作する2つの油圧ブレーキ回路によって作動します。片方のブレーキ回路が故障しても、もう片方は作動しますが、ブレーキ性能は低下し、車両の停止距離が長くなります。

(①) エンジン始動時の短時間以外でのアラーム記号がドライバーズディスプレイに表示された場合は、ブレーキシステムの故障またはブレーキフルードのレベル低下が検出されたということです。また、基本的な故障の説明メッセージも表示されます。

車両のブレーキ性能が低下していると思われる場合、またはドライバーディスプレイにアラーム記号やメッセージが表示された場合は、直ちにロータス正規ディーラーにご連絡ください。

⚠ アラーム: 上記の指示に従わないと、事故につながる可能性があります。

ブレーキは、エンジンが稼働している時のみ発生する真空圧でアシストされています。エンジン停止中にブレーキペダルを踏み込んだり、真空圧によるアシストが働かない場合、ブレーキペダルが硬く感じられ、車両を停止させるために大きな力を必要とします。

⚠ アラーム: エンジンが作動していない、またはスイッチがオフになっている場合は、車両を減速するためにブレーキペダルに大きな圧力がかかり、停止距離が長くなるため、車両を運転しないでください。

浅瀬や水浸しの路面を走行した後、ブレーキが乾くまでブレーキ性能が低下することがあります。このような場合は、正常なブレーキ性能が回復するまで、安全が確認でき次第ブレーキをかけてください。

⚠ アラーム: 上記の指示に従わないと、事故につながる可能性があります。

始動と運転

ブレーキペダル

運転前には必ずブレーキペダルの動きを確認し、フロアマットなどに遮られていなことを確認してください。

⚠️ アラーム: ブレーキペダルに障害があると、停止距離が長くなる可能性があります。

ブレーキパッド

パッドの材質が硬いため、条件によってはブレーキノイズが発生することがあります。かかるノイズは有害なものではなく、ブレーキの寿命や効率に影響を与えるものではありません。ブレーキを頻繁に酷使した後は、車両を駐車する前にブレーキを冷却すると、ディスクとパッドの耐久性にとって有効です。

ブレーキを最大限に活用する前に、ブレーキパッドとディスクを完全に「寝かせる」ようにしてください。ブレーキが寝かされ、低温から通常の動作温度に温められるにつれて、ペダルの踏力が減少します。206ページも参照してください。

アンチロックブレーキシステム

アンチロック・ブレーキ・システム(ABS)により、ブレーキ時に車輪がロックするリスクを低減して車両の操縦を確保します。

ABSは滑りやすい路面や悪路でのブレーキング時に特に有効ですが、ABSが路面との摩擦レベルを上げることはなく、有効なグリップを最適に活用するのみであることを認識しておくことが大切です。

ロードホイールが一瞬ロックしたように見えることがあります。これは正常な状態です。

💡 注記: ABSは5 km/h以下の速度では機能しません。

ABSが起動すると、ブレーキペダルが「脈打つ」ように感じられ、コントロールソレノイドから「カチッ」という音がして、最大限のブレーキがかかり路面状況に合わせて運転方法を変更する必要があることを示しています。145ページの緊急ブレーキ・ライトに関する情報も参照してください。

⚠ アラーム: ABSが提供できる利点が、ドライバーの安全を脅かすようなリスクとなってはいけません。ABSは、急なハンドル操作や急なコーナリングによって引き起こされる横滑りを防ぐものではありません。ABSは、不適切な速度による事故のリスクを回避するものではありません。安全な速度を判断することは、常にドライバーの責任です。

⚠ アラーム: 路面や天候の状況に応じて、常に他の車両との安全な距離を保ってください。

砂利道や雪道などの路面では、ABS搭載の車両はより長い停止距離を必要とする場合があります。このような状況では、より長い追従距離を確保してください。

(ABS) ドライバーディスプレイの琥珀色のアラーム記号は、イグニッションスイッチをオンにした後に約3秒間点灯し、その後消灯します。記号が点灯したままの場合、または走行中に点灯した場合は、ABSの故障が検出され、作動していないことを示しています。

ブレーキシステムは正常に作動し続けますが、ABSが作動していないと、制動距離が長くなることがあります。車両は、適切な注意と予測を持って運転を続けることができますが、できるだけ早くロータスディーラーにご連絡ください。

ABSブレーキシステムは、その車両に推奨のタイヤとホイールサイズに合わせて調整されています。適切でないホイールやタイヤが装着されていると、ABSブレーキモジュールはセンサーからの正しい情報を得られず、ABS性能が低下する場合があります。

⚠ アラーム: この車両に推奨のタイヤのサイズと種類のみを適用してください。

ハイドロリック・ブレーキ・アシスト

ハイドロリック・ブレーキ・アシストは、ブレーキ反応とブレーキ圧の上昇を測定することで緊急事態を検知します。ブレーキ圧が不足した場合、HBAシステムは制動力を高め(ABSシステムが作動するまでの力まで)、できるだけ短い停止距離を確保します。

始動と運転

トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールは、後輪の過度なホイールスピンを検知して制御するシステムです。グリップが回復するまで、エンジン出力を低下させ、回転している車輪にブレーキをかけます。



後輪が過剰に回転しているときに、このインジケーター記号がドライバーディスプレイに点滅している場合は、トラクションコントロールの介入が行われているため、それに応じてドライビングスタイルを変更する必要があります。

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール

トラクション・コントロール・システムの一部として作動するエレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC)は、事故回避や誤った判断によるコーナリングなどの極端な操作の際に車両の安定性を高めますが、その際にエンジン出力が低下し、個々のホイールにブレーキがかかります。



運転中にこの記号が点滅している場合は、ESCが介入しており、車両の牽引力が限界に達したため、ドライビングスタイルを変更する必要があることを示しています。

ESCはドライバーのアシストを目的とした補足的な運転サポート機能ですが、あらゆる交通状況、天候、道路状況において完全に動作することを保証するものではありません。



アラーム: これらの安全装置を装着していても、危険な運転はせず、注意を怠らないようにしてください。ドライバーは常に、適切な道路速度条件を維持し、停止距離が長くなった場合に必要な許容範囲を確保している責任があります。



ESCシステムに故障が検出された場合、この記号が点灯し続け、ドライバーディスプレイにメッセージが表示されます。



ESCを手動でオフにすると、この記号がドライバーディスプレイに表示されます。200ページをご覧ください。詳細については、XXページをご覧ください。



アラーム: ロータスは、通常の状態で公道を運転する場合は、常にESCを起動しておくことを推奨します。

ドライブモード

スポーツモードとトラックモードを選択した場合、ESCの設定値が低下します。200ページをご覧ください。



電動パーキングブレーキ

電動パーキングブレーキは、後輪のブレーキをかけることで車両を保持し、静止させるものです。

パーキングブレーキのスイッチは、ステアリングコラムの外側にあります。

パーキングブレーキは、エンジン起動中、またはイグニッションモードIIのときに手動で起動/解除することができます。181ページをご覧ください。

! **注記:** パーキングブレーキをかけるとモーターの騒音が発生し、パーキングブレーキの自動機能確認中にも騒音が発生することがあります。

停車中にパーキングブレーキを起動すると、後輪にのみ制動力が働きます。走行中にパーキングブレーキを起動すると、油圧フットブレーキ回路により4輪に制動力がかかり、ほぼ停止した時点で後輪に伝達されます。

始動と運転

緊急ブレーキ

緊急時には、走行中にパーキングブレーキスイッチのレバーを引いて保持することで、パーキングブレーキを作動させることができます。レバーを離すか、アクセルペダルを踏み込むと、ブレーキが解除されます。

! **注記:** 高速走行中に電動パーキングブレーキが起動されると、アラーム音が鳴ります。

! **注意:** 通常のブレーキには電動パーキングブレーキを使用しないでください。車両を減速するのに電動パーキングブレーキを繰り返し使用すると、ブレーキシステムに深刻な損傷を与える可能性があります。



自動起動

パーキングブレーキは、以下の場合に自動的に起動します。

- 車両のスイッチがオフになり、パーキングブレーキの自動起動の設定が中央ディスプレイで選択される。128ページを参照してください。
- 急勾配の坂道でP-パークが選択されている場合(AT車のみ)。

パーキングブレーキの起動

- フットブレーキペダルを踏み込み、マニュアル車の場合はシフトレバーをニュートラルに、オートマチック車の場合はPが選択されていることを確認します。
- パーキングブレーキスイッチのレバーを手前に引いて離します。
- フットブレーキペダルを離し、車両が静止していることを確認します。

(P) パーキングブレーキを起動すると、ドライバーディスプレイにこの記号が点灯します。

記号が点滅する場合は故障が発生していますので、ドライバーディスプレイのメッセージを読んで下さい。



パーキングブレーキの解除

エンジン稼働の状態で、またはイグニッションモード II の時に：

- フットブレーキペダルを踏みます。
- パーキングブレーキスイッチのレバーを前に押して離します。

パーキングブレーキが解除され、ドライバーディスプレイの記号が消えます。

オートマチックの解除

オートマチックトランクミッション車：

- エンジン稼働の状態で、フットブレーキペダルを踏み込みます。
- ギア D-ドライブまたは R-リバースを選択します。
- フットブレーキペダルを離し、アクセルペダルを踏み込みます。

マニュアルトランクミッション車：

- エンジンを稼働させた状態で、クラッチペダルを踏み込みます。
- 適切なギアを選択します。
- クラッチペダルを離し、必要に応じてアクセルペダルを踏み込み、車両を動かします。

パーキングブレーキが解除され、ドライバーディスプレイの記号が消えます。

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシスト・システムは、坂道発進の際の思いがけない車両の動きにおけるリスク防止に役立ちます。

坂道で停止中、フットブレーキを離した後も2秒間、ヒルスタートアシスト・システムがブレーキをかけた状態で維持します。

2秒後、または車両が前方に加速し始めるとき同時に(いずれか早い方)、ブレーキは自動的に解除されます。

始動と運転

ドライブモード

パワートレイン、排気、スタビリティなどの特性を変更できる、様々なドライブモードが使えます。

 **注記:**ABS(アンチロック・ブレーキ)とHBA(ハイドロリック・ブレーキ・アシスト)は、どのモードを選択しても保持されます。詳細については194ページを参照してください。

 **注意:**「スポーツ」モードと「トラック」モードを使用する前に、206ページの「ならし運転」の項目を参照してください。

ツアーモード

(デフォルト設定、通常道路使用)

- 排気音、エンジン回転数範囲、操作性、ESC、パフォーマンスを最適化し、洗練されたドライビングを実現します。
- オートマチック車では、ギアシフトポイントを最適化して最適な燃費を実現します。
- ドライバーディスプレイ内の情報を「ツアーレイアウトで表示します。61ページを参照してください。

スポーツモード

(適切な道路コンディションの場合のみ)

- エンジン始動前にオプションを選択した場合、始動時のエンジンアイドル回転数は一時的に上昇し、その後、通常回転数に戻ります。
- ESCの設定値を下げることで、パワー誘導による車輪スリップの閾値を上げ、アンダーステア時のスロットル降下もありません。
- 排気音が高まり、エンジン回転数やスロットルペダルの位置に応じて徐々に大きくなります。
- スロットルペダルのレスポンスとエンジンの最高連続回転数が高まります。
- オートマチック車の場合、エンジンレスポンス向上のため、自動的にローギアが選択される場合があります。
- ドライバーディスプレイ内の情報を「スポーツ」レイアウトで表示します。61ページを参照してください。

トラックモード(装備の場合)

(ドライコンディションのサーキット使用のみ)

- 「スポーツ」モードから引き継がれた始動時のエンジンアイドル回転数。
- ESCの介入を減らし、トラクションとコーナー脱出の際の特性を最適化します。
- マニュアルトランスマッキン車の場合、エンジンが作動温度に達すると、エンジンアイドル回転数が上昇します。
- 「スポーツ」モード設定から引き継がれたスロットルレスポンスと最高連続回転数の特性。
- オートマチックトランスマッキン車では、性能を高めるために、ギアシフトポイントを最適化します。

 ドライバーディスプレイに ESC トラックステータス・インジケータの記号が点灯します。

 ドライバーディスプレイに ESC ステータス・インジケータの記号が点灯します。



注記: トラックモードを選択すると、スピードリミッターが作動している場合は自動的に解除されます。必要に応じ再度起動が必要です。トラックモードが起動されている場合、他のドライバーサポート機能も解除され、オプションによっては再起動できない場合があります。



注記: トラックモードは、車速が9km/h未満の時のみ起動します。203ページをご覧ください。

ESC「オフ」

(トラック使用のみ)

どのドライブモードでも選択可能です。選択したESC機能が解除された場合。



ドライバーディスプレイに ESC ステータス・インジケータの記号が点灯します。



アラーム: ロータスは、通常の状態で公道を運転する場合は、常に ESC を起動させておくことを推奨します。



注記: ドライバーディスプレイに表示される情報やレイアウトの位置は、選択されたドライブモードによって変わります。61ページをご覧ください。

始動と運転

デフォルトのドライブモード設定

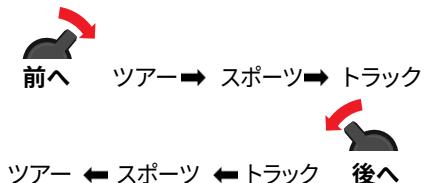
ドライブモードは、イグニッションモードII (アクティブ)、またはエンジンがオフの状態で設定できますが、エンジンを切ると自動的にツアーモードに切り替わります。



ドライブモードの変更

センターコンソールのドライブモードスイッチを前または後に動かして、現在選択中のドライブモードを変更します。

スイッチの動作



スイッチを1回動かすと、中央ディスプレイ内のポップアップ画面にアクティブドライブモードが表示されます。



必要に応じて、ドライブモードスイッチを再び前または後に動かして新しいモード設定に切り替えるか、中央ディスプレイのモードボタンを押します。

注記: 走行中にツアーモードからスポーツモードやトラックモードに切り替えると、スロットルペダルを踏み込みますに排気音が大きくなったり、ESCの機能が低下したりすることがあります。



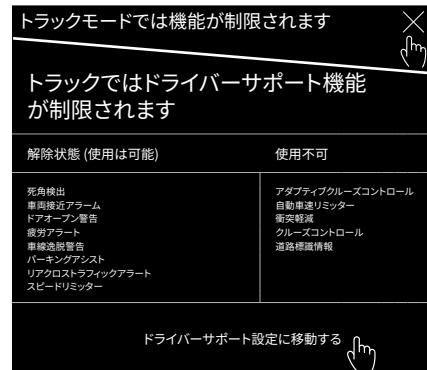
選択したモードの走行特性の説明に加え、パワートレイン、排気音、エレクトロニック・スタビリティ・コントロールの介入のレベルが、ディスプレイ下部に点灯するバーで表現されます。



トラックモード選択

選択時*、ディスプレイの右上にあるボタンをタップすると、トラックモード中に使用不可能または自動的に解除となるドライバーサポート機能に関する情報を示すメッセージが表示されます。

*装備の場合。



ディスプレイ右上にある「閉じる」ボタンをタップして、前の画面に戻ります。

「ドライバーサポート設定に移動」をタップして、車両設定メニュー内にドライバーサポートボタンを表示し、必要に応じて自動的に解除されたオプションを起動します。

始動と運転



ESC「オフ」選択

- ESCの「OFF」ボタンを2秒間長押しして起動します。



すべてのスタビリティレベルバーが消灯し、ESCが使用できることを示します (ABSとHBA機能を除く)。

- ドライバーディスプレイに ESCステータス・インジケータの記号が点灯します。

- 中央ディスプレイのESC「OFF」ボタンの下にある緑色のインジケータランプが消灯します。

ESCボタンを短く押すと、ESC機能が、選択したドライブモードに適したレベルに復帰し、ディスプレイの上部に「ドライバーサポート機能が復元されました」というメッセージが表示されます。

中央ディスプレイのESC「OFF」ボタンの下にある緑色の表示ランプが再点灯します。

アラーム: 運転中に ESC「OFF」を選択すると、ESC機能が直ちに低下し、車両が不安定になる可能性があります。このオプションは、安全な場合のみ選択してください。

アラーム: ロータスは、通常の状態で公道を運転する場合は、常に ESCを起動させておくことを推奨します。

ならし運転

ならし運転

ならし運転

車両の使用開始当初や記載のコンポーネントを交換した場合は、次のようなならし運転を行って様子を見ることが重要です。

エンジン

- 最初の 1600 km は、適度なスロットル開度 (アクセルペダル操作量の約半分) で走行し、4,000rpmを超えるエンジン回転数での連続運転は避けてください。
- 最初の1600kmは「ツアーモード」のみを使用してください。「スポーツ」や「トラック」モードは使用しないでください。
- 8速デュアルクラッチ・トランスミッションを装備したエミーラ4気筒モデルの場合、1600 kmを超えるまではロータス・ローンチコントロールを使用しないでください。
- オートマチックトランスミッション車では、キックダウンの使用は避けてください。
- 時折、スロットルを開けてエンジン回転数を上げるとよいでしょう。また、クルージング速度を常に変化させ、ギアボックスをフルに活用することも大切です。
- エンジンに負担をかけないようにし、エンジン回転数を下げ、エンジン本来のパワーバンドで運転させます。

- 1600km走行後は、フルスロットルや最大エンジン回転数での走行が可能です*。

* サーキットでの使用については、267ページをご参照ください。

ブレーキ

最初の100マイルまたは160kmは不必要な急ブレーキを避け、ブレーキを慣らしてください。その後、初めてブレーキを強く踏み込むと、ブレーキパッドが最終調整段階に入るため、ブレーキの感触が若干低下することがあります。ブレーキが冷えると、ブレーキ性能は完全に回復します。

タイヤ

新しいタイヤは、最適なグリップを発揮するまでに短い「ならし運転」を必要とします。

エンジンを停止する

可能であれば、高速または高負荷走行後、エンジンのスイッチを切る前に数分間エンジンをアイドリングさせてください。これにより、エンジン/フルードの温度が正常に戻ります。これはパワートレインの長期的な耐久性にも貢献します。



注記:ならし運転の推奨事項に従わない場合、車両保証の条件が無効になることがあります。

また、18ページの「エンジンデータの記録」もご覧ください。

燃料給油と燃料



フューエルフィラーキャップ

フューエルフィラーキャップは、右側リアウイングパネルの上部にあります。21ページを参照してください。

開ける

車両のロックを解除した状態でのみ開けることができます。キャップ後部を押して離すと開きます。

閉じる

キャップをゆっくりと押し下げ、離すと閉じます。



燃料給油

エミーラは、フューエルフィラー・チューブのネック部分にスプリング式のフラップとシールをあしらい、燃料や揮発ガスが外に漏れないようにするキャップレス燃料システムを採用しています。

ガソリンスタンドの使用

- エンジンのスイッチを切った状態で、ポンプノズルをネックに完全に挿入し、両方のバネ式フラップを開かせます。
- 必ず適切なグレードの燃料を選択し、(209ページを参照)、必要な量、もしくは、自動停止機能が働くまで充填します。

⚠ アラーム: 再充填する前に、エンジンのスイッチを切ってください。

⚠ アラーム: 給油の際は、給油所に表示されている操作上および安全上の指示をすべて守ってください。

⚠ アラーム: ガソリンやガソリンの煙には高い爆発性があります。燃料を扱うときは、やけどや大けがをすることがあります。

⚠ アラーム: 再給油の前に、携帯電話やその他の電子機器の電源を切り、すべてのタバコの火を消して、裸炎やその他の潜在的な発火源が存在しないことを確認してください。

⚠ 注意: 温度変化による燃料の膨張で燃料タンクブリーザシステムのチャコールキャニスターの浸水や燃料の流出を引き起こす可能性がありますので、フィラーネックの最上部まで充填しないでください。

燃料レベルの表示と燃料タンク容量の詳細については、67ページと271ページを参照してください。

燃料缶の使用

燃料缶の多くに装着の波型のフレキシブル燃料チューブは、フューエルフィラーチューブ内のバネ式フランプやシールを損傷させる可能性があります。

給油前に、キャップなしの給油ファンネルをフューエルフィラーチューブ(両方のバネ式フランプを押し開くように設計されています)に挿入して使用するようお勧めします。

適切なキャップなしの給油ファンネルは、ほとんどの自動車部品店で購入できます。

燃料要件

燃料はオクタン価95RON以上の高品質なUNLEADEDを使用してください。



E10

ロータスでは、入手可能な限り97RONの無鉛燃料を使用することをお勧めします。



E5

使用するE5またはE10ガソリンは、EN228規格に適合していかなければなりません。

優れた性能と排出ガス規制のために、適切な添加剤を含む良質な燃料を使用するよう推奨します。車両は、排気ガス中の有害物質を低減し排出ガス規制を遵守するために、排気系に触媒コンバーターを搭載しています。

! **注意:**燃料は必ず無鉛燃料を使用してください。有鉛燃料やLRPを満タンに1回でも使用すると、触媒コンバーターの効果は減少します。

ディーゼル

ロータスの車はディーゼル燃料では運転できません。



注記:再給油の前に、必ず給油所の正しい燃料ノズルが選択されていることを確認してください。燃料システムの排出と洗浄にかかる費用は、車両保証の対象外となります。

車両の管理

アクセサリーと改造

ロータスの正規ディーラーでは、ロータスが設計・承認し、ロータスの保証の対象となるアクセサリーを提供しています。ロータスが承認していないアクセサリーをロータス車に装着しても、ロータスの仕様に適合しない場合があり、車両の安全性や操作性、安定性に悪影響を与える可能性があります。

改造は車両を危険にさらす可能性があります。改造やアクセサリーの装着を行う前に、ロータスの正規ディーラーにご相談ください。

⚠ アラーム: ロータスが認定していないアクセサリーを装着したり、承認していない改造を行うと、車両の性能や乗員の安全性に影響を与える可能性があります。

⚠ アラーム: ロータスが認定していないアクセサリーを装着したり、承認していない改造が原因で起こった死亡事故や人身傷害または損害については、ロータスでは責任を負いません。

車両の格納

フルード

エンジンオイル、フィルター、冷却水、ブレーキフルードがすべて最新のものであることを確認してください。

バッテリー

バッテリーを車両に残したまま、バッテリーマネジメント（コンディショナー）タイプの充電器を接続する、もしくは、バッテリーを取り外して2ヶ月に1度トリクル充電します。バッテリーを切断、または取り外すと、アラームシステムは解除されますのでご注意ください。

車体の手入れ

車両の内外を徹底的に清掃し、完全に乾燥させます。必要に応じて、圧力洗浄機を使って底部の汚れや塩分を除去してください。圧力洗浄機の詳細については、262ページを参照してください。

タイヤ

タイヤ空気圧を3~3.5barに上げ、リマインダーとしてこれをウインドシールドに貼付してください。できれば、タイヤのフラット部分を避けるために毎月車両を少しづつ動かすとよいでしょう。

ブレーキ

車輪をチョックで固定し、パーキングブレーキを外したままにします。

インテリアトリム

車庫に除湿機が設置されていない場合、湿度の高い環境やレザーシート仕様の車には、キャビン内に乾燥剤（シリカゲル）を使うことをお勧めします。

エアコン

格納前

エアコンは正常に作動し、完全に充電されている必要があります。

格納後

最初のエンジン始動

車両を格納していた場合（または、6ヶ月以上エンジンを始動していなかった場合）、エンジン始動後2分間は、エアコンのスイッチを入れ、エンジン回転数（revs）を2,000 rpmに制限してください。

車両の管理

これにより、冷媒ガスとオイルがエアコンシステムを完全に循環し、空調ポンプの潜在的な損傷や早期摩耗を防ぎます。

 **注記:**長期間の格納や運転しなかつた状態後にエンジンを始動し、エンジン回転数が過剰となったために冷媒オイルの循環が不十分となったことが原因として証明されたエアコンの故障/損傷は、新車保証の対象外となります。

車両カバー

ロータス純正以外の車両カバーを使用すると、充電時にバッテリーが十分に冷えないばかりでなく、塗装の仕上がりも損なわれてしまうことがあります。ロータス認定のカバーを取り付ける前に、洗車してきれいにし、完全に乾いていることを確認してください。

オーナーのメンテナンス

この章に詳述の簡単な整備点検を行い（走行距離が長い場合やツーリングの場合は毎日）、またお使いのロータス正規ディーラーにて定期点検を受けることで、車両の安全性、信頼性、寿命を最大限に確保してください。

整備点検のスケジュールは、指定された期日と走行距離間隔に従って行うことが重要です（別冊のブックレットを参照してください）。

! **注記:** 整備スケジュールに従わない場合、車両保証の条件が無効になる可能性があります。

フルードレベルの著しい低下や突然の低下、タイヤの偏摩耗に気づいた場合は、直ちにロータスの正規ディーラーまでご連絡ください。

! **アラーム:** 正しい措置を講じないと、車両に損傷を与え、事故につながり、重傷または死亡につながる可能性があります。

トラック走行

トラック走行の場合、整備点検のスケジュールで指定された以上の適切な安全レベルを維持するために、資格を持った専門家による適切なドライバートレーニングと車両の準備が必要です。また、走行前後に、安全性の上で重要なコンポーネントを入念に点検するなどの注意も必要です。



注記: トラック走行や競技での車両走行は、通常の路上走行に比べコンポーネントの摩耗や損傷が激しくなります。

一般的安全性

お客様の保護安全のため、整備点検を行う前に以下の注意事項をお読みになり、これに従ってください。

- 車両の修理は、適切な資格を持つ技術者のみが行ってください。
- 車両が運転されてすぐの場合は、車両が冷却されるまで冷却システムのコンポーネントに触れないでください。
- スーパーチャージャー・ケーシングを含む、エンジンベイ内およびその周辺の高温表面に注意してください。高温のエンジン部品に触れると、大やけどをする恐れがあります。
- 駆動ベルト、ブーリ、ファンからは、衣服、手、髪、その他の身体の部位、服装のルースな部分、工具を遠ざけてください。ファンの中には、モーターがオフになった後も継続運転したり、運転を開始するものもあります。
- このイグニッションシステムで発生する電圧は、重傷や致命的な怪我を引き起こす原因ともなりかねません。
- エンジン始動中やまたはクランクされているときは、いかなるイグニッションコンポーネントにも触れてはいけません。

車両の管理

- オートマチックトランスマッisionのギアが選択されている時は、絶対にエンジンルーム内で作業しないでください。
- 工具や車両の金属部分を、バッテリーのリード線や端子に接触させてはいけません。
- 車両に使用しているフルード(バッテリー液、冷却水、ブレーキ液、ウインドウォッシャー添加剤など)の中には有毒なものもあります。吸い込んだり、飲み込んだり、傷口などに触れないようにご注意ください。安全のために、フルード(液剤)の容器に印刷された説明書を必ずお読みになり、それに従ってください。

⚠ アラーム: これらの注意事項に従わないと、重症を負ったり死亡の原因になることがあります。

⚠ 注意: これらの注意事項に従わないと、車両や資産に損傷を与える原因になることがあります。

整備点検の通知



次の保守を 予約する時期 になりました

前回の点検からの走行距離と期間に基づいて、エンジンをかけるたびにドライバーディスプレイにこの記号とメッセージが表示されます。

これは、まもなく次の整備点検サービスが必要であることをお知らせするものです。点検時期が近づくにつれ、表示のメッセージが変化します。

このメッセージが最初に表示された時点でロータスの正規ディーラーに連絡し、必要な整備点検を手配してください。

メッセージの削除

メッセージは、ステアリングホイールの右側キーパッドの確定ボタンを押すと、画面から消えます。66ページを参照してください。

点検通知のリセット

- 車両をイグニッションモードI(コンビニエンス)に設定します。
- ライトのスイッチ端にあるリセットボタンを長押しします。144ページを参照してください。
- リセットボタンが押されたまま、エンジンを起動します。181ページを参照してください。
- リセットボタンを長押ししたままで10秒後、記号が点滅します。
- 記号が点滅し始めてから4秒以内にリセットボタンを放します。

⚠ 注意: この通知は、ロータスが推奨する整備点検のスケジュールに従って車両が整備されていない限り、リセットされることはありません。

日々の確認

以下の機能を確認してください。

- エクステリアライト。
 - ホーン。
 - 方向指示器。
 - ウィンドシールドワイパー。
 - ウィンドシールドウォッシャー。
 - シートベルト。
 - パーキングブレーキを含むブレーキシステム。
 - パークアシストシステム
- また、以下も確認してください。
- インストルメントパネルに表示されるアラームランプやアラームメッセージ。
 - 車体下部に水滴の付着があるかどうか。これが見られると水漏れの可能性がある（エアコンシステムの結露による水滴は正常）。
 - 車両外観を点検し、腐食性物質がついていればこれを直ちに取り除いて塗装の損傷を防ぐ（261ページを参照）。

定期点検

以下の項目を定期的に点検し、必要に応じて補充・調整してください。

- エンジンオイル。
 - 冷却水レベル。
 - ブレーキフルードレベル。
 - ウィンドウォッシャー液のレベル。
- また、以下も確認してください。
- タイヤの空気圧とコンディション。
 - エアコンの操作具合。
 - ワイパーブレード。
 - パークアシストシステムセンサーとカメラの汚れ、雪、氷など。

冬季、ぬかるみなど

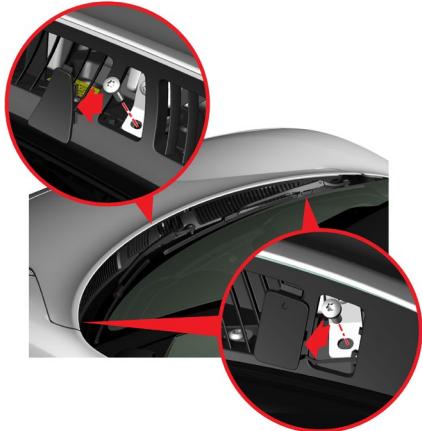
ホイールリム、目視確認可能なブレーキ部品、ホイールアーチライナー、通気口に泥や雪が付着していないこと。



注意:これらの部分に泥や雪が過度に堆積すると、車両の機能が低下する恐れがあります。



注記:走行距離の多い車や過酷な走行条件の場合は、これらの項目をより頻繁にチェックしてください。



フロントアクセスパネル ロック解除 / 開ける

- ウィンドシールド下部のトリムパネルから、フロントアクセスパネル固定ネジを覆う3枚のカバーパネルをはずします。
- 車載工具セットに含まれるトルクスドライバーを使って、3つの固定ネジを緩めて取り外します。
- ネジは、再装着するので安全な場所に保管してください。



- アクセスパネルのリア部を完全持ち上げます(パネルトラベルを伸ばし過ぎないこと)。
- ヒーターボックスの筐体パネル前面にあるホルダーから、アクセスパネル用ステー(支柱)を引き抜きます。
- ステーの端をアクセスパネル下側の溝付きのプレートにはめ込みます。

閉める/ロックする

- アクセスパネルを少し持ち上げて、ステーの先端を溝付きプレートから外します。
- ステーをホルダーに収めます。
- 指を挟まないように、また障害物がないことを確認しながら、アクセスパネルを下げ、固定用ブラケットの穴をボディパネルのネジ山に合わせます。
- 3つの固定ネジを、手で締められるまでしっかりと締め付けます。
- 車載工具キット付属のトルクスドライバーで、3本のネジを10Nmで締め付けます。
- プラスチックカバーをウインドシールド下部パネルの所定の位置にはめ込みます。



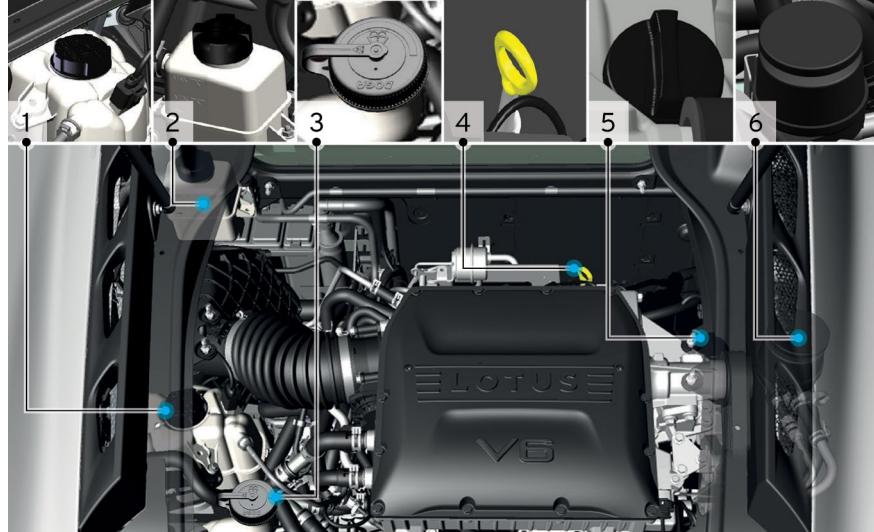
アラーム: フロントアクセスパネルが動いたり、不安定になるリスクを防ぐために、フロントアクセスパネルの3つの固定ネジがすべて正しく取り付けられ、このハンドブックの記載の通りに締結されていない限りは、車両を運転してはいけません。

!**注意:** この手順に従わないと、車両が損傷する可能性があります。

フロントアクセスパネルは、車両の整備を行うためのものであり、格納用ではありません。

!**注意:** どんなに小さなものでも、フロントサービスコンパートメント内に収納しようとすると、サービスコンパートメント内の部品やボディパネルに損傷を与える可能性があります。これにより生じた損害は、車両保証の対象外となります。

エンジンルーム エミーラ V6



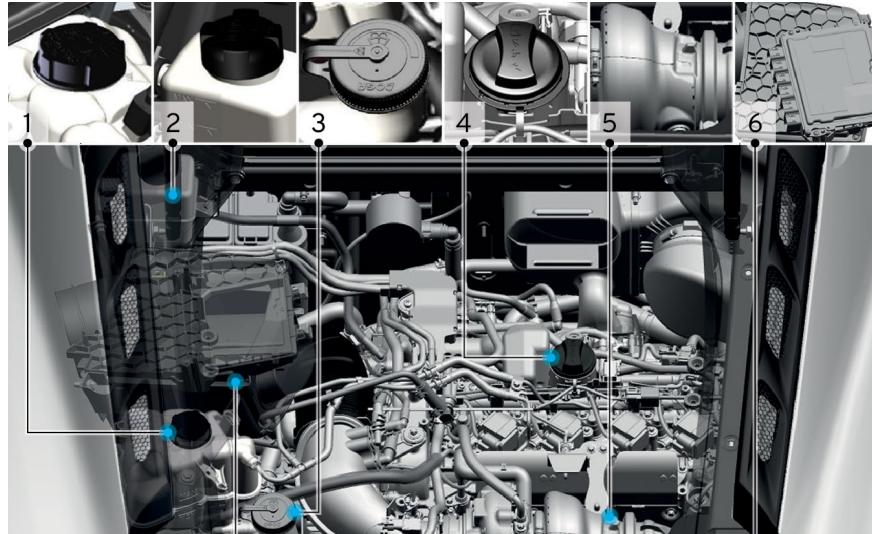
概要

よく見えるようにエンジンルームのカバーを取り外しています。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 エンジン冷却水膨張タンク。 | 4 エンジンオイルのディップスティック。 |
| 2 チャージクーラーの冷却水膨張タンク。 | 5 エンジンオイルフィラーキャップ。 |
| 3 ウォッシャー液のリザーバー。 | 6 パワーステアリングフルードのリザーバー。 |

車両の管理

エンジンルームエミーラ4気筒



注意:エンジンルームの清掃にジェット洗浄機を使用したり、ジェット・ノズルやホースを吹き出し口に直接当てるしないでください。繊細なエンジン部品に損傷を与え、エンジンが故障する恐れがあります。この場合、車両保証の対象外となります。

概要

よく見えるようにエンジンルームのカバーを取り外しています。

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1 エンジン冷却水膨張タンク。 | 4 エンジンオイルフィラーキャップ。 |
| 2 チャージクーラーの冷却水膨張タンク。 | 5 ターボチャージャー。 |
| 3 ウオッシャー液のリザーバー。 | 6 エアフィルターとエンジンコントロールユニット。 |

エンジンルームのパネル

エミーラ4気筒およびエミーラV6モデルでは、エンジンオイルとウォッシャー液量の確認の際は、エンジンカバーパネルを取り外す必要はありません。223ページと221ページを参照してください。

エンジンルームのパネルを取り外す前に、必ずエンジンを切ってください。エンジンがかかるている間は、絶対にエンジンルームパネルを取り外してはいけません。

⚠ アラーム: この指示に従わないと、重傷または死亡につながる可能性があります。

エンジンパネルの取り外し - エミーラ V6

テールゲートを持ち上げます。50ページを参照してください。

1. 軽い力でフロントパネルの内側を持ち上げて、下側の固定具を車体側から外します。
2. フロントパネルをリア方向に引いて、バルクヘッドパネルから前方の固定具を外し、フロントパネルを取り外します。



! 注記: パネルが誤って破損するのを防ぐため、固定金具を下向きにして安全な場所に置いてください。

パネルを取り外したときと逆の手順で取り付けてください。

テールゲートを閉める前に、エンジンルームのすべてのパネルが正しく取り付けられ、固定されていることを確認します。

また、テールゲートが正しく閉まらないような障害物がないこと、エンジンルームに手袋、工具、布切れなどの物が残されていないことを確認してください。

⚠ アラーム: これらの指示に従わないと、火災や人身事故につながる可能性があります。

車両の管理

エンジンパネルの取り外し - エミーラ4気筒
テールゲートを持ち上げます。50ページを
参照してください。

1. 軽く手で押さえ、パネル後部を持ち上げます。
2. パネル裏側の固定具が車体から外れます。
3. パネルを後方に引いて取り外し、前方の固定具をバルクヘッドパネルから外します。

注記: パネルが誤って破損するのを防ぐため、固定金具を下向きにして安全な場所に置いてください。

パネルを取り外したときと逆の手順で取り付けてください。

パネル裏面の固定具が正しく取り付けられると、車体側の位置決めポイントに確実にかみ合ったように感じられるはずです。



テールゲートを閉める前に、エンジンルームのすべてのパネルが正しく取り付けられ、固定されていることを確認します。

また、テールゲートが正しく閉まらないような障害物がないこと、エンジンルームに手袋、工具、布切れなどの物が残されていないことを確認してください。

アラーム: これらの指示に従わないと、火災や人身事故につながる可能性があります。

エンジンオイルのレベル点検

エンジンオイルのレベルは定期的に点検する必要があります。例えば、1000マイル(1,600 km)走行毎、あるいは過酷な条件下で走行した場合はそれ以前に点検してください。267ページをご覧ください。

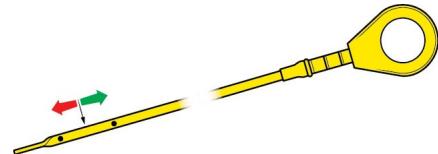
エンジンオイルのレベルを点検する前に、車両が平な場所に駐車されていることを確認します。またV6モデルの場合、エンジンがまだ熱いときはスイッチを切ってから最低15分間は待ってください。



エンジンオイルのレベルチェック - エミーラ V6

- テールゲートを持ち上げます。50ページを参照してください。
- フロントエンジンルームのパネル右側にあるディップスティックアクセスパネルの固定クリップを外します。
- パネルを持ち上げ、エンジンルームから取り外します。
- ディップスティックのハンドルは黄色です。エンジンが熱いうちにディップスティックを扱う必要のある場合は、エンジンルーム内の高温表面に注意し、火傷をしないように適切な防護用具を着用してください。
- ディップスティックを取り出し、ペーパータオルで拭き取ります。
- ディップスティックをディップスティックチューブに差し込みます。

- ディップスティックを再度取り出して、オイルのレベルを点検します。



オイルのレベルは、ディップスティック下端の2点間になければなりません。

エンジンを最適に保護するためには、オイルレベルは上限点に近い方で維持し、2点間の真ん中以下にならないようにしてください。

トラック走行など、通常の路上使用よりも過酷な運転条件のために車両に高い動的負荷がかかる場合は、まず、オイルレベルが最大充填レベルポイント(ディップスティックの上の点)にあることを確認してください。

ディップスティックの上限点と下限点の差は、オイル約 1.5 リットルに相当します。

車両の管理

エンジンオイルのレベルチェック-エミーラ4気筒

エミーラ4気筒には外付のディップスティックは装備されていません。

オイルレベルの確認:

- エンジンを通常の走行温度にします。
- 平らな場所に駐車します。
- エンジンを30秒間アイドリングさせます。
- ドライバーディスプレイで車両ヘルスウェイジエットを選択します。75ページをご覧ください。

オイルレベルの状態を示す  の記号が表示されます。また、エンジンオイルの容量と処置が必要な場合はそのことを示すメッセージも表示されます。

 **注記:** オイル液面レベルの測定には、通常の運転スタイルで走行した場合は30分、アクティブな運転スタイルで走行した場合はそれ以上かかることがあります。

レベル状況



エラー



測定待ち。



高

メッセージ

測定結果なし。



OK

レベル6.5リットル以上。
0.5リットルを排出して再点検。



OK

レベル6.0～6.5リットル。
オイルレベル良好。



低

レベル5.0～4.5リットル。
1リットル追加して再点検。



低

レベル4.5リットル未満。
エンジン始動前に最低1リットル追加。

 **注意:** トラックでの走行条件下でエンジンを保護するには、エンジンオイルのレベルが「OK」であり、オイル容量が6リッター以上であり、「オイルレベル良好」のメッセージが表示されていなければなりません。

エンジンオイルの補充 エミーラV6とエミーラ4気筒

- フロントエンジンルームパネルを取り外します。219または220ページを参照して下さい。
- オイルフィラーキャップを反時計回りに回して外し、217ページの第5項または218ページの第4項を参照に、推奨のエンジンオイル（「推奨の潤滑油」の項を参照）を適量充填してください。エンジンや電気系コンポーネントにオイルをこぼさないようにご注意ください。
- エミーラV6のみ：オイルがオイルサンプルに排出されるまで数分間待ちます。フィラーキャップを再び取り付け、時計回りにしっかりと回します。その後、エミーラV6のオイルレベル点検手順に従ってください。
- エミーラ4気筒のみ：フィラーキャップを再びはめ、エンジンを起動し少しの間稼働させた後、エミーラのオイルレベル点検手順に従ってください。

⚠ アラーム: エンジンオイルは健康に有害であり、飲み込むと命に関わることがあります。

⚠ アラーム: 使用済みエンジンオイルに長時間、繰り返し接触すると、皮膚炎や癌などの重篤な皮膚障害を引き起こす可能性があります。

⚠ アラーム: 保護手袋を使用して皮膚との接触の可能性を避け、接触した場合は皮膚を十分に洗ってください。

⚠ アラーム: エンジンオイルは子供の手の届かない場所に保管してください。



ウインドウォッシャー・リザーバー

ウインドウォッシャー・リザーバーの黒いフィラーキャップは、エンジンルームの左側にあります。

液の充填

1. テールゲートを持ち上げます。50ページを参照してください。
2. フィラーキャップを反時計回りに回して外し、開きます。
3. リザーバーにきれいな水と良質のウインドウォッシャー液（「テクニカルデータ」の項を参照）を、液面がフィラーネックのすぐ下に見えるようになるまで補充してください。
4. こぼれた場合は直ちに拭き取り、ついた部分を水で洗い流してください。
5. フィラーキャップをリザーバーに時計回りにねじ込み、固定します。

車両の管理

⚠ アラーム: ウィンドウォッシャー液は、皮膚や目に刺激を与える場合があります。ウィンドウォッシャー液のメーカーによる指示または警告を読み、これに従ってください。

⚠ アラーム: 濃度が不十分な場合、ポンプ、リザーバーおよびホース内で液剤が凍結することがありますので、良質の製品を使用し、メーカーの推奨に従って混合してください。



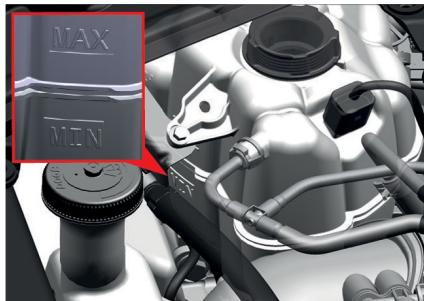
ワイパーべレードの取替え

1. ワイパーームを外側に折りたたみます。
2. ワイパーべレード取り付けボタンを押します。
3. ワイパーべレードをワイパーームから引き抜きます。
4. 「カチッ」と音がするまで新しいワイパーべレードを差し込みます。
5. ベレードがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
6. ワイパーームをウインドシールドに戻します。

⚠ アラーム: ワイパーべレードの交換は、車両のイグニッションが無効(0)もしくはコンビニエンスマード(1)で、車両が静止しているときのみに行ってください。詳しくは 181 ページをご覧ください。

⚠ 注意: ワイパーべレードが装着されていない場合は、ワイパーームを折り返さないでください。これにより、ウインドシールドを損傷するおそれがあります。

! **注記:** 運転席と助手席のワイパーべレードのサイズは異なります。



エンジン冷却水

エンジン冷却水のレベルを点検するには、まずはエンジンルームのトパネルを取り外します。219ページまたは220ページを参照してください。

エンジン冷却システムの膨張タンクは、エンジンルーム左側にあり、黒いフィラーキャップが目印です。

通常であれば、冷却水を追加する必要はないはずです。

エンジンが完全に「冷えた」状態で、車両を完全に平らな場所に停止させ、圧力キヤップを外さずに、膨張タンク内のクーラントレベルが「MIN」マークより上にあることを確認してください。

液の充填

冷却水が完全に冷えていることを確認してから、フィラーキャップを反時計回りにゆっくり回し、残っている圧力をすべてリースさせながら、最後にキャップを取り外します。

⚠ アラーム: エンジンが熱いうちに膨張タンクから圧力キヤップを取り外そうとしないでください。熱湯や蒸気で深刻な火傷を負う危険があります。

⚠ アラーム: 冷却水は健康や動物に有害であり、飲み込むと命に関わる可能性があります。

⚠ アラーム: 冷却水は子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ アラーム: こぼれた冷却水はきれいに拭き取り、容器は開けたまま放置しないでください。

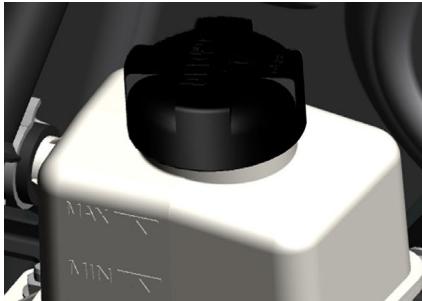
膨張タンクの「MIN」マークまで水を入れ、キャップを取り付け、時計回りに、キャップ上のタブが戻り止めに嵌合してカチッという音が聞こえるまで回します。

! **注記:** 凍結による損傷や金属の腐食を防ぐために、承認済みの混合冷却水のみを使用してください(仕様については「推奨の潤滑油」の章を参照)。

! **注意:** 本ハンドブックの「推奨の潤滑油」の項で指定されている冷却水の種類と他の種類の冷却水を混ぜてはいけません。さもないと冷却システムの劣化を招く恐れがあります。

車両の管理

!
注意:不適切な冷却水混合液を使用すると、オーバーヒート、凍結、腐食作用により、エンジンや他のコンポーネントに多大な損傷を与える結果となる場合があります。このような損害は、車両保証の対象外です。



チャージクーラー膨張タンク

チャージクーラーシステム冷却回路では、エンジンルームの前方左側に冷却水リザーバーが取り付けられています。217ページ、または218ページの第2項目をご覧ください。

通常であれば、クーラントを追加する必要はないはずです。

この作業は、推奨の整備点検スケジュールの一環として、ロータスの正規ディーラーのみが行うことをお勧めします。



ステアリングフルードリザーバーエミーラ V6

パワーアシスト・ステアリングフルードリザーバーは、エンジンルームの右側隅にあります。217ページの第6項目を参照してください。

通常の状況では、フルードを追加する必要はないはずです。

フルードレベルの点検には、右側リアホールラッチの取り外しが必要なため、この作業は推奨の整備点検スケジュールの一環として、ロータスの正規ディーラーのみが行うことをお勧めします。



ステアリングフルードリザーバー エミーラ4気筒

パワーアシストフルードリザーバーは、フロントのアクセスエリアにあります。216ページを参照してください。

通常の状況では、フルードを追加する必要はないはずです。

フルードレベルの点検には、エインレットパネルの取り外しが必要なため、この作業は、推奨の整備点検スケジュールの一環として、ロータスの正規ディーラーのみが行うことをお勧めします。



ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検
 ① ブレーキフルードの液面が下がると、ドライバーディスプレイの画面にアラーム記号とメッセージが表示されます。

運転中にこの記号が点灯した場合は、マスターシリンダーリザーバー内のブレーキフルードのレベルが危険なほど低下していることを示していますので、直ちに車を停めてください。故障が特定され、修理されるまで、車両を運転しないでください。

ロータスの正規ディーラーでは、定期点検時にブレーキフルードレベルを点検し、ブレーキフルードを交換します。

フルードレベルを自分で点検するには、車両が平らな場所に駐車されていることを確認してください。

1. フロントアクセスパネルを開きます。216ページを参照してください。
2. ブレーキフルードリザーバーパネル(車両の運転席側にある)を固定している5つの固定具を取り外し、パネルを外します。
3. リザーバーのキャップを取り外さずに、フルードレベルがリザーバー本体の「MAX」と「MIN」マークの間にあることを確認します。

注記:ブレーキフルードレベルは、ブレーキパッドの磨耗に伴い「MAX」記号から徐々に低下しますが、「MIN」以下になつたら、即座に最寄りのロータス・ディーラーに連絡し検査を受けてください。

アラーム: ブレーキペダルの動きが大きくなったり、ブレーキフルードが著しく減少した場合は、直ちにロータス・ディーラーにご連絡ください。このような状態で運転すると、停止距離が長くなったり、完全にブレーキが効かなくなったりすることがあります。

車両の管理

液の充填

こちらの説明は参考とするだけであり、通常の状況下では定期的な「充填」は必要ありません。

1. リザーバーへの汚れの侵入を防ぐため、その周囲を清掃してください。
2. リザーバーキャップを反時計方向に回して外します。
3. 適切なブレーキフルードを使用して、リザーバーのブレーキフルードレベルを「MAX」まで充填します。269ページを参考に、入れ過ぎないように注意してください。
4. リザーバーキャップを、時計回りにしっかりと締め付けます。

⚠ アラーム: 密閉容器に入った新しいブレーキフルードのみを使用してください。長時間大気にさらされたフルード、または濡れている、汚れている、または汚染されている疑いのあるフルードは使用しないでください。入れすぎに注意してください。キャップをしっかりと元に戻してください。



アラーム: ブレーキフルードは健康に有害であり、飲み込むと命に関わる可能性があります。子どもの手の届かないところに保管してください。万が一飲み込んだ場合は、直ちに医師の診断を受けてください。



注意: ブレーキフルードがこぼれると、車の塗装や一部のプラスチック部品に深刻な損傷を与えることがあります。塗装面を汚染から守るために適切な予防措置をとり、万一こぼれた場合は拭かずに、すぐに水で十分に洗い流してください。

タイヤ

車両のホイールとタイヤのサイズはフロントとリアで異なっており、車軸間のホイールとタイヤの交換は許可されていません。



アラーム: この要件に従わないと、車の操縦に悪影響を及ぼし、事故につながる可能性があります。

タイヤ点検

タイヤは、切断、擦り切れ、膨張、その他の損傷の兆候がないか、トレッドの摩耗パターンにむらがないかを定期的に点検してください。トレッドの摩耗が不均一であると、サスペンション形状やダンパーについて、ロータス・ディーラーに相談する必要があるかもしれません。

タイヤの状態や整備性を評価する際、少しでも疑いがある場合、あるいはトレッド深度の法的限界に近づいているようであれば、タイヤの交換が必要です。



アラーム: 損傷、メンテナンス不良、または不適切に使用されたタイヤは危険であり、事故の原因となります。

摩耗インジケーター

トレッド溝の底には、タイヤ周囲に間隔をおいて摩耗指標が埋め込まれており、トレッドブロックの外側にある小さなポインターでわかります。タイヤは、この法的に定められた最低トレッド深度まで摩耗する前に交換する必要があります。

トレッド深度が浅い摩耗したタイヤは、湿った状態ではハイドロプレーン現象を起こす可能性が高いため、使用しないでください。



推奨のタイヤ空気圧

冷間時のタイヤ空気圧は、1週間ごと、あるいは 1,000 miles ごとに点検し、必要に応じて調整してください。

運転席側ドアに貼られたデカールには、純正タイヤの推奨空気圧が表示されています。このハンドブックの最後の「テクニカルデータ」の章に、推奨のタイヤ空気圧が記載されています。

低温でのタイヤ点検

タイヤ空気圧の点検・調整は、タイヤの温度が低いとき(3時間以上停車していたか、走行距離が1マイル以下)に行ってください。タイヤが通常の走行温度まで温まると、空気圧が上昇する可能性があるからです。

トラック走行のタイヤ空気圧

トラック走行の場合、タイヤ空気圧の点検と調整は、トラックを中速で3周ほど走行してタイヤが温まってから行う必要があります。

休息インターバルを取った後に空気圧を点検し、正しい空気圧に調整した後、前述の要領で再度ウォームアップし、トラック走行用に再設定してください。

トラック走行終了後、タイヤを十分に冷やしてから一般道での走行に適した空気圧に調整する必要があります。タイヤ空気圧の詳細については、「テクニカルデータ」の章を参照してください。

トラックや競技会で走行する車両は、タイヤの使用条件が厳しいため、特に注意が必要です。毎回、セッションの前後に必要な点検を行ってください。



注記: ロータスは、エミーラのそのような扱いを推奨していません。新車保証ブックレットの第2章「意図する目的」をご覧ください。

ミシュランパイロットスポーツカップ2のタイヤ

重要: 装備の場合、ミシュランパイロットスポーツカップ2は、気温7度以上のドライコンディションで使用した場合、抜群のグリップとトラクションを発揮します。トレッドプロファイルが低いため、濡れた路面ではアクアプレーニング現象のリスクが高く、寒冷地での走行ではグリップが低下することがあります。ドライバーは注意を払い、道路状況に応じたスタイルで運転する必要があります。

タイヤの空気圧の調整

注記: タイヤ空気圧の間違いを防ぐため、本項で前述したように、空気圧はタイヤが低温になってから点検してください。

1. ひとつのタイヤのバルブからダストキャップを外し、タイヤ空気圧ゲージをバルブにしっかりと押し付けます。
2. 運転席側のドアピラーに貼付の工場装着タイヤの推奨空気圧を示すステッカーを参照に、正しい空気圧までタイヤを膨ませる、または空気を抜いてください。
3. ダストキャップを装着します。
4. タイヤに切り傷、異物（パンクや漏れの原因となる釘など）、擦り傷、膨らみ、その他の損傷がないか、またトレッドの摩耗パターンにムラがないかどうかを確認します。
5. この手順をすべてのタイヤで繰り返します。
6. 237ページの「タイヤ空気圧監視システムの較正」をご覧ください。



アラーム: 過剰に膨らんだタイヤは、突然の衝撃で切断、パンク、破損する可能性が高くなります。

⚠ アラーム: 不適切な空気圧のタイヤや摩耗したタイヤは、濡れた路面ではアクアプレーン現象を起こすリスクがあります。

⚠ アラーム: 空気圧の足りないタイヤは過熱しやすく、破裂して重大な事故につながる原因となります。

! **注記:** タイヤのバルブのダストキャップは、バルブ内にゴミや湿気が入り込んで漏れるのを防ぐために必ず交換してください。

! **注記:** プラスチック製のダストキャップのみを取り付けてください。金属キャップを取り付けると、腐食の原因となり、ねじを外しにくくなったり、バルブの損傷を引き起こす可能性があります。

タイヤ交換

タイヤを交換する際は、必ず、本ハンドブックの「テクニカルデータ」の章に記載の推奨のタイヤのサイズと種類を適用してください。(275ページを参照) または、ロータスディーラーにて、現在のロータスの仕様と推奨事項をご確認ください。

⚠ アラーム: 不適切なタイヤを使用すると、車両の操縦性と安定性に影響を与える可能性があります。

! **注記:** トレッドパターンの中には左右非対称のものがあります。その場合はタイヤをホイールに正しく装着してください。タイヤ側壁の「内向き側」または「外向き側」の印を参照してください。また、トレッドパターンには方向性のあるものがあり、その場合、タイヤ側壁の印に通常の回転方向の矢印が含まれることがあります。

ウインタータイヤ

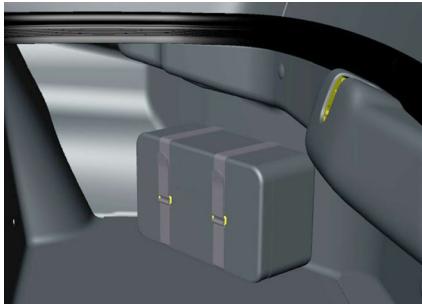
冬期や寒冷地での使用、雪道での走行には、そのような状況に合わせて開発された冬用のタイヤの装着をお勧めします。ロータスでは、「テクニカルデータ」の章で指定したサイズの冬用タイヤの使用を承認しています(275ページを参照)。

スノーチェーン

スノーチェーンは、冬用タイヤと組み合わせて後輪にのみ取り付けてください。チェーンに付属の説明書にある取り付けとテンションに従ってください。チェーンは、路面状況が許す限り、すぐに取り外してください。275ページをご覧ください。

! **注記:** スノーチェーンを装着して走行すると、車両の操縦性に悪影響を及ぼすことがあります。

! **注記:** 特定の市場では、スノーチェーンの使用が禁止されているところもあります。スノーチェーンを取り付ける前に、必ず地域の規制/法律を確認してください。



タイヤインフレーターキット

このキットには電動ポンプとタイヤシーラントボトルが同梱されており、リアトランクの右側にストラップで固定されています。タイヤのトレッドの軽い損傷は、タイヤリペアキットで修理することができます。

! **注記:** タイヤから異物を取り除かないでください。

! **注記:** 広範囲に渡るトレッドの損傷、タイヤ側壁やホイールの損傷は、修理キットでは修理できません。

! **注意:** タイヤを修理不能な状態とさせないために、できるかぎりタイヤの空気が抜けた状態での走行はお避けください。

! **注記:** エアゾールの使用は永久的な修理ではありませんが、最寄りのタイヤ店まで車を走らせるることは可能です。できるだけ早く、タイヤを修理または交換してください。それまでは、ステアリングやハンドリングに影響が出る可能性があるため、80km/hを超えない節度ある運転にとどめてください。

タイヤインフレーターキットの使用

1. 交通量の多い場所から離れ、平らで安定した場所に駐車してください。
2. ハザードランプをオンにし、必要に応じ後方の十分な距離にアラーム三角形を設置します。現地法令のいずれをも遵守してください。
3. 乗員は全員車から降り、対向車線から離れた安全な場所に移動してください。
4. 車両のハンドブレーキをかけ、ギアはファーストギアまたはリバースギア、あるいはP-パークに入れてください。
5. トランクからタイヤインフレーターキットボックスを取り出します。
6. キットボックスからコンプレッサーとシーラントボトルを取り外します。



7. コンプレッサー格納部から電気コネクタ/ケーブルを、タイヤシーラントボトルから透明のエアラインホースを取り出します。
8. キットに付属の保護手袋を着用してください。



9. タイヤのシーラントボトルをコンプレッサーのポートにしっかりと押し込みます。

10. コンプレッサーの ON-OFF ボタンが OFF に設定されていることを確認してください。



11. コンプレッサーをタイヤの近くに置き、シーラントボトルが直立していることを確認します。
12. パンクしたタイヤからバルブキャップを取り外します。
13. 透明なエアラインホースをタイヤバルブにねじ込みます。
14. コンプレッサー コネクタを 12V 補助電源ソケットに接続します。159 ページをご覧ください。

! **注記:** バッテリーの放電を防ぐために、エンジンをかけることをお勧めします。



15. ON-OFF ボタンを押して、コンプレッサーを起動します。

タイヤ空気圧が不適切
235 ページをご覧ください。

タイヤ空気圧が適切
タイヤが適正な空気圧に達したら：

16. ON-OFF ボタンでコンプレッサーのスイッチを切り、タイヤバルブからシーラントチューブを外し、シーラントキャニスターの側面からスピードステッカーを剥がして車内の見やすい場所に置きます。

車両の管理



17. 12V補助電源ソケットからコンプレッサーのコネクターを外し、コンプレッサー側面のボタンを押してタイヤシーラントボトルを取り外し、タイヤのバルブキャップを装着します。
18. コンプレッサーとタイヤシーラントボトルをキットボックスに戻し、トランク内の所定の位置にしっかりと固定します。
19. 運転は続けられますが、80km/hを超えないようにしてください。急加速や急ブレーキはかけないようにしてください。
20. 約5マイル(8km)走行したら、安全な場所に車を止め、ハンドブレーキを掛けください。



21. キットを取り出し、コンプレッサーの電気コネクタを車両の12V電源ソケットに再接続し、ON-OFFボタンがOFFに設定されていることを確認します。
22. 修理したタイヤバルブのキャップを外し、コンプレッサーのベース部分から黒いチューブを取り出して、チューブのコネクターをバルブにしっかりと締め付けます。
23. 圧力計でタイヤの空気圧が正しく表示されているか確認します。

空気圧が1.8 bar/26psi以上

24. ⏹ ON-OFFボタンでコンプレッサーのスイッチを入れ、適切な圧力までタイヤに空気を入れます。



25. 圧力計の上にある ⏹ボタンを押して、過剰なタイヤ空気圧を解放します。



26. 手順17~18に記載されているように、キットを取り外します。

27. 運転に注意し、できるだけ早くロータス・ディーラーまたはタイヤ専門店に車を持ち込んでください。

空気圧が1.8bar/26psi未満

タイヤの損傷が激しく修理ができません。16~18の手順でキットを外し、ロードサイドアシスタンスに連絡してください。

タイヤ空気圧が不適切

- コンプレッサーのスイッチを入れてから15分経っても、圧力計が1.8 bar/26 psi未満を示している場合は、 ON-OFFボタンでコンプレッサーのスイッチを切り、タイヤバルブからシーラントチューブを外し、タイヤのバルブキャップをはめ直します。
- タイヤが約5回転するように車を移動させ、シーラントがタイヤ内部に行き渡るようになります。
- 安全な場所に車両を止め、タイヤの空気圧が適正になるまで、233ページの手順10~15を繰り返します。
- 15分後にタイヤが正しい空気圧に達した場合は、233ページの手順16~27に従ってください。

コンプレッサーのスイッチを入れてから15分経っても圧力計が1.8 bar/26 psi未満を示す場合は、タイヤは修理不可能なほど損傷しています。233ページに記載の手順16~18に従ってキットを外し、ロードサイドアシスタンスに連絡してください。

 **注記:** タイヤシーラントのボトルには、使用期限が表示されています。表示されている日付以降のものは新しく交換する必要があります。

 **注記:** シーラントボトルの保管情報に注意してください。

 **注記:** 使用済みのタイヤシーラントボトルを交換する際は、必ず地域の法令を遵守してください。

 **注記:** コンプレッサーとシーラントは、約-40°C~+50°Cで使用可能です。



タイヤ空気圧監視システム

タイヤ空気圧監視システムにより、各ホイールのタイヤ空気圧は常に監視されています。メニューオプションで選択すると、その時の空気圧情報を計器パネルに表示することができます。82ページをご覧ください。

 **注記:** タイヤ空気圧監視システムは、適切なタイヤのメンテナンスの代用にはなりません。タイヤ空気圧が低すぎる場合のアラームランプが点灯しないといった場合でも、適切なタイヤ空気圧を確保することはドライバーの責任です。



④ タイヤ空気圧監視のアラーム記号は、1つまたは複数のタイヤの空気圧が著しく低下した場合に点灯し、ドライバーディスプレイの画面にアラームメッセージが表示されます。82ページを参照してください。

④ アラーム記号が点灯したら、できるだけ早く停車してタイヤを点検し、正しい空気圧とする必要があります。230ページをご覧ください。

⚠ アラーム: タイヤの空気圧が低い状態で運転すると、タイヤが過熱して故障の原因となるほか、車両の操縦性や制動性にも影響を及ぼすおそれがあります。

⚠ アラーム: また、空気圧が低いとタイヤのトレッドの寿命が短くなり、車の操縦や停止性能に影響を与える可能性があります。

⚠ アラーム: タイヤの損傷は、タイヤ空気圧監視システムには登録されません。特にトラック走行の場合、タイヤの状態と空気圧を定期的に点検してください。これを怠ると、重傷または命に関わる原因となります。

システム故障

タイヤ空気圧監視システムの誤作動が検出されると、④アラーム記号が約1分間点滅した後、常時点灯に切り替わり、ドライバーディスプレイ画面にアラームメッセージが表示されます。

誤作動表示ランプの点灯中は、システムが意図したとおりにタイヤ空気圧の低下を検出したり、信号を送ったりできない可能性があります。

車両に交換用または代替用のタイヤやホイールが装着されてシステムが正常に機能しなくなるなど、誤作動はさまざまな理由で発生する可能性があります。

車のタイヤやホイールを1つ以上交換した後は、必ず④のアラーム記号を確認し、タイヤとホイールの交換後もタイヤ空気圧監視システムが正しく機能していることを確認します。

タイヤ空気圧監視システムの較正

タイヤ空気圧 / ホイールの取り外し / 再装着の後、タイヤ空気圧監視システムを再較正してください。iTPMSシステムの較正を行うには、エンジンをかけたまま車両を安全に停止させます。タイヤ空気圧の画面のメニューオプションで「タイヤ空気圧設定」を選択し、画面 上の較正のメッセージに従ってください。

 **注記:** タイヤ空気圧監視システムは、サービスセンターの納車プロセスの一環としてリセットされ、さらに較正が必要です。タイヤ空気圧監視システムは、車両を一定速度で走行させると、数分かけてより早く較正を実行します。日常のiTPMSの較正手順は、中央ディスプレイのアプリランチャー画面から利用できます。132ページを参照してください。ボタンをタップし、画面の指示に従います。

ホイール

純正品、またはロータス認定のホイール、タイヤ、ホイールボルトの組み合わせのみを使用してください。

路面の穴や縁石にぶつかった後は、ホイールを外しホイールとタイヤに損傷がないかを十分に点検してください。必要であれば、ホイールやタイヤを交換してください。

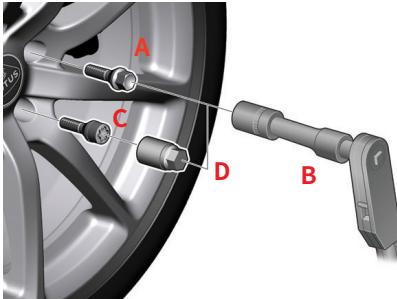
常に安全性を第一とし、疑わしい場合は新しい部品を装着してください。

 **アラーム:** 誤った、または承認されていない交換ホイールまたはホイールロックを使用すると、危険な場合があります。これは、車両のブレーキや操縦に影響を与えたり、タイヤの空気圧を低下させ、事故につながる可能性があります。

 **アラーム:** 中古のホイールを車両に装着するのは危険です。目視できない構造的な損傷があり、事故につながる破損につながる可能性があります。

ホイールの交換

車体をリフトする際のアドバイスや情報については、「車体のリフト」を参照してください。(240ページ)



ホイールの取り外し

この手順を実行する前に:

1. 交通量の多い場所から離れ、水平で安定した、滑らない場所に駐車してください。
2. ハザードランプをオンにし、必要に応じ後方の十分な距離にアラーム三角形を設置します。現地法令のいづれをも遵守してください。
3. 乗員は全員車から降り、対向車線から離れた安全な場所に移動してください。
4. 車両のハンドブレーキをかけ、ギアはファーストギアまたはリバースギア、あるいはP-パークに入れてください。
5. リフトしないすべての車輪をしっかりと固定します。
6. 17mm ソケットと適切なトルクレンチ (B) (付属していません) を使って、ホイールボルト (A) を反時計回りに $\frac{1}{4}$ 回転

させ緩めます。この段階ではホイールボルトを外さないでください。

! **注意:** ロッキングホイールボルト (D、装着の場合) *には、ハンマー・アクションのエアツールは使用しないでください。使用はマニュアルツールのみとします。

*オプションのロック付きホイールボルト (C) が取り付けられている場合、ロックボルトを外すには、付属のコード付きソケットレンチ (D) が必要です。

ボルトヘッドに完全に嵌合するまでコード付きソケットを回転させ、エクステンションツールをホイール面に対して垂直に保つように注意しながら、リリーストルクをかけます。



7. 青色のステッカーが貼られたリアリフティングポイントに、適切なジャッキをセットします。240ページの「車体のリフト」を参照してください。これでその側の両輪が上がります。

⚠ アラーム: ホイールを交換するときは、その車両に合ったジャッキを使用してください。

⚠ アラーム: ジャッキアップした状態で、体やその一部を車両の下にして作業しないでください。

! **注意:** 特定のリフトポイントのみを使用してください。車体のどの部分であろうと、または不適切な位置でジャッキをかけると、シャーシやボディの構造に損傷を与える可能性があります。

8. ジャッキに付属の指示に従ってください。
9. 車両を地面から持ち上げます。
10. ホイールのボルトを外し、ホイールを取り外します。

ホイールの取り付け

1. 装着するホイールとホイールハブの接觸面がきれいであることを確認します。きれいでない場合は、必要に応じて清掃してください。
2. ハブのアセンブリにホイールを固定するために、車両のホイールボルトの少なくとも2つを反対側の点でねじ込みます。
3. 残りの3つのホイールボルトをねじ込みます。



4. 標準のエクステンションとホイールボルトアダプター（ロック付ホイールボルトの場合はコード付ホイールボルトアダプター）を使って、5本すべてのホイールボルトを十字に締め付けます。
5. メーカーの指示に従い、ジャッキを降ろし、車両を地面に下ろします。

車両の管理

6. ボルトを105Nmのトルクで完全に締め付けます。

注記: ホイールボルトのネジ部には、潤滑剤を使用しないでください。

アラーム: ホイールやハブ取り付け部の汚れ・腐食、ホイールボルト・ハブねじ部の油脂類、誤ったホイールボルトの使用、誤った締め付けトルクにより、ボルトが緩み、ホイールが外れることがあります。



ジャッキング
A 両車輪を片側に持ち上げるポイント。
B 片側車両の前面を持ち上げるポイント。



2ポストリフト
すべての4つのAとBリフトポイントをて使用。

車両のリフト

ジャッキまたはランプのリフティングパッドは、 に示された部分の下にのみ配置してください。

ポイントA

シャーシ後端、リアホイールアーチの前方にあるリブ状の合金製パッド。

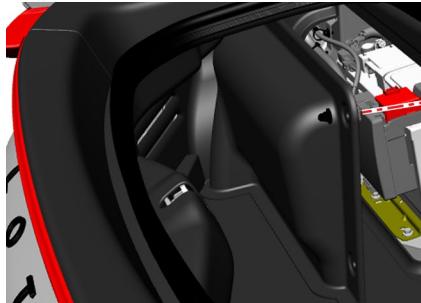
ポイントB

シャーシの前端、前輪の内側/後方の下にリブ合金パッド。

アラーム: 上記で特定されたリフトポイントのみを使用してください。車体の一部だけで持ち上げたり、ジャッキが不適切な位置にある場合、安全が損なわれることがあります。

アラーム: リフティングジャッカの使用は危険な場合があります。車がジャッキから落ちると、あなたや他の人が大けがをしたり、命に関わるリスクがあります。ジャッキだけで支えていけるときは、絶対に車の下に入らないでください。

!**注意:**特定のリフトポイントのみを使用してください。車体のどの部分であろうと、または不適切な位置でリフトすると、シャーシやボディの構造に損傷を与える可能性があります。



バッテリー

バッテリーアクセス

バッテリーは、リアトランクの左側に設置されています。

バッテリーを取り出すには、テールゲートを開け、(50ページを参照) バッテリーカバーのつまみねじを外して取り外します。

!**アラーム:** バッテリーには硫酸が含まれているので、皮膚、目、口、衣服に触れないようにしてください。皮膚や目に接触した場合、多量の水で洗い流し、汚染された衣服を脱いで、直ちに医師の診断を受けてください。

!**アラーム:** バッテリーの警告に関する記述すべてに従ってください。

!**アラーム:** 飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けてください。吐き出そうとしたり水分を摂ったりしないでください。

!**アラーム:** バッテリーは爆発性のガスを発生します。火花、炎、タバコを近づけてはいけません。密閉された場所で充電または使用する場合は、換気してください。バッテリーの近くで作業するときは、必ず目を保護してください。

バッテリー交換

バッテリー交換は、ロータス正規ディーラーにて行なうことを推奨しますが、認定のロータスディーラーでバッテリー交換を行っていない場合は、次のことを確認してください。

- 元のバッテリーと同じサイズ、低温始動能力と型のバッテリーに交換します。詳しくは、本ハンドブックの「テクニカルデータ」の章を参照してください。
- すべての電気負荷をオフにして、キー ホブを車室から取り外してください。

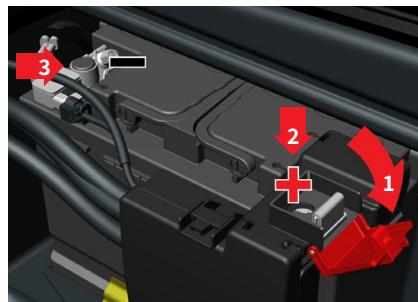
車両の管理

- イグニッションスイッチを切ってから最低30分間待ち、エンジン管理システムが再起動に備えていくつかのコンポーネントの設定を調整するのを待ちます。
- バッテリーのマイナス(黒)ケーブルを最初に外し、最後に再接続します。

バッテリーの廃棄



自動車用バッテリーは、通常の家庭ごみと一緒に廃棄しないでください。バッテリーのリサイクルを許可されたリサイクルセンターまたは電気専門店でのみ廃棄してください。



充電

通常の日常使用であれば、充電器を使う必要はないはずです。使用頻度が低い場合は、適切なトリクル充電器や自動バッテリー管理コンディショナーを使用して、バッテリーの充電状態を維持することが重要です。

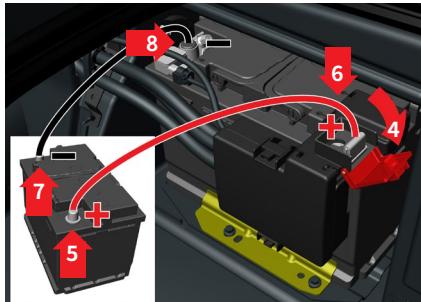
! **注記:** バッテリーコンディショナーは完全充電されたバッテリーを維持しますが、バッテリーが放電された場合は再充電することはできません。

未使用期間が約18日経過すると、起動に支障をきたす場合があります。

バッテリーコンディショナーは、バッテリーの充電状態を常に監視し、自動的にスイッチをオン・オフして、バッテリーを満充電の状態に維持します。

バッテリーをトリクル充電するには、ジャンプスタートポイントのプラス側端子カバーを開け(1)、充電器または自動バッテリーコンディショナーの赤いプラス+リードと黒いマイナス-リードの端子を、対応する赤いプラス(2)と黒いマイナス-車両(3)のバッテリー端子に12.8ボルトになるまで接続します。

! **注記:** トリクル充電器やバッテリーコンディショナーに同梱されている説明書や安全上の警告に従ってください。



ジャンプスタート

緊急時には、バッテリーが放電した車両を12Vマイナスアース電気系統のある他の車両から始動させることができます。そのような作業を行うと脆弱な電子制御装置に損傷を与える可能性があり、車両保証の対象外となることに留意してください。

車両をジャンプスタートさせる場合、短絡やその他の損傷を避けるため、以下の手順で行うよう推奨します。

1. バッテリーアクセスカバーを取り外します。241ページを参照してください。
2. 車両のイグニッショングループがポジション0であることを確認します。
3. ドナー車のエンジンがオフになっていることを確認し、2台の車両が互いに接触していないことを確認します。

4. プラス側ジャンプスタートポイントの端子カバーを開けます。
5. 赤いジャンパーケーブルの片方のクランプを、ドナー車のバッテリーの赤いプラス端子ポストに接続します。
6. 赤いジャンパーケーブルのもう一方のクランプを、ロータス車の赤いプラス+ジャンプスタートポイントに接続します。
7. 黒いジャンパーケーブルの片方のクランプを、ドナー車のバッテリーのマイナス端子ポストに接続します。
8. 黒いジャンパーケーブルのもう一方のクランプを、ロータス車のマイナスバッテリー・ポスト(4)に接続します。
9. 始動時の火花を防ぐため、ジャンパーケーブルのクランプがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
10. ドナー車のエンジンを始動し、早いアイドリングスピードで数分間稼働します。
11. ロータスの車両エンジンを始動します。
12. ジャンパーケーブルは、装着の逆の順序で取り外します(黒のマイナス-、赤のプラス+)。
13. 黒のマイナス側ジャンパーケーブルのクランプが、ドナー車またはロータス車のプラス側ジャンプスタートポイント、ドナー車のバッテリープラス端子、または赤いジャンプリードに接続され

ているクランプのいずれにも接触していないことを確認してください。

放電したバッテリーの原因を調査・改善し、242ページに示すようにバッテリーをトリクル充電してください。

アラーム: 工具や金属製の時計、宝飾品などが、電池の端子や通電部品に触れないように注意してください。

アラーム: 車両の電気系統の損傷リスクを減らすため、そして最も重要なこととして火花によるバッテリーの爆発の危険を最小限に抑えるために、正しい手順で行うことが最も重要です。

アラーム: ドナー車両にも12Vマイナスアース電気系統があることを確認します。

アラーム: ジャンパーケーブルは、適切な太さのもので完全に絶縁されたクランプを取り付けたもののみを使用してください。ケーブルは、車両とケーブルが接触しないよう十分な長さが必要です。

車両の管理

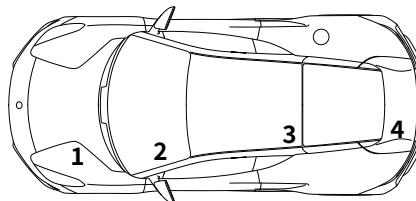
⚠️ アラーム: ジャンパーケーブルの製造元の警告や指示に従ってください。

⚠️ アラーム: ジャンパーケーブルを接続するときは、エンジンの可動部に近づけないでください。

⚠️ アラーム: 2台が接触しないようにしないと、プラス端子を接続したとたんに電流が流れる可能性があります。

ヒューズ

ヒューズが何度も切れる場合は、ロータスのディーラーまでご連絡ください。



ヒューズボックスの場所

- 1 フロントヒューズボックス。
- 2 フットウェル・ヒューズボックス。
- 3 リアヒューズボックス。
- 4 バッテリーヒューズボックス。

ヒューズの交換

- 次ページのヒューズの配置図で、ヒューズの位置を確認してください。
- ヒューズを抜いて、ヒューズの線が切れていないか確認してください。
- ヒューズが切れた場合は、同じ色と定格電流の新しいヒューズと交換してください。

⚠️ アラーム: ヒューズを高い定格のものと交換すると、火災の原因になることがあります。

❗️ 注意: ヒューズを高い定格のものと交換、または異物により、車両の電気系統を損傷することがあります。

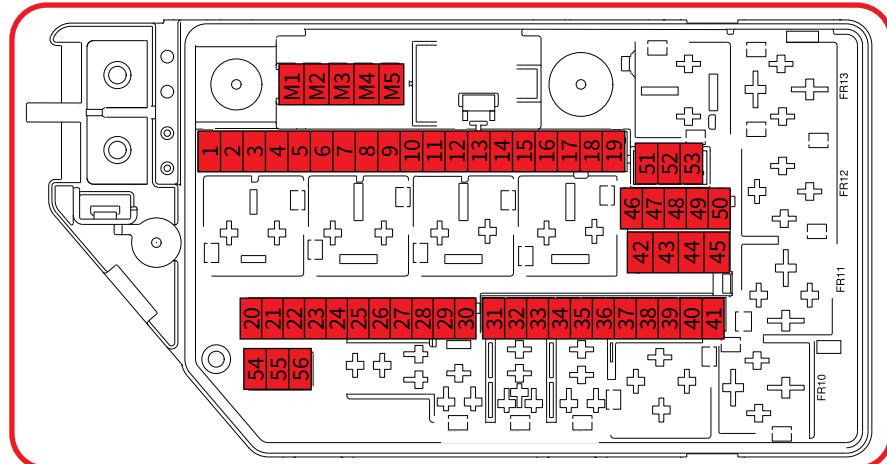
❗️ 注記: 正しい定格のヒューズがない場合は、暫定的に低い定格のヒューズを使用してください。

❗️ 注記: まだどの回路も保護しないヒューズを取り付けることもできます。

フロントヒューズボックス

1. フロントアクセスパネルを開きま
す。216ページを参照してください。
2. フロントヒューズボックスカバーパネル
(車両の助手席側にある)を固定して
いる5個の固定具を取り外し、パネルを
外します。

記載のヒューズは、特に他での記載がな
い限り、エミーラ4気筒モデルとエミーラ
V6モデルの両方で使用されています。



車両の管理

No.	回路	定格	タイプ
1	スペア		Micro
2	スペア		Micro
3	スペア		Micro
4	スペア		Micro
5	スペア		Micro
6	スペア		Micro
7	スペア		Micro
8	スペア		Micro
9	スペア		Micro
10	スペア		Micro
11	スペア		Micro
12	ヘッドランプユニット-右側	20	Micro
13	ヘッドランプユニット-左側	20	Micro
14	補助拘束装置、助手席乗員重量センサー、ベルトテンションセンサーフロント右	5	Micro
15	排気アクチュエーター	5	Micro
16	電動油圧パワーアシストステアリング(エミーラ4気筒)	5	Micro
17	スペア		Micro
18	ビーコルダイナミクス・ドメインマスター - VDDM (ブレーキモジュール)	5	Micro
19	シート乗員重量センサー	5	Micro
20	リレー-コイル供給	5	Micro
21	バッテリーバックアップサウンダー	5	Micro
22	再循環フラップアクチュエータ、温度フラップアクチュエータ左側	5	Micro
23	スペア		
24	スペア		

No.	回路	定格	タイプ
25	スペア		Micro
26	スペア		Micro
27	スペア		Micro
28	スペア		Micro
29	ホーンリレー	20	Micro
30	低温ラジエーターファンリレー(エミーラV6オートマチックトランスマッision)	30	Micro
31	スペア		MCase
32	コントロールユニットプロワモータ、温度フラップアクチュエータ左側、再循環フラップアクチュエータ	40	MCase
33	ビーグルダイナミクス・ドメインマスター - VDDM (ブレーキモジュール)	40	MCase
34	ビーグルダイナミクス・ドメインマスター - VDDM (ブレーキモジュール)	40	MCase
35	スペア		MCase
36	ヘッドランプリレー	30	MCase
37	スペア		MCase
38	スペア		MCase
39	スペア		MCase
40	スペア		MCase
41	スペア		MCase
42	スペア		MCase
43	スペア		MCase
44	スペア		MCase
45	スペア		MCase
46	スペア		Micro
47	スペア		Micro
48	スペア		Micro

車両の管理

No.	回路	定格	タイプ
49	スペア		Micro
50	スペア		Micro
51	スペア		MCase
52	スペア		MCase
53	スペア		MCase
54	スペア		Micro
55	ヘッドランプユニット-左側	20	Micro
56	ヘッドランプユニット-右側	20	Micro
M1	ヒューズボックス電源	80	Midi
M2	スペア		Midi
M3	ファン制御モジュール	70	Midi
M4	スペア		Midi
M5	電動油圧パワーアシストステアリング(エミーラ4気筒)	100	Midi

フットウェル・ヒューズボックス

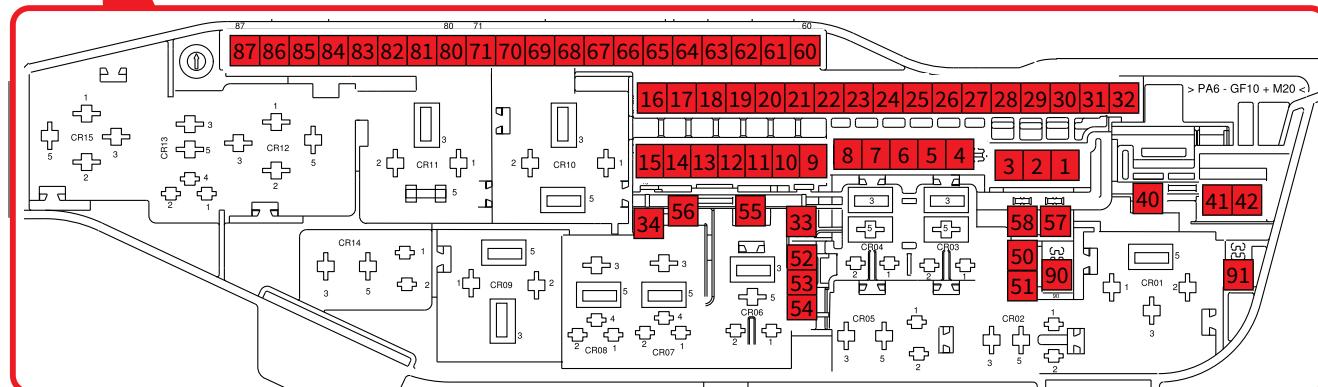
助手席足元にあり、各コーナーにある1/4回転ファスナーで固定されたトウボードパネルを取り外すとアクセスできます。



トーボードパネルは、乗員衝突保護用のコンポーネントです。トーボードパネルが正しく取り付けられていない状態で、絶対に運転してはいけません。

⚠ アラーム: トーボードが装着されていないか、装着が不適切な場合、ベルトを外した状態で衝突したときに、ベルトを外したフロント乗員が足の上部を負傷する危険性があります。

記載のヒューズは、特に他での記載がない限り、エミーラ4気筒モデルとエミーラV6モデルの両方で使用されています。



車両の管理

No.	回路	定格	タイプ
1	スペア		MCase
2	スペア		MCase
3	スペア		MCase
4	スペア		MCase
5	ワイヤーモータモジュール	30	MCase
6	スペア		MCase
7	オーディオブースター(プレミアム仕様)	25	MCase
8	オーディオモジュール	25	MCase
9	シートモジュール-左	20	Micro
10	インフォテインメント・ヘッドユニット	10	Micro
11	ドアモジュール-フロント左	20	Micro
12	シートモジュール-右	20	Micro
13	ドアモジュール-フロント右	20	Micro
14	アクティブセーフティ・ドメインマスター	5	Micro
15	ステアリングカラムロック	7.5	Micro
16	診断ソケット(ODB I)	10	Micro
17	ステアリングホイールモジュール	5	Micro
18	高周波アンテナ	5	Micro
19	リレーコイル供給	5	Micro
20	センターコンソールスイッチモジュール	5	Micro
21	ブレーキペダルセンサー	5	Micro
22	クライメートコントロールモジュール	7.5	Micro
23	中央スタックディスプレイ	5	Micro
24	内部モーションセンサー	5	Micro

No.	回路	定格	タイプ
25	テレマティクスモジュール	5	Micro
26	ドライバー情報モジュール	5	Micro
27	スタートスイッチ、ギア選択モジュール、パーキングブレーキスイッチ	5	Micro
28	スペア		Micro
29	換気フラップアクチュエータ、デフロスター/フラップアクチュエータ	5	Micro
30	サイレントアラームモジュール	5	Micro
31	キーレス車両モジュール(エミーラ4気筒)	5	Micro
32	デジタルキーレスアンテナモジュール(エミーラ4気筒)	5	Micro
33	スペア	5	Micro
34	エンジンペイEFCM_2リレー	10	Micro
40	スペア		MCase
41	スペア		MCase
42	スペア		MCase
50	補助水ポンプ	5	Micro
51	スペア		Micro
52	スペア		Micro
53	電源コンセント-助手席コンパートメント	15	Micro
54	充電ポート-リアビューミラー、USB充電ポート-フロアコンソール右	10	Micro
55	スペア		MCase
56	スペア		MCase
57	スペア		MCase
58	スペア		MCase
60	スペア	0	Micro
61	スペア		Micro

車両の管理

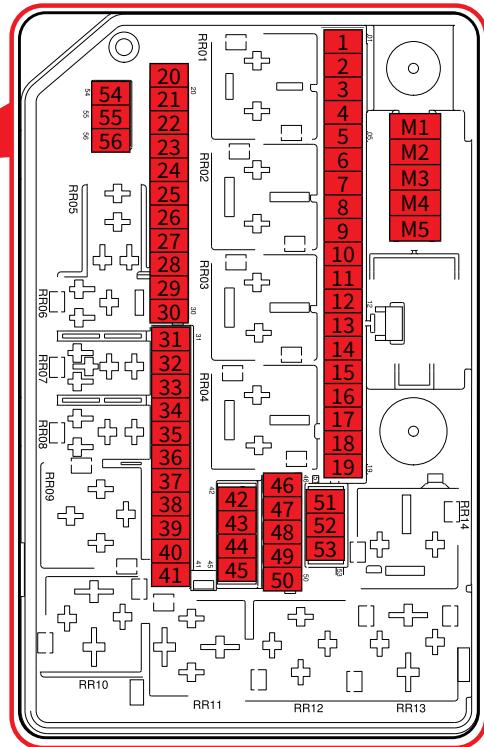
No.	回路	定格	タイプ
62	スペア		Micro
63	電子料金回収モジュール	5	Micro
64	スペア		Micro
65	補足拘束システム	5	Micro
66	フロントレーダーモジュール,前方監視、カメラヒーター	5	Micro
67	スペア		Micro
68	スペア		Micro
69	スペア		Micro
70	スペア		Micro
71	スペア		Micro
80	サン・センサー	5	Micro
81	USB接続	7.5	Micro
82	雨/光センサモジュール、バニティミラー照明、オーバーヘッドコンソール、グローブボックス照明、 グローブボックススイッチ、内部リアビューミラーモジュール	7.5	Micro
83	側面障害物検知-左、側面障害物検知-右	5	Micro
84	スペア		Micro
85	スペア		Micro
86	スペア		Micro
87	スペア		Micro
90	スペア		Micro
91	スペア		Micro

リアヒューズボックス

リアヒューズボックスは、左側のリアクオータートリムパネルの後ろに配置されています。

パネルを引き抜くと、リアヒューズボックスにアクセスできます。

記載のヒューズは、特に他での記載がない限り、エミーラ4気筒モデルとエミーラV6モデルの両方で使用されています。



車両の管理

No.	回路	定格	タイプ
1	ポンプ電子モジュール、パワートレインコントロールモジュール(エミーラ4気筒)	5	Micro
2	エンジンコントロールモジュール、電子ギアセレクターモジュール(エミーラ4気筒)	5	Micro
3	エアコンコンプレッサソレノイド(エミーラ4気筒)	5	Micro
4	スペア		Micro
5	エンジンコントロールモジュール(エミーラV6)	10	Micro
5	エンジンコントロールモジュール、インジェクター1,2,3 + オイルレベル・温度センサー(エミーラ 4気筒)	15	Micro
6	スパークプラグ、イグニッションコイル、コンデンサフィルタ-左, コンデンサフィルタ-右(エミーラV6)	15	Micro
6	エンジンコントロールモジュール(エミーラ4気筒)	15	Micro
7	インジェクター(エミーラV6)	7.5	Micro
7	エンジンコントロールモジュール(エミーラ4気筒)	25	Micro
8	ポンプ-水冷式チャージエアクーラー(エミーラV6)	15	Micro
8	ポンプ燃料漏れ制御DMTL(エミーラ4気筒)	25	Micro
9	ソレノイド可変バルブタイミングVVTインレット&エキゾーストB、エバップバージバルブ、ソレノイド可変バルブタイミングVVTインレット&アウトレット、キャニスタークローズバルブ(エミーラV6)	7.5	Micro
10	酸素センサー1・左前方、酸素センサー3・右前方リニア、酸素センサー4 右後方診断、酸素センサー後方(エミーラ V6)	10	Micro
11	リレーコイル供給(エミーラV6)	5	Micro
12	エンジンコントロールモジュール(エミーラV6)	5	Micro
12	パワートレインコントロールモジュールPCM(エミーラ4気筒)	15	Micro
13	電子ギアセレクタモジュール(エミーラV6オートマチックトランスマッision)	5	Micro
13	排気アクチュエータ(エミーラ)	5	Micro
14	オルタネーターコントロールモジュール(エミーラV6)	5	Micro
14	トランスマッisionオイルクーラーバルブ(エミーラ4気筒)	7.5	Micro
15	ポンプ水冷式チャージエアクーラー(エミーラ4気筒)	20	Micro

No.	回路	定格	タイプ
16	エアコンコンプレッサーソレノイド(エミーラV6)	7.5	Micro
16	コントロールバルブエンジンオイルクーラー(エミーラ4気筒)	10	Micro
17	ウォーターポンプリレー(エミーラ4気筒)	5	Micro
18	ビーグルゲートウェイモジュール(エミーラ4気筒)	5	Micro
19	スペア		Micro
20	リレーコイル供給(エミーラ&エミーラV6)	5	Micro
21	オルタネーターコントロールモジュール(エミーラV6)	5	Micro
22	エンジンコントロールモジュール(エミーラ&エミーラV6)	5	Micro
23	パワートレインコントロールモジュール(エミーラ4気筒)	5	Micro
24	キーレス車両モジュール(エミーラ4気筒)	5	Micro
25	スペア		Micro
26	空調クラッチリレー(エミーラV6)	5	Micro
27	スペア		Micro
28	オイルクーラーポンプリレー(エミーラV6オートマチックトランミッション)	15	Micro
29	燃料ポンプリレー(エミーラV6)	20	Micro
30	スペア		Micro
31	スペア		MCase
32	中央電子モジュール	40	MCase
33	スペア		MCase
34	中央電子モジュール	40	MCase
35	スペア		MCase
36	ポンプ電子モジュール(エミーラ4気筒)	30	MCase
37	スペア		MCase
38	スペア		MCase

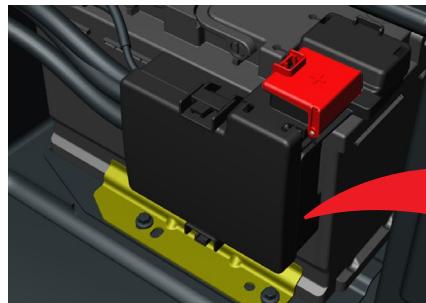
車両の管理

No.	回路	定格	タイプ
39	ウインドウォッシャーポンプ前部リレー	30	MCase
40	スペア		MCase
41	リアデフロスターリレー	25	MCase
42	スペア		MCase
43	スペア		MCase
44	スターターリレー	30	MCase
45	スペア		MCase
46	ギアシフトアクチュエーター(エミーラV6オートマチックトランスミッション)	5	Micro
47	スペア		Micro
48	スペア		Micro
49	スペア		Micro
50	スペア		Micro
51	トランスミッション・コントロールモジュール(エミーラV6オートマチックトランスミッション)	30	MCase
52	スペア		MCase
53	スペア		MCase
54	スペア		Micro
55	スペア		Micro
56	スペア		Micro
M1	トランスミッション・コントロールモジュール(エミーラ4気筒)	80	Midi
M2	ウォーターポンプリレー(エミーラ4気筒)	60	Midi
M3	スペア		Midi
M4	スペア		Midi
M5	スペア		Midi

バッテリーヒューズボックス

メガヒューズの取り外しには、ワークショッップ用のツールが必要です。また、これらのヒューズを点検する前に、バッテリーのマイナス端子のクランプをバッテリーから取り外す必要があります。

メガヒューズは定格電流が大きいため、ロータスではこれらのヒューズの点検と取り外しについてはロータス・ディーラーでのみ行うことを推奨しています。



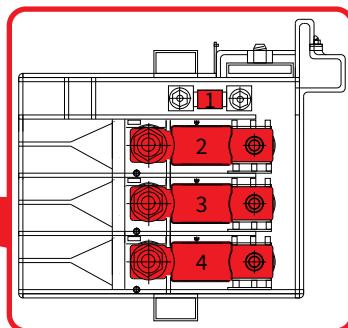
記載のヒューズは、特に他での記載がない限り、エミーラ4気筒モデルとエミーラV6モデルの両方で使用されています。



アラーム: バッテリーのマイナス端子を接続したまま、スパナなどでメガヒューズの端子をアースすると、火花が出て電流が流れ、やけどや火災の原因となることがありますので、必ずアースしてください。



アラーム: 工具や金属製の時計、宝飾品などが、電池の端子や通電部品に触れないように注意してください。

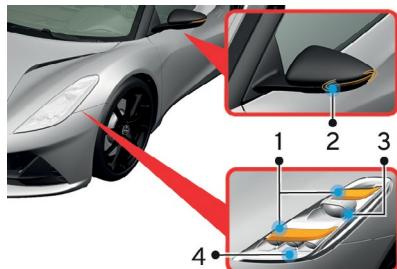


No.	回路	定格	タイプ
1	バッテリー監視センサー	15	Micro
2	スターターモーター	400	Mega
3	リヤジャンクションボックス	200	Mega
4	フロントジャンクションボックス	250	Mega

車両の管理

エクステリアランプ

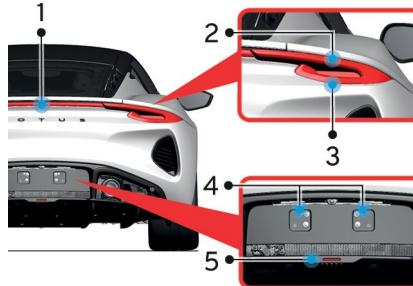
すべてのランプは発光ダイオード(LED)で点灯し、完全なユニット交換のみで修理が可能です。



フロントランプ

- 1 ポジション/デイタイムランニング/方向指示器。
- 2 サイドリピーター。
- 3 ディップビーム。
- 4 メインビーム。

注記: フロントランプには、熱対策としてファンモーターが取り付けられており、エンジン始動時に音が聞こえる場合があります。



リアランプ

- 1 センターハイマウントストップランプ。
- 2 ポジション/方向指示器*。
- 3 ポジション/ブレーキ*。
- 4 ナンバークレート*。
- 5 リバース/リアフォグ。

*また、デイタイムランニングライトが作動した場合にも点灯します。

注記: すべてのランプは、レンズの内側に一時的に結露することがあります。これは正常な現象であり、ランプを点灯させれば徐々に解消されます。

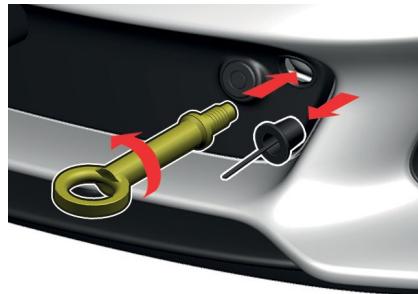
車両の牽引

平台の自動車運搬船にウインチで乗り込むなど、車両の牽引を支援するには、車両ツールキットに付属の牽引アイボルトをフロントバンパーセンターグリルの左側後方にあるネジ式の取り付けポイントにねじ込みます。

⚠ アラーム: この目的のために特別に設計された牽引装置のみを使用してください。

⚠ 注意: 車両は緊急時にのみ、牽引アイボルトを使用して牽引し、牽引距離は必要最短距離のみとします。

⚠ 注意: 車両の地上高が低すぎる場合、牽引アイボルトを使用してウインチすると、車両が損傷することがあります。



牽引アイボルトの使用

- 保護栓を取り外し、牽引アイボルトを取り付け部分に反時計回りに完全にねじ込み取り付けます。

⚠ 注記: 車両をウインチする前に、牽引アイボルトができるだけ取り付けポイントにしっかりとねじ込まれていることを確認してください。

- 車両をイグニッションモードII(アクティブ)にし、電動パーキングブレーキを解除します。181ページと197ページを参照してください。
- マニュアル車の場合は、ギアレバーをニュートラルにしてください。
- オートマチックトランスミッション車の場合は、N-ニュートラルを選択します。188ページを参照してください。

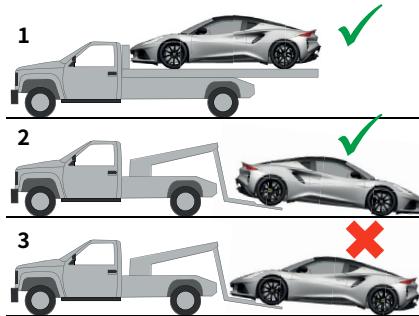
- 車両を牽引中は、キーフォブを車内に残してください。

⚠ 注記: ニュートラルが選択できない場合、またはパーキングブレーキを解除できない場合は、車両をウインチする前に、牽引用ドリーを後輪の下に置く必要があります。

⚠ 注意: ギアを入れたまま、またはパーキングブレーキをかけたままウインチを作動させると、トランスミッションやブレーキシステムを損傷させることができます。

⚠ 注意: ウインチ/牽引装置を車体またはサスペンションに取り付けると、車両に損傷を与える可能性があります。

車両の管理



車両輸送車による牽引

ロータスでは、ロータス正規ディーラーもしくは専門の車両牽引業者が、適切な平台型の運搬装置もしくはトレーラーを使って牽引するよう推奨しています。

- 1 ✓ 推奨方法。
- 2 ✓ 前輪（非駆動輪）を地面で回転させる代替方法。
- 3 ✗ トランスマッisionに重大な損傷を与える可能性があるため、後輪の駆動輪が地面で回転している状態で車両を牽引することは絶対に避けください。



車両の固定

車両輸送車やトレーラーで車両を移動させる場合、車両のロードホイールの周りにチョッキングやストラップを装着して固定します。

- ⚠ 注意：サスペンションリンクエージ、牽引アイボルト、シャーシやボディーのコンポーネントの周りに拘束用具を取り付けると、損傷を与えることがあります。

車両牽引

車両は緊急時にのみ、牽引アイボルトを使用して牽引し、牽引距離は必要最短距離のみとします。

牽引する前に、パワーステアリングロックを解除し、電動パーキングブレーキを解除することを確認してください。181 ページと 197 ページを参照してください。

⚠ アラーム：この目的のために特別に設計された牽引装置のみを使用してください。

⚠ 注意：不適切な牽引装置を使用すると、車両に損傷を与える可能性があります。

オートマチック車の牽引

オートマチックトランスマッision車を長時間牽引することは、トランスマッisionに重大な損傷を与える可能性があるため、絶対に行なってはいけません。

トレーラーの牽引

この車両には、後部牽引マウントや牽引バー・アセンブリを取り付けるためのシャーシ・マウントポイントが装備されていないため、トレーラーの牽引には適しません。

エクステリアクリーニング

- 車の塗装仕上げの定期的な点検と頻繁な洗車は、以下のような汚染物質による塗装の劣化を防ぐのに最適な方法です。
- 粉塵、煤塵、灰分、酸性またはアルカリ性のエアロゾール。
 - 樹液や虫の体液
 - 鳥の糞は塗装を化学的に侵食する可能性があります。
 - 化学物質を含む葉は、軽い仕上げを汚す可能性があります。
 - 磨耗の原因となる砂やほこり。

注記: 塗装を傷めないために、汚れを見つけたらすぐに上記のように取り除いてください。洗車完了まで待たないでください。

手洗い

ロータスでは、洗車は手洗いのみを推奨しています。

注意: 自動洗車機やジェットウォッシャーは、塗装面を傷めることがあります。これらを使用したことによる損害は、車両保証の対象外となります。

注意: エンジンルームの清掃にジェット洗浄機を使用したり、ジェット・ノズルやホースを吹き出し口に直接当たらないでください。繊細なエンジン部品に損傷を与える、エンジンが故障する恐れがあります。この場合、車両保証の対象外となります。

- 汚れが落ちるまで車全体をすすいでください。これによって洗車中に塗装にすり傷等がつくりリスクを防ぎます。吸気・換気グリルやロックに直接水をかけないようご注意ください。
- たっぷりのぬるま湯と専用のカーシャンプーを使ってよく洗い落とします。家庭用洗剤や台所用洗剤は絶対に使用しないでください。
- 洗車は日陰で行い、綿のシェニール織のウォッシュミットかスポンジでこまめにすすぐと、汚れが残りにくくなります。

- 潟巻きのような微細な傷がつかないよう、まっすぐ往復させるような感じで洗い、ボディを十分にすすぎます。

- 洗浄後は、適切なマイクロファイバーのタオルまたはセーム皮で塗装面を乾かしてください。

注記: カーシャンプーは、研磨剤を含まず、強い溶剤を含まず、pH値が3~11(強酸性でも強アルカリ性でもない)であることが必要です。

注記: ブレーキパッドとディスクの結合を防ぎ、腐食の可能性を避けるため、洗車後はすぐに短距離を走行することをお勧めします。

車両の管理

車体底部の洗浄

道路の塩害による劣化を最小限に抑えるため、シャーシの下面是定期的にきれいな水で洗い流してください。給油所の多くには、この目的に適した高圧洗浄設備がありますが、ボディワーク、ヘッドライト、サスペンション、ブレーキ、パワートレイン部品に使われている保護ゲートルの周囲には使用しないでください。

タールスポット

必要に応じて、ホワイトスピリットでタールスポットや頑固な油汚れを除去し(ただし、ウインドシールドのワイパー刃やラバートリムには塗布しないでください)、直ちに水とカーシャンプーで洗車してください。

ウインドシールドの清掃

ウインドシールドやその他のウインドウには、専用のガラス洗浄剤を使用してください。ウインドシールド用の洗浄剤でワイパー刃を洗浄し、ジャダー(振動)や汚れによる曇りなどを防止します。

エンジンルームの清掃

エンジンルーム内には、電気モジュール／コンポーネントやコネクターなどが数多く露出しています。

! **注意:** エンジンルームや個々の部品(電気系統または機械系統)は、絶対に高圧洗浄機や化学洗浄剤を使用して洗浄してはいけません。

エンジンルームの清掃は、ロータス正規ディーラーのみが行うよう推奨します。

アロイロードホイール

アルミホイールは、ボディ洗浄用と同じカーシャンプーで洗うことをお勧めします。ブラシはナイロン毛のものを使用してください。冬期、特に雪や氷を散らせるために道路に塩が散布されている場合には、ホイールやタイヤに溜まった道路汚れを十分に洗い落してください。

! **注意:**道路用ホイール洗浄液に含まれる化学物質は、ホイールリムの表面仕上げを損傷することがあります。

エクステリアライト

ヘッドライトやその他のライトユニットは、ぬるま湯と専用のカーシャンプーを使い、清潔なスポンジで洗ってください。家庭用洗剤や台所用洗剤は絶対に使用しないでください。



注記:洗車後、ヘッドライトやリアランプのレンズ内側に一時的に結露が発生することがあります。これは正常な現象であり、ランプを点灯させれば徐々に解消されます。

パークアシストシステムセンサー

車体で推奨するように、センサー類は手洗いのみとします。

パークアシストカメラレンズ

車体で推奨するように、カメラのみを手洗いしてください。

レーダーユニット

車体で推奨するように、フロントレーダーユニットとリアレーダーユニットを覆うリアバンパー部分のみを手洗いしてください。



注意:自動洗車機やジェット洗浄機は、センサー、カメラレンズ、レーダーユニットを損傷する恐れがあります。

詳細については、261 ページを参照してください。

車両の管理

塗装ボリッシュ

通常の洗車と乾燥の後、良質の液体ボリッシュを塗布すると、元の塗装の光沢を取り戻すことができます。

ワックスボリッシュを使用すると、塗装の光沢が増し、汚れからも保護することができます。ただし、これは前回の塗布を除去したきれいな面のみに使用することとします。

プラスチックやゴムのトリムには、ワックスやボリッシュを塗布しないでください。プラスチックやゴムに脱脂剤を使用する必要がある場合は、柔らかいスポンジで軽くこする程度にしてください。トリム成形を研磨すると、表面層を損傷する可能性があります。

研磨剤を含むポリッシャーは使用しないでください。

インテリアクリーニング中央ディスプレイ
パフォーマンスと読みやすさを維持するために、中央ディスプレイの画面を定期的にクリーニングすることをお勧めします。

スクリーンクリーニングモード

- センターコンソールの再生/一時停止ボタンを2秒間長押しします。
- 中央スクリーンにオーバーレイ画面が表示されます。
- 画面の指示に従ってください。
- マイクロファイバークロスを使用して、小さな円を描くようにスクリーンを拭きます。
- もう一度再生/一時停止ボタンを3秒間長押しすると、画面のホーム表示に戻ります。

注記: 必要に応じて、マイクロファイバーの布を清潔な水で軽く湿らせます。

注意: フロントガラスやガラスクリーナーなどの車内用クリーナー（またはその他の化学物質）を中央ディスプレイに直接吹き付けないでください。



注意: マイクロファイバーの布は清潔で、ほこりや汚れがないようにしてください。ディスプレイ画面を傷つける可能性のある研磨布やペーパータオルは使用しないでください。



注意: ディスプレイ画面を掃除するときは、軽く指で押さえる程度にしてください。

布製のトリム

通常の清掃は、マイルドな石鹼水で湿らせた布で時折軽く拭いてください。布は湿らせるのみで過剰に濡れていなことが重要ポイントです。あるいは、布張り専用のクリーナーを使用してもよいでしょう。

レザー&ビニールトリム

時々、敏感な赤ちゃん用のウェットティッシュで拭き取ってください。きれいな布と水だけを使い、繰り返し拭きますが、レザーに水分が浸透しないよう注意してください。仕上げに乾いた柔らかい布で乾かし、磨きます。明るい色のレザーの場合は、定期的に掃除してください。

皮革メーカーは、レザーの「栄養剤」の使用は推奨していません。石油、洗剤、家具用クリームやポリッシュの使用も禁止しています。

ロータス車には、自動車用として特別になめされ、染色された高級レザーを使用しています。天然素材であるレザーは、さまざまな方法で経年変化を起こし、時間の経過とともに、ひび割れ、擦り切れ、収縮などが見られることがあります。このような摩耗は欠陥ではなく、レザーの寿命による自然な事象です。

Alcantara[®]トリム

定期的に柔らかいブラシ、乾いた布、または掃除機でゴミやホコリを取り除くことをお勧めします。その後、少し湿らせた白い綿布で素材表面を拭いてください。プリント模様などの入った布や紙を使うと、そのインクが素材に移ることがあるので、使用しないでください。

汚れの除去: Alcantara[®]は、その素材に合った推奨のクリーニング剤と最適な汚れの落とし方についてまとめています。この情報は同社のウェブサイトで確認していただけます: alcantara.com

ロータス・カーズでは、Evora Alcantara[®]トリムの汚れ落としを行う前に、こちらウェブサイトに掲載されている情報を確かめ、それに従って行うことをお勧めします。

車両の管理

シートベルトのクリーニング

シートベルトは、ぬるま湯でスポンジで洗い、自然乾燥させてから使用してください。化学洗剤の使用や、ウェビングの漂白や染色は絶対に行わないでください。

ラッチの機能に影響を与えるような異物がバックル機構に入らないように注意してください。分解のための規定は設定されていません。

シートベルトは、ウェビングが擦り切れたり、汚染されたり、損傷したりした場合に交換する必要があります。シートベルトの点検や整備を怠ると、必要なときに正しく作動しないことがあります。すべてのベルトを定期的に点検し、問題があればすぐに修理してください。

フットウェルのクリーニング

フットウェルには、正しく固定したロータス認定のカーペットマットのみを使用してください。プラスチックなどの非通気性の素材でできた床材は、湿気がこもりやすく、フットウェルのフロアの表面腐食が始まる可能性があります。

シルトリム

なお、シルトリム・カバーは、通常のキャビンのアクセスでは摩耗や損傷を受けるため、使用頻度やオーナーの好みによって定期的な交換が必要になる場合があります。

ドアロック

左側外扉のキーロックを定期的に操作し、その機能を確認・維持するようにしてください。ロック専用のスプレーグリースを使用することで、スムーズで確実な動作を維持することができます。一般的なシリコン系のメンテナンスプレーを使用すると、メカニズムの寿命に必要な油分が洗い流されてしまうため、注意が必要です。ロータスの正規ディーラーが喜んでアドバイスいたします。

過酷な使用条件

特定の運転条件下では、エンジンオイルやトランスミッションオイルの品質が急速に劣化することがあります。以下に説明する「過酷な使用状況」のいずれかに該当する場合、エンジンやトランスミッションのオイルとフィルターは、整備スケジュールに記載されているよりも頻繁に交換することを推奨します。

- 埃の多い場所(舗装されていない道路など)での運転; 埃の中を運転した後は、できるだけ早くオイルとフィルターを交換する。
- 短距離の移動が多く、エンジンが十分に暖まらない(特に寒冷地)、頻繁な、あるいは長時間のアイドリングによるストップ／スタート運転。
- 高回転、高度なスロットル開度、高油温が繰り返されるサーキットでの使用。適切なメンテナンスについては、ロータスの正規ディーラーにご相談ください。

オフロード運転や、タイムランやラップを含めた競技イベントでの使用は、保証の対象外となり、適切なレベルの専門家による車の準備と整備が必要になります。別冊の「車両保証ブックレット」の第2章「意図する目的」をご参照ください。次ページに記載されている仕様以外の製品を使用

すると、エンジンやトランスミッションにダメージを与える可能性があり、ロータスの車両保証の対象外となりますので、ご注意ください。

フルードの量については、271ページの「容量」を参照してください。交換時期については、別冊の「サービスブックレット」に記載されている整備スケジュールを参照してください。

認定の潤滑油は、ロータスが推奨する必要な定期メンテナンスに基づき、長期間にわたりお客様の車の信頼性と最適な性能を保証するために開発・テストされたものです。

推奨の潤滑剤

指定された潤滑剤を使用することが極めて重要です。

低品質のオイルでは次回の定期点検までに十分な保護機能を発揮できない可能性があり、またオイルの消費量が多くなる可能性があります。

車両の寿命を通して、完全な合成油を使用しなければなりません。詳細については 269 ページの「推奨のフルードとオイル」を参照してください。

 **注記:** ロータスでは、新車保証の条件を無効にする可能性のあるオイル添加剤を使用しないよう推奨しています。

テクニカルデータ

推奨のフルードおよび潤滑剤

エミーラ V6

エンジン

認定製品:

粘度/品質基準:

トータルクオーツ9000エネルギー

SAE 0 W/40/API SN: ACEA A3/B4

マニュアルトランスマッキン

認定製品/品質基準:

認定製品/品質基準:

Texaco Delo Syn-AMT XV 75W-80 (完全合成) / API GL-4

Havoline Multigear MTF HD 75W-80 (完全合成) / API GL-4

オートマチックトランスマッキン

認定製品:

認定製品:

トヨタ純正ATF WSトランスマッキンオイル

エクソンモービルJWS 3324トランスマッキンオイル

ブレーキ&クラッチシステム

認定製品/仕様:

Petronas Tutelaトップ4/Sブレーキフルード/ドット4

エンジンおよび充電器冷却剤添加剤

認定製品:

タイプ/色:

Total Glacelf SI-OAT

OAT腐食防止剤入りモノエチレングリコール / ピンク

パワーステアリングシステム (PAS)

認定製品/仕様:

Fuchs Titan ATF 3000 Dexron II (D)

ウインドウ・ウォッシャーボトル

認定製品:

Petronas Tutela SC 35フロントスクリーンウォッシャーフルード

テクニカルデータ

推奨のフルードおよび潤滑剤

エミーラ4気筒

エンジン

認定製品:

Total INEO XTRA EC5

粘度/品質基準:

SAE 0W/20 / C5、SNプラス / ILSAC GF-6A / MB229.71

トランスマッision

認定製品:

Fuchs Titan FFL-10

品質基準:

MB 236.22

ブレーキ&クラッチシステム

認定製品/仕様:

Petronas Tutelaトップ4/Sブレーキフルード/ドット4

エンジンおよび充電器冷却剤添加剤

認定製品:

Total Glacelf SI-OAT

タイプ/色/品質基準:

OAT腐食防止剤入りモノエチレングリコール / ピンク / MB325.6

パワーステアリングシステム(PAS)

認定製品/仕様:

Fuchs Titan CHF202

ウインドウ・ウォッシャーボトル

認定製品:

Petronas Tutela SC 35フロントスクリーンウォッシャーフルード

容量	WLTP数値	WLTP数値
エミーラ V6	エミーラ V6	エミーラ4気筒
エンジンオイル*	6.0 L	燃費
	低	17.1 l/100 km
エミーラ4気筒	中	11.4 l/100 km
エンジンオイル*	6.7 L	高
	高	9.7 l/100 km
ディップスティックマークの高 低の違い	1.5 L	エクストラ
	合併	10.5 l/100 km
ウインドウ・ウォッシャーボトル	2.5 L	合併
燃料タンク	58 L	11.3 l/100 km
トランク	151 L	CO ₂ 排出量
		低
		391 g/km
		中
		259 g/km
		高
		221 g/km
		エクストラ
		240 g/km
		合併
		258 g/km
		CO ₂ 排出量
		低
		338 g/km
		中
		208 g/km
		高
		174 g/km
		エクストラ
		188 g/km
		合併
		208 g/km
マニュアルトランスマッision車、オートマチックトランスマッision車に適用される数値		無鉛燃料要件
*図に示すのはエンジンとオイルフィルターの容量で、オイルクーラー回路には追加のオイルが含まれており、通常のオイル交換では排出されません。		最少 95 RON - (E10)
		おすすめ 97ロン- (E 5)
無鉛燃料要件		
最少 95 RON - (E10)		
おすすめ 97ロン- (E 5)		

テクニカルデータ

エンジンデータ

エミーラ V6

パワー出力 298 kW @ 6,800 rpm

アイドリング速度 750 ± 200 rpm

最大連続エンジン回転数 6,550 rpm *

最大瞬間エンジン回転数 6,800 rpm

*スポーツモードでは4速、5速、6速ですが、エンジンの状態により異なる場合があります。

エンジンデータ

エミーラ4気筒ターボ:

パワー出力 268 kW @ 6,500 rpm

アイドリング速度 830 rpm *

最大連続エンジン回転数 7000 rpm

最大瞬間エンジン回転数 7200 rpm

*スポーツモードとトラックモードでは 950rpm。

エンジンデータ

エミーラ4気筒ターボSE

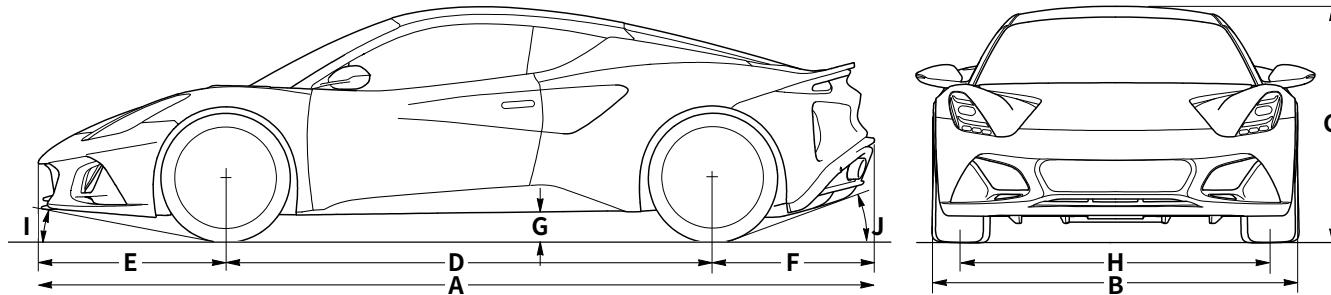
パワー出力 298 kW @ 6,500 rpm

アイドリング速度 830 rpm *

最大連続エンジン回転数 7000 rpm

最大瞬間エンジン回転数 7200 rpm

*スポーツモードとトラックモードでは 950rpm。



寸法

		重量
A	全長	4413 mm
B	全幅	1896 mm
C	全高*	1235 mm
D	ホイールベース	2570 mm
E	フロントオーバーハング	988 mm
F	リアオーバーハング	855 mm
G	地上高*	140 mm
H	トラックフロント	1624 mm
H	トラックリア	1610 mm
I	アプローチアングルフロント	9.2°
J	アプローチアングルリア	18.3°

*中荷重。

		車両総重量(最大)
	未搭載:	
	合計	1493kg
	フロント	572kg
	リア	921kg
	車両総重量(最大)	
	合計	1763kg
	フロント	690kg
	リア	1073kg
	最大許容質量 (GVW)	2 x 100kg + 荷物 50kg + シート後方の荷物置き場 20kg。

重量

		車両総重量(最大)
	未搭載:	
	合計	1500kg
	フロント	572.5kg
	リア	927.5kg
	車両総重量(最大)	
	合計	1770kg
	フロント	682.5kg
	リア	1087.5kg
	最大許容質量 (GVW)	2 x 100kg + 荷物 50kg + シート後方の荷物置き場 20kg。

テクニカルデータ

重量	バッテリー
エミーラ4気筒	タイプ
未搭載:	電圧(V)
合計 1455kg	CCA(EN)
フロント 567kg	Ah容量(C20)
リア 888kg	サイズ、L×B×H

車両総重量(最大)

合計	1745kg
フロント	681kg
リア	1064kg

最大許容質量(GVW) 2 x 100kg + 荷物
50kg + シート後方の荷物置き場20kg。

テクニカルデータ

タイヤ

ロードタイヤ

ミシュラン・パイロットスポーツカップ2

ポジション サイズ 負荷/速度定格

フロント 245/35 ZR 20 - 95 Y XL

リア 295/30 ZR 20 ~ 101 Y XL

サイドウォール指定マーク

LTS

LTS

グッドイヤー・イーグルF1スーパースポーツ

フロント 245/35 ZR 20 - 95 Y XL

リア 295/30 ZR 20 ~ 101 Y XL

LTS

LTS

推奨空気圧

ポジション 標準空気圧

フロント 2.0 bar (29 lb/in²)

リア 2.2 bar (32 lb/in²)

高速度空気圧*

2.2 bar (32 lb/in²)

2.4 bar (35 lb/in²)

ウィンタータイヤ

ミシュラン・パイロットアルペン PA

ポジション

フロント 235/35 ZR 20 - 92 W XL [†]

リア 285/30 ZR 20 - 99 W XL [†]

サイドウォール指定マーク

なし-標準ミシュラン

なし-標準ミシュラン

推奨空気圧

ポジション 冷間時の空気圧

フロント 2.6 bar (37 lb/in²)

リア 2.5 bar (36 lb/in²)

スノーチェーン

Konig CG - 9 105

ポジション

リア

* 270km/hを超える走行速度に対応する高速度空気圧。

† 時速270kmまでの路面速度に対応した冬用タイヤ。

タイヤ空気圧をモニターし、必要に応じて調整しないと、タイヤの早期磨耗や過度の磨耗を招きます。

索引

ESC「オフ」	201	布製のトリム	265	ハザードランプ	145
USBポート	160	手洗い	261	ブレーキライト	145
一般的安全性	213	推奨のタイヤ空気圧	229	緊急ブレーキライト	145
中央ディスプレイの概要	122	推奨のフルードおよび潤滑剤		ヘッドライトハイビーム/ロービーム	143
アプリランチャー	132	ウインドウォッシャーボトル	269, 270	ポジションライト	142
ウィジェット	137	エンジン	269, 270	リアフォグランプ	144
キーボード	134	エンジンおよび充電器冷却剤添加剤	269,	リバースライト	146
クイックパネル	131	270		ロービームライト	142, 143
システム設定	133	オートマチックトランスマッision	269	方向指示器	144
ディスプレイ操作	125	パワーステアリングシステム(PAS)	269, 270	照明スイッチ	142
デバイスの投影	126	ブレーキ&クラッチシステム	269, 270	照明スイッチ	142
ドライバーのプロファイル	138	マニュアルトランスマッision	269, 270	燃料ゲージ	67
ナビゲーションを表示	124	整備点検の通知	214	燃料消費(WLTP)	271
自動起動/自動解除	126	方向指示器	144	燃料給油	208
手動解除	126	日々の確認	215	フューエルフィラーキャップ	208
通知センター	127	時計	68	燃料缶の使用	209
事故イベントデータ	17	死角検出	111	燃料要件	209
交通標識の認識	108	毎週の点検	215	燃料缶の使用	209
充電	242	気温	169	燃料要件	209
冷間時のエンジン回転数	70	無線設備適合宣言	274	牽引アイボルト	259
前方衝突警告	114	照明	142	疲労アラート	105
自律型緊急ブレーキ	116	AUTO	142	発進後のロック	48
助手席エアバッグのスイッチ	38	アプローチライト	146	空気再循環	171
収納	158	ホームセーフティライト	146	空気分布	169
カップホルダー	158	インテリアライト	147	緊急キーブレード	54
グローブボックス	158	アンビエントライティング	148	緊急ブレーキライト	145
センターコンソール	158	オーバーヘッドコンソールスイッチ	147	自動温度設定	172
ドアポケット	159	カーテシーライト	148	自律型緊急ブレーキ	116
ラゲッジネット	159	グランドライト	148	著作権情報	17
外気温度	69	グローブボックス照明	147	車両カバー	212
子どもの拘束	33	トランク内のライト	147	車両の格納	211
適切なチャイルドシート	33, 35	バニティミラーライト	147	インテリアトリム	211
安全に関する情報	15	明るさの調整	148	エアコン	211
車両を運転する前に	16	デイタイムランニングライト	142	タイヤ	211
容量	271	トリップAリセット	144	バッテリー	211

索引

車両カバー	212	イモビライザー	56	ウォッシャー液のレベル	151
車体の手入れ	211	ロック＆アラームインジケーター	56		
車両の牽引	259	稼働中のアラームをオフにする	58		
牽引アイボルト	259	アラームと注意事項	14		
車両輸送車による牽引	260	ハンドブックに含まれるもの	14		
車両概要	21	車両の表示	14		
車両状態	82	アラーム記号の点灯	64		
車両輸送車による牽引	260	アルカンタラ・トリム	265		
車体の手入れ	211	アルコールインターロック	183		
車体底部の洗浄	262	アロイロードホイール	262		
車線逸脱警告	106	アンチロックブレーキシステム	194		
通気口	173	アンビエントライティング	148		
通知センター	127				
速度計	69				
過酷な使用条件	267				
重量	273				
電動パーキングブレーキ	197				
電子ステアリングコラムロック	166, 181				
電池交換	241				
電源ソケット					
12ボルト電源ソケット	159				
USBポート	160				
あ					
アクティブ・ハイビーム	143				
アクティブ電気モジュール冷却	174				
アダプティブラルーツコントロール	88				
アプリランチャー	132				
アプローチライト	146				
アラーム	56				
アラームの起動	57				
アラームの解除	57				
アラームレベルの低減	58				
アラーム/ロックプリセットのオプション	59				
い					
イグニッションモード	181				
インテリアクリーニング	264				
インテリアトリム	211				
インテリアライト	147				
インテリア空気洗浄システム	174				
う					
ウイジエットのオプション	76				
トリップコンピュータのリセット	81				
パフォーマンス	78				
マニュアルラップタイマー	79				
メディア	83				
車両状態	82				
ウインタータイヤ	231, 275				
ウインドウ	152				
挟み込み防止機能	152				
自動昇降	152				
ウインドウォッシャーボトル	269, 270				
ウインドウォッシャー・リザーバー	223				
ウインドシールドの清掃	262				
え					
エアコン	168, 211				
エアバッグ安全システム	36				
エアバッグ警告ランプ	36				
カーテンエアバッグ	41				
サイドエアバッグ	40				
シートベルトプリテンショナー	36				
助手席エアバッグのスイッチ	38				
エクステリアクリーニング	261				
エクステリアランプ	258				
フロントランプ	258				
リアランプ	258				
エミーラアプリ	13				
エレクトロニック・スタビリティ・コントロール	196				
エンジン	269, 270				
エンジンオイルのレベル点検	221				
エンジンおよび充電器冷却剤添加剤	269, 270				
エンジンクーラント	225				
エンジンデータ	272				
エンジンデータの記録	18				
エンジンの起動	182				
エンジンのスイッチを切る	184				
緊急起動	183				
エンジルーム	217				
エンジンを停止する	206				
エンジン冷却水温度計	68				
お					
オートクライメート	171				
オートマチックトランスマッision	269				
オーナーのメンテナンス	213				

ウインドウォッシャー・リザーバー	223	キーボード	134	パークアシストシステムセンサー	263
エンジンオイルのレベル点検	221	ギア表示	72	レザーとビニールトリム	265
エンジンルーム	217	キックダウン	189	布製のトリム	265
エンジン冷却水	225			手洗い	261
ステアリングフルードリザーバー	226			車体底部の洗浄	262
チャージクーラー膨張タンク	226	クイックパネル	131	クルーズコントロール	86
トラック走行	213	クライメートコントロールシステム	166	アダプティブルーズコントロール	88
ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検	227	アクティブ電気モジュール冷却	174	グローブボックス	158
ワイパー・ブレードの取替え	224	インテリア空気洗浄システム	173	グローブボックス照明	147
一般的安全性	213	エアコン	168		
整備点検の通知	214	オートクライメート	171		
日々の確認	215	クライメートコントロールスイッチ	168		
毎週の点検	215	クライメートファン	172		
オーバーヘッドコンソールスイッチ	147	デミスター	170		
か		ヒーテッドリアスクリーン/ドアミラー	170		
カーテシーライト	148	中央ディスプレイ	175	シート	163
カーテンエアバッグ	41	気温	169	シート/ドアミラー・メモリースイッチ	163
カップホルダー	158	空気再循環	171	シートのフォールド	165
カメラとレーダーの情報	119	空気分布	169	パワーシート	163
き		自動温度設定	172	シート/ドアミラー・メモリースイッチ	163
キー	44	通気口	173	シートベルト	30
キーフオブの作動範囲	45	クラッチペダル	185	ドア/シートベルトのリマインダー	32
キーフオブの電池	52	グランドライト	148	妊娠中のベルト着用	32
キーフオブを使ったテールゲートの解除	49	クリーニング	261	子どもの拘束	33
ロック	46	アルカンタラ・トリム	265	装着	31
ロック解除	45, 46, 47, 48, 49, 55, 216	アロイロードホイール	262	シートベルトのクリーニング	266
ロック解除のオプション	45	インテリアクリーニング	264	シートベルトブリテンショナー	36
外からのロック/ロック解除の確認	46	ウインドシールドの清掃	262	ジャンプスタート	243
緊急キーブレード	54	エクステリアクリーニング	261		
自動ロック	48	エンジンルームの清掃	262		
自動再ロック	47	シートベルトのクリーニング	266		
キーフオブの電池	52	スクリーンクリーニングモード	264		

索引

ステアリングホイールの調節 165
スノーチェーン 232, 275
スピードリミッター(自動) 98
スピードリミッター(調整式) 90
スポーツ&トラックモード 192
スポーツモード 200

せ
センターコンソール 158

そ
ソフトウェアのアップデート 18

た
タイヤ 206, 211, 228, 275
ウインタータイヤ 231
スノーチェーン 232
タイヤインフレーターキット 232
タイヤの空気圧の調整 230
タイヤ交換 231
タイヤ点検 228
タイヤ空気圧監視システム 235
推奨のタイヤ空気圧 229
タイヤインフレーターキット 232
タイヤの空気圧の調整 230
タイヤ交換 231
タイヤ点検 228
タイヤ空気圧監視システム 235
タコメータ 69

ち
チャージクーラー膨張タンク 226
チャイルドシートの設置 34

つ

ツアーモード 200

て

テールゲート 50
テールゲートのリフトアップ 50
テールゲートを閉める 50
緊急リリースハンドル 51
キャビン内 51
トランク内 51
デイタイムランニングライト 142
テクニカルデータ 268
ウインタータイヤ 275
エンジンデータ 272
スノーチェーン 275
タイヤ 275
バッテリー 274
ロードタイヤ 275
容量 271
燃料消費(WLTP) 271
重量 273
デバイスの投影 126
デミスター 170

と

ドア

ドアスイッチ 48
外側からドアを開ける 47
発進後のロック 48
ドアオーブン警告 113
ドアポケット 159
ドアミラー 153
ドアミラーガラスの調整 153
ドアミラーの折りたたみ 154

パーキング中の手動角度調整 154
パーキング中の自動角度調整 155
ロック時の自動折りたたみ 154
ドアロック 266
ドライバーディスプレイ 61
ウィジェットのオプション 76
エンジン冷却水温度計 68
ギアシフトインジケーター 72
ギア表示 72
タコメータ 69
ツアーモード 61
トラックモード 62
スポーツモード 61
ドライブモード表示 72
パフォーマンス・ギアシフト・ライト 70
外気温度 69
時計 68
燃料ゲージ 67
表示記号 62
システム状態を表す表示記号 63
アラーム記号の点灯 64
速度計 69
ドライバーのプロファイル 138
ドライブモード 200
ESC「オフ」 201
スポーツモード 200
ツアーモード 200
ドライブモードの変更 202
トラックモード 201
ドライブモードの変更 202
ドライブモード表示 72
トラクションコントロールシステム 195
トラックモード 201
トラック走行 213
トランク内のライト 147

トランスマッision	184
オートマチックトランスマッision	185
ギアセレクター	186
キックダウン	189
スポーツ&トラックモード	192
クラッチペダル	185
マニュアルトランスマッision	184
リバースギアの選択	185
トリップAリセット	144
トリップコンピュータのリセット	81
 な	
ならし運転	204
エンジン	206
エンジンを停止する	206
タイヤ	206
ブレーキ	206
 は	
パーキングアシストカメラ	103
パークアシストカメラレンズ	263
パークアシsstシステム	101
パークアシsstシステムセンサー	263
ハイドロリック・ブレーキ・アシスト	195
ハザードランプ	145
バックミラー	155
手動調光	155
自動調光ミラー	156
バッテリー	211, 241, 274
ジャンプスタート	243
充電	242
電池交換	241
バニティミラーライト	147
パフォーマンス	78

パフォーマンス・ギアshift・ライト	70
パワーステアリングシステム(PAS)	269, 270
ハンドブック情報	
エミーラアプリ	13
ロータス・カーズのウェブサイト	13
 ひ	
ヒーテッドリアスクリーン/ドアミラー	170
ヒューズ	244
ヒューズの交換	244
ヒューズの交換	244
ヒルスタートアシスト	199
 ふ	
フットブレーキ	193
フューエルフライーキャップ	208
ブレーキ	206
ブレーキ&クラッチシステム	269, 270
ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検	227
ブレーキシステム	193
アンチロックブレーキシステム	194
ハイドロリック・ブレーキ・アシスト	195
ヒルスタートアシスト	199
フットブレーキ	193
ブレーキパッド	194
ブレーキペダル	193
電動パークィングブレーキ	197
ブレーキパッド	194
ブレーキペダル	193
ブレーキライト	145
フロントアクセスパネル	216
フロントランプ	258

 へ	
ヘッドライトハイビーム/ロービーム	143
 ほ	
ホームセーフティライト	146
ホーン	165
ホイール	237
ホイールの交換	238
ホイールの交換	238
ポジションライト	142
 ま	
マニュアルトランスマッision	269
マニュアルラップタイマー	79
 め	
メディア	83
 ら	
ラゲッジネット	159
 り	
リアクロストラフィックアラート	110
リアフォグランプ	144
リアランプ	258
リバースライト	146
 れ	
レザーとビニールトリム	265

ろ

ロータス・ローンチコントロール	72
ロードタイヤ	275
ロービームライト	142, 143

わ

ワイパー/ウォッシャー	150
ウインドシールドウォッシャー	151
ウォッシャー液のレベル	151
レインセンサーワイプ	151
ワイパー	150
断続ワイプ	150
連続ワイプ	150
ワイパープレードの取替え	224

本書に掲載されている日本市場向けの情報は、以下に示す印刷時点において正確なものとします。ロータスには、常に継続的に製品改良するという方針があり、本書に記載されている内容に関して、予告なく仕様、デザイン、機器の廃止や変更を行う権利を有しています。ロータスディーラーと定期的に連絡を取り、車両の仕様や、性能、安全性を向上させる可能性のある技術開発について常に情報を入手するようにしてください。